

種市町内遺跡詳細分布調査報告書 I

<角浜・伝吉・平内・麦沢(姥沢) 地区>

2005.3

岩手県種市町教育委員会

種市町内遺跡詳細分布調査報告書 I

<角浜・伝吉・平内・麦沢(姥沢) 地区>

序

種市町は岩手県の最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、東は太平洋、西は軽米町・大野村、南は久慈市に接する自然豊かな漁業と農林業の町です。町内には多くの文化財が残されております。先人の残したこれらの貴重な文化遺産を保護・保存し、後世に伝えていくことは、現代に生きる私たち町民に課せられた重大な責務であります。本町では遺跡の分布状況や内容等を把握し、開発事業と埋蔵文化財行政との調整を図り、埋蔵文化財の保護・活用を適切に行うため、平成16年度から町内の遺跡詳細分布調査を実施することといたしました。

本報告書は平成16年度の調査成果をまとめたものです。本年度は角浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢）地区を対象に調査をしたところ、43カ所の遺跡が新規に発見されました。今後この調査の成果を生かし、埋蔵文化財保護行政を円滑に運営していきたいと考えております。

最後になりましたが、この調査の実施及び報告書作成にあたり、多大なご助言ご指導をいただきました関係各位、調査にご協力いただきました町民の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成17年3月

種市町教育委員会

教育長 工藤 保

例 言

1. 本報告書は、平成 16 年度に国庫補助金の交付を受けて種市町教育委員会が実施した種市町内遺跡詳細分布調査事業の成果を収録したものである。
2. 本年度は調査の初年度にあたり、角浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢）地区を対象に実施した。
3. 調査体制は次のとおりである。
調査担当 千田政博
野外作業・整理作業 磯谷秀子
4. 本報告書の作成にあたり、編集・構成・写真撮影等は千田政博が行った。
5. 原稿の執筆は第三章を松山 力氏が行い、それ以外は千田政博が行った。
6. 石器の石材鑑定は松山 力氏に依頼した。
7. 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図・5 万分の 1 地形図、種市町役場所有の 2 万 5 千分の 1 種市町管内図、北上山系開発調査図種市図の 1 万分の 1 図である。
8. 野外調査、整理作業及び本報告書の作成に際しては、下記の方々・機関から、ご指導・ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順・敬称略）
安達尊伸、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課、宇部則保、大野 亨、大畑英明、小原眞一、川向聖子、君島武史、日下和寿、工藤竹久、熊谷 賢、児玉大成、斉藤慶吏、佐々木清文、佐藤嘉広、設楽政健、柴田慈幸、菅原 修、高木 晃、千葉啓蔵、手塚新太、東本茂樹、藤田直行、森 淳、森 一欽、山口 巖
9. 調査で得られた出土遺物や整理に関わる諸記録等については、種市町教育委員会が保管・管理している。

目 次

序
例 言
目 次

本 文

I. 種市町の概要		
1. 種市町の概要	1	1
2. 歴史的沿革	1	1
II. 遺跡詳細分布調査の概要		
1. 調査に至る経緯	4	4
2. 野外調査について	4	4
3. 室内整理作業について	5	5
III. 調査区の地理的環境		
1. 種市町の地形	7	7
2. 種市町の地質	8	8
3. 本年度調査区の地形・地質について	10	10
IV. 遺跡詳細分布調査の成果		
1. 二十一平遺跡	22	22
2. 堆中山 I 遺跡	30	30
3. 堆中山 II 遺跡	30	30
4. 角浜遺跡	31	31
5. アイヌ森遺跡	31	31
6. 角川目 I 遺跡	33	33
7. 角川目 II 遺跡	35	35
8. 田ノ端遺跡	36	36
9. 笹花 I 遺跡	36	36
10. 笹花 II 遺跡	37	37
11. 笹花 III 遺跡	37	37
12. 笹花 IV 遺跡	38	38
13. 伝吉 I 遺跡	39	39
14. 伝吉 II 遺跡	46	46
15. 伝吉 III 遺跡	47	47
16. 伝吉 IV 遺跡	47	47
17. 伝吉 V 遺跡	48	48
18. 北ノ沢 I 遺跡	48	48
19. 北ノ沢 II 遺跡	51	51
20. 北ノ沢 III 遺跡	52	52
21. 北ノ沢 IV 遺跡	52	52
22. 北ノ沢 V 遺跡	53	53
23. 北ノ沢 VI 遺跡	54	54
24. 北ノ沢 VII 遺跡	55	55
25. 北ノ沢 VIII 遺跡	55	55
26. 北ノ沢 IX 遺跡	56	56
27. 北ノ沢 X 遺跡	56	56
28. 北平内 I 遺跡	57	57
29. 北平内 II 遺跡	57	57
30. 北平内 III 遺跡	58	58
31. 北平内 IV 遺跡	58	58
32. 北平内 V 遺跡	59	59
33. 北平内 VI 遺跡	61	61
34. 浜平内遺跡	61	61

35. 平内Ⅰ遺跡	62	44. 西平内Ⅱ遺跡	71
36. 平内Ⅱ遺跡	63	45. 石倉遺跡	71
37. 平内Ⅲ遺跡	64	46. 東平内Ⅰ遺跡	72
38. 平内Ⅳ遺跡	64	47. 東平内Ⅱ遺跡	72
39. 平内Ⅴ遺跡	66	48. 東平内Ⅲ遺跡	73
40. 南平内Ⅰ遺跡	67	49. 姥沢Ⅰ遺跡	73
41. 南平内Ⅱ遺跡	69	50. 姥沢Ⅱ遺跡	75
42. 南平内Ⅲ遺跡	69	51. 姥沢Ⅲ遺跡	76
43. 西平内Ⅰ遺跡	70	52. 姥沢Ⅳ遺跡	78
V. 調査のまとめ	100		
報告書抄録	103		

図 版

第1図 調査範囲図	3	第6図 遺跡範囲図B	17
第2図 調査区と周辺の地形面区分図	11	第7図 遺跡範囲図C	18
第3図 分布調査遺跡位置図	14	第8図 遺跡範囲図D	19
第4図 遺跡範囲図割付図	15	第9図 遺跡範囲図E	20
第5図 遺跡範囲図A	16	第10図 遺跡範囲図F	21

表

第1表 遺跡台帳書式	6	第14表 土器・土製品観察表(10)	88
第2表 岩手県北東部地域の段丘(面)と対比	7	第15表 土器・土製品観察表(11)	89
第3表 分布調査遺跡一覧表(1)	12	第16表 土器・土製品観察表(12)	90
第4表 分布調査遺跡一覧表(2)	13	第17表 土器・土製品観察表(13)	91
第5表 土器・土製品観察表(1)	79	第18表 土器・土製品観察表(14)	92
第6表 土器・土製品観察表(2)	80	第19表 土器・土製品観察表(15)	93
第7表 土器・土製品観察表(3)	81	第20表 石器観察表(1)	94
第8表 土器・土製品観察表(4)	82	第21表 石器観察表(2)	95
第9表 土器・土製品観察表(5)	83	第22表 石器観察表(3)	96
第10表 土器・土製品観察表(6)	84	第23表 石器観察表(4)	97
第11表 土器・土製品観察表(7)	85	第24表 石器観察表(5)	98
第12表 土器・土製品観察表(8)	86	第25表 石器観察表(6)	99
第13表 土器・土製品観察表(9)	87	第26表 本年度調査区の時代別遺跡一覧表	101
		第27表 本年度調査区の種別遺跡一覧表	101

I. 種市町の概要

1. 種市町の概要

種市町は北上山地北東部、岩手県の最北端に位置する。東は太平洋、北は青森県三戸郡階上町、西は軽米町・大野村、南は久慈市と隣接する。経緯度は東経 141° 35′ 04″ ～ 141° 47′ 57″、北緯 40° 16′ 07″ ～ 40° 26′ 51″ で、東西 18.2km、南北 19.9km、総面積は約 168.51 km² である。町の北西部には種市（階上）岳（740.1m）や久慈平岳（706.3m）がそびえ、両岳から東に向けて緩やかな丘陵地が広がり、2 級河川の川尻川・有家川・高家川をはじめとする中小河川が太平洋にそそぐ。

土地の利用状況は山林・原野が総面積の 80% を占め、農地は 8%、宅地はわずか 2% である。交通網は青森県と岩手県沿岸部をつなぐ JR 八戸線と国道 45 号線が海岸線に沿って南北に併走しているほか、主要地方道軽米種市線、県道明戸種市線、県道明戸八木線等が町内横断道として県内陸部とを結ぶ路線となっている。

気候的には海拔 100 m 前後を境として気温・降水量等に差異が見られ、大きく西部山岳地域と東部海岸地域に大別される。西部山岳地域は夏季は東部海岸地域に比べて気温が 4～5 度高く、冬季は積雪が多く内陸型の気候を示す。東部海岸地域は海洋気候の影響を受け、春から夏にかけて吹く「ヤマセ」（太平洋から吹きつける塩分を含んだ冷風）に伴う濃霧が発生するため湿度が高く、日照時間も西部山岳地域に比べ短い気候条件下にあり、古来農作物に多くの冷害をもたらしてきた。

種市の名はアイヌ語の「タンネエズ」（長い鼻）に由来するという説、タナ（段丘）・イチ（険しい地形）の転で「崖上の海岸段丘」の意味であるという説等がある。漁業と農林業の町で、ウニとシイタケは岩手県屈指の生産量を誇り、中世以来の馬の産地でもあった。本町の人口動向は昭和 30 年の町村合併時の 16,528 人から昭和 35 年には 17,625 人へと一時的に増加したものの減少傾向が続き、平成 13 年には 15,021 人、平成 16 年時点で 14,477 人である。古くから基幹産業として本町経済を支えてきた農業や水産業などの第一次産業では就業者数の減少が続く一方で、第二次産業及び第三次産業では確実に増加する傾向にあり産業構造の高次化が進んでいる。

また、本町はヘルメット式潜水による南部もぐり（潜水土）の発祥の地として全国的にも知られている。明治 31 年（1898）に潜水技術が伝えられて以来名潜水土と呼ばれる人々を数多く輩出し、港湾土木・海難救助・橋脚工事・沈船解体等国际的な分野でも活躍している。岩手県立種市高等学校の海洋開発科は潜水と土木の基礎知識を学ぶことができる学科で、近代的潜水土の養成が進められている。

2. 歴史的沿革

中世以前については不明な部分が多い。八木地区で古墳時代剣形の石製模造品が見つかっており、当該期の遺跡があった可能性を示す。角浜地区の海岸付近に千人塚供養碑がある。陸奥出羽の按察使の文室綿麻呂が爾薩体・幣伊の蝦夷を攻略した弘仁 2 年（811）、夏秋頃の鎮守府副将軍百濟王雲教により撃破され、千人もの蝦夷が殺害され埋められたため供養したものと伝えられている。飛鳥時代～

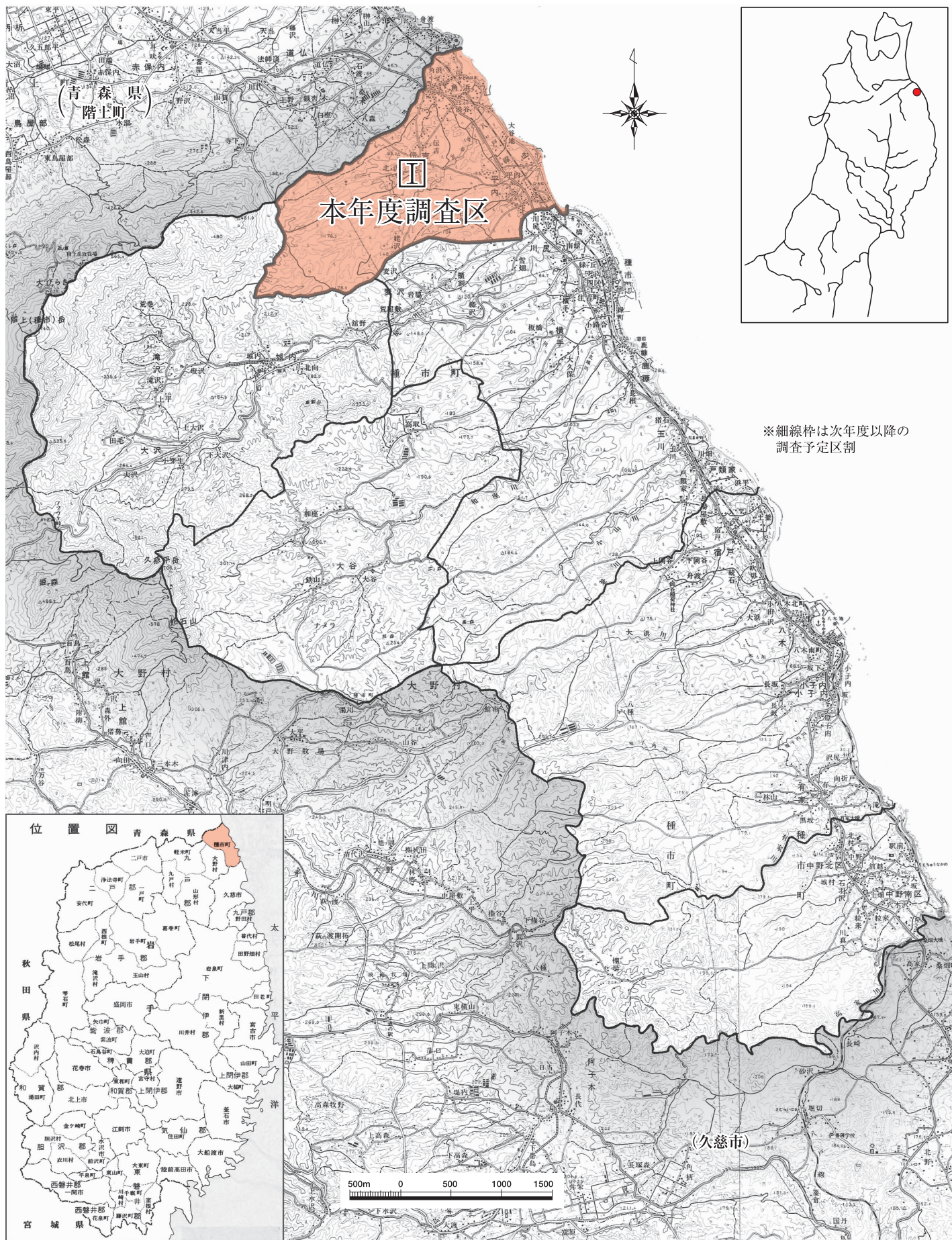
平安時代については八戸地域での発掘調査成果から様相が明らかになってきているが、本町では古代の集落の発掘調査事例がないため詳細は不明であるが、城内地区で以前から土師器等奈良・平安時代の遺物の出土があることから当該期の集落跡があることが予想される。今後蝦夷の時代の解明が期待される。

種市の名が初めて文献資料に登場するのは鎌倉時代末期である。正安3年(1301)是川安藤三郎の妻きぬ女家族申状に「ひかしのかと、たね一のもくし、きとう四郎・・・」と新渡戸文書に「たねいち」の名称が出てくる。糠部郡の内の東門に属していたことが知られ、中世は南部氏の支配地であったようである。岩手県遺跡台帳には“平城”の種市城と“山城”の種市城が城館跡として登録されている。城内地区の中心地が平城の種市城跡であり、その南方約1kmに山城の種市城が位置する。種市氏の居城で、種市中務は南部晴継の家臣であったことが知られている。天正20年(1592)の「諸城破却書上」によれば、破却の対象となっている。現在も平城の種市城跡には「神楽屋敷」「的場」「馬場屋敷」等の地名が残っており、中世末期は城内地区が種市の中心地であったと見られる。

江戸時代になり寛文4年(1664)南部藩が盛岡南部藩と八戸南部藩に分割されたことにより、種市は八戸南部領になった。種市村は八戸廻種市名主、中野村・有家村・小子内村は久慈通大野名主に属した。経済基盤は馬の飼育、ヒエ・大豆等雑穀が主体の畑作農業、漁業、製鉄、製塩であった。九戸地方には鉄の原料となる砂鉄や原料になる木炭が豊富であったため、たたら製鉄が行われ大谷地区には大野六鉄山の一つである大谷鉄山があり、密銭も盛んに作られていたようである。製塩については八戸藩の日記などによると町内にも塩釜があったことが記されている。延享4年(1747)に八戸藩領内には73の塩釜があったことから重要な産業であったことがうかがえる。明治6年(1873)の資料では八木から角浜まで25の塩釜があり、明治14年(1881)の岩手県統計書には種市町内に35の塩釜があったことが記されている。

また、江戸時代には金の採取が行われたようである。慶安2年(1649)の古文書によれば、ノソウゲ・沢尻・雪畑・小手野沢の4ヶ所で砂金を採り税金を納めていたとのことである。その内のノソウゲ・小手野沢は遺跡登録されている。なお、近世の遺跡で有家地区に砲台場跡である有家御陣屋跡が所在する。外国船警戒のため海岸防備政策をとる幕府の命令により、八戸藩は寛政5年(1793)に領内6ヶ所に役人の詰所である陣屋と大砲設置の台場を構築した。町指定文化財となっており、八戸線(現JR八戸線)の工事により破壊されたが、現在も土塁の一部が残存する。外国船の発見時は昼はのろし、夜はたいまつによる通報方法をとっていたようで、町内には中野・有家・小子内・宿戸・戸類家・鹿糠・小橋・角浜にのろし穴が設置されていた。

明治の廃藩置県により、明治4年(1871)種市村・中野村・有家村・小子内村は八戸県、弘前県、青森県を経て同年11月には盛岡県となり、明治5年(1872)に岩手県となった。明治22年(1889)の市制町村制施行により、中野・有家・小子内の3ヶ村が合併し中野村が成立し、種市村は一村で存続、明治30年(1897)に九戸郡所属となる。昭和26年(1951)の町制施行により種市町となり、その後昭和30年(1955)2月11日には町村合併促進法に基づき当時の種市町と中野村が合併し今日に至っており、平成17年(2005)で合併50周年になる。



※細線枠は次年度以降の調査予定区割



第1図 調査範囲図

Ⅱ. 遺跡詳細分布調査の概要

1. 調査に至る経緯

種市町内における埋蔵文化財の調査研究は、昭和7年に小田島祿郎氏が本町（当時は種市村）を訪れ、遺物の採集を行ったのを嚆矢とする。同氏が採集した田の沢遺跡・八木貝塚の遺物は、現在岩手県立博物館に収蔵されている。昭和32に慶応義塾大学江坂輝彌氏により戸類家遺跡の調査が行われ、土器・石器・土偶が出土している。その後昭和36年には岩手大学草間俊一氏により中野地区に所在する大宮遺跡の調査が行われ、縄文時代早期の貝殻文土器が出土した。草間氏は岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器であり、発見されたことは多大な成果であったと報告している。また、草間氏は小路合地区に所在するゴッソー遺跡の調査も行い、縄文時代早期の土器・弥生土器・土師器を採集したと報告している。同遺跡はその後平成6年と平成12年に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われ、縄文時代早期～晩期の土器等が出土している。特に平成6年度の調査では前期初頭の土器の出土量が豊富で、岩手県で初めての出土と見られる前期初頭のコンパス文土器や押し型文土器が出土した他、遺構には伴わないが早期の日計型押し型文土器・魚骨回転文土器・貝殻文土器が出土している。

なお、ホックリ貝塚出土の縄文時代の製塩土器、前述した八木地区出土の石製模造品も岩手県で初めて確認されたものであった。

種市町教育委員会では平成11年～13年度にかけて平内Ⅱ遺跡発掘調査を行っており、土坑・陥し穴状遺構等が検出され、遺跡の一部は狩猟場跡であることが判明した。遺物は縄文時代中期末～後期前葉の土器・石器・近世の釘・絵銭・煙管が出土している。

遺跡詳細分布調査事業着手以前の町内の遺跡数は72であった。これは昭和36年度岩手県遺跡台帳作成調査時のものが基本となっており、正確な遺跡台帳・遺跡範囲図が未整備であった。近年増加している各種開発の際の埋蔵文化財保護行政との迅速な調整を図り、遺跡の周知や保護のため町内遺跡詳細分布調査を行うこととした。本年度は初年度であり調査範囲は第1図のとおりである。町の北側から調査を開始することとし、青森県境に接する角浜地区・伝吉地区、平内地区、麦沢地区の一部である姥沢地内を対象として分布調査を行った。

2. 野外調査について

野外調査は踏査によって行った。本町では発掘調査の事例が少ないため参考にする調査成果が少ない。また、耕作地であった所が植林され現在では約8割が山林・原野であるため遺物の散布状況を把握し難く、町文化財調査員や多くの地元住民の方々から土器片・石器・鉄滓等の採集情報や土地の改変状況を聞きとりながら踏査を行った。特に鉄滓は沢中に存在する所もあるが、元畑地として耕作された後植林されている所が多かったため移植ベラを用いて軽い掘削作業を行った。本年度発見した鉄滓のほとんどが掘削により発見したものである。前述のとおり九戸地域は江戸時代にたたら製鉄が盛

んに行われた地域である。元野田村教育長田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、町内には12ヶ所の鉄山跡及び密銭場跡・鍛冶場跡等合計15カ所の製鉄関連の所在調査報告がある。この他にも近世の製鉄関連の遺跡が多数所在することが予想され、沢を持つ山林の踏査が必須である。

また、町内ではホックリ貝塚・ゴッソー遺跡・竹の子遺跡から縄文時代の製塩土器片が出土しており、本年度調査区の海岸にある二十一平遺跡では古代の製塩土器が出土し、製塩遺跡として登録されている。海岸付近には製塩遺跡が所在するものと考えられ、汀線とその近辺には特に注意が必要である。以上のことから本町で分布調査を行う場合は、この製鉄関連遺跡の把握と製塩遺跡の確認を重点課題とし、調査対象は畑地を中心に波打ち際から沢を持つ山林までほぼ全域が調査対象であり、踏査に多くの時間を要した。

踏査の採集記録等に関しては第1表の遺跡台帳用のカードを用いて記載した。また、遺跡の近景写真の撮影には35mmカメラ2台（モノクローム・カラーリバーサル）を使用した。

3. 室内整理作業について

室内整理作業は採集遺物の水洗後注記作業を行い、土器類については接合・復元作業の順に進めた。その後報告書掲載用のものを選別し、登録作業・実測・拓影図作成・トレース・写真撮影を行い、遺物図版・写真図版を作成した。また、これらの作業と併行して遺物の観察表作成、原稿執筆を行い、報告書の編集作業を行った。写真撮影は35mmカメラ1台（モノクローム）を使用した。

本報告書に掲載した遺物写真と実測図・拓影図の縮尺は同一とした。1/1・1/2・2/3・1/3で、いずれも遺跡ごとにスケールで示した。実測図の作成については、土師器以外の土器と一部の遺跡の石器を行い、製鉄関連の遺物については写真のみの掲載とした。

遺物観察表中法量の（ ）は残存値、〈 〉は推定値を表す。

遺 跡 台 帳

項目番号	整 理 番 号		登 録 年 度	
1	町 遺 跡 番 号		県 遺 跡 コ ー ド	
2	遺 跡 名	よ み か た		
3	所 在 地	大字 第 地割		
4	遺 跡 の 種 別	散布地・集落跡・貝塚・城館跡・古墳・生産遺跡（製鉄関連・製塩）・その他（ ）		
5	時 代	旧石器・縄文（草創期・早期・前期・中期・後期・晩期）・弥生・古墳・奈良・平安 中世・近世・備考（ ）		
6	遺 物			
7	現 況	宅地（ ） 水田（ ） 畑地（ ） 山林（ ） 道路（ ） 原野（ ） その他（ ）		
8	規 模	北 緯	東 経	標 高
				全体 m× m m
9	立 地	段丘・平地・台地・丘陵地・山地・その他（ ）		
10	土 地 所 有 者			
11	発掘調査の有無			
12	分 布 調 査 の 状 況			
13	所 見 (保存の状況等)			
修正項目	修正年月日	修正後の内容（修正箇所は朱抹のこと）		修正者

第 1 表 遺跡台帳書式

Ⅲ. 調査区の地理的環境

八戸市文化財審議委員 松山 力

1. 種市町の地形

種市町は、北上高地（北上山地）最北端の種市岳（階上岳、標高 740 m）の稜線で青森県に接し、東は太平洋で区切られる。北部と西部は、種市岳と、種市岳山頂から南に続く久慈平岳（標高 706 m）などの山地で占められるが、大部分（その東方と南半部）は、太平洋に向かって次第に高度を下げる丘陵・段丘群（高度おおむね 250 m 以下）で構成されている。

丘陵・段丘群は、これを刻む河川によっていくつもの細長い帯状台地に分かれている。また、それぞれの帯状台地は、急傾斜面あるいは相対的に傾斜の大きい斜面などによって幾段にも分かれている。

段丘とは、平坦地や緩起伏地（段丘面・緩起伏面）とその周りの急斜面（段丘崖）で構成される階段状の地形のことである。また丘陵とは、一般に 200m～600 m 以下で、起伏が山地より小さくて平野よりも大きく、谷による開析（浸食）が進んで頂部が丸みを帯び、側面が比較的急な斜面の組み合わせの集合地形（平凡社、地学事典など）のことである。多くの丘陵の原地形は段丘であることから、丘陵も段丘として扱うことがある。

筆者は種市町の丘陵・段丘（面）について、低い方から高い方へ、第 2 表のように区分・対比した。

岩手県北東部			青森県南東部		
本報告（数は面高度＝海拔：単位は m）			松山力（2003）	大池昭二ら（1970）	
海岸・谷底平野			沖積地	海岸・谷底平野	
沖積段丘	大谷地面	10～20	大谷地段丘		
種市段丘	平内面	20～40	種市段丘	根城段丘・湊段丘	
	横手面	30～60	川尻段丘	高館段丘	
白前段丘	雪畑面	50～80	白前段丘	天狗岱段丘	野場段丘
	伝吉面	70～100			白銀平段丘
九戸段丘	姥沢面	90～145	九戸段丘	蒼前平低位段丘	
	麦沢面	130～190		蒼前平高位段丘	
	高取面	170～220			

第 2 表 岩手県北東部地域の段丘（面）と対比

大谷地段丘は大谷地付近の海食崖（段丘崖）の縁の高度が10 m以下の沖積段丘で、平坦面がよく残されている。段丘堆積物の上の最下部火山灰は八戸火山灰層である。

種市段丘は面高度がふつう高度が50 m以下で、高館火山灰層以上の火山灰をのせる。種市町では、高度30～35 m以下の部分で平坦面がよく残されているが、それ以上の高度では面勾配がやや大きく、緩やかに起伏する。前者を平内面、後者を横手面とした。平内面下では高館火山灰層の下部を欠いている。

白前段丘は八戸付近の天狗岱段丘に相当する。面高度がふつう50～100 mで、天狗岱火山灰層以上の火山灰をのせている。一般に緩やかに起伏する丘陵地で、下位の種市段丘面とはやや急傾斜の斜面で接するが、ところによって高度差が数～10 mの、明瞭な段丘崖が認められる。面高度70～80 mにもやや急な斜面部やところによって数mの段丘崖があり、これより低い面を雪畑面、高い面を伝吉面とした。

九戸段丘は、おおむね八戸付近の蒼前平段丘に相当し、九戸火山灰以上をのせているものと考えられる。面高度120～135 mと、170～180 mの平頂部にやや急な斜面や段丘崖が認められることから、下・中・下位の3段に分け、それぞれ姥沢面、麦沢面、高取面としたが、天狗岱火山灰層より下位の構成火山灰の全容を示す露頭に乏しく、面区分の適否を含めた今後の調査が必要である。

2. 種市町の地質

種市町の基盤（土台となっている地層・岩石）は、中生代（2億4千万年～6500万年前）白亜紀（約1億5千万年～6500万年前）に形成された地層と花こう岩類・火山岩類で、その上に第四紀（165万年前～現在）の地層がのっている。

白亜紀の地層は、鎌田耕一郎ら（1991）によれば前期と後期に分けられる。前期の地層は久慈平岳山頂東部から数百m幅で西北西の県境へのびる地帯に分布する粘板岩・砂岩が主で、薄いチャートやレンズ状の石灰岩が含まれる。後期の地層は、八戸市から海岸に沿って有家川河口付近までのJR八戸線と海岸線にはさまれた地帯に分布している。そのうち、八戸市から角浜を経て渋谷川河口付近まではデイサイト・流紋岩などが貫入する火山碎屑岩、渋谷川河口から有家川河口付近までは砂岩で礫岩（れきがん）や凝灰岩を伴っている。この砂岩を主とする地層は、種市層と呼ばれている。

以上の地層やデイサイト・流紋岩などの分布は、種市町全体から見れば一部分だけで、ほぼ全域が白亜紀前期に形成されたとされる花こう岩類で占められている。花こう岩類の表面部は多くの場所で風化が進んで分解され、崩れやすい砂塊に変化している。花こう岩類が風化・分解した砂塊をマサという。

第四紀の地層は、水底に堆積した水成堆積物と、その上を覆う火山碎屑物（地上堆積物）である。水成堆積物は海底や河川底（大部分は氾濫時）に堆積した礫・砂・泥・火山灰などで構成され、湿原に形成される泥炭層をはさむところもある。多くは段丘を構成する地層となっていることから、段丘構成層と一括して呼ばれ、形成した時期は段丘の新旧によって異なる。火山碎屑物層は噴出源が火山から離れた場所ほど火山灰が卓越するが、火山灰や軽石などの降下火山碎屑物と、火砕流堆積物など

で構成されている。

青森県東部から岩手県北東部にかけて分布する陸上堆積の火山碎屑物層は、形成時期によって古い方から新しい方へ、九戸火山灰層、天狗岱火山灰層、高館火山灰層、八戸火山灰層、完新世（沖積世、1万年前～現在）火山碎屑物層群に分けられている。

九戸火山灰層はよく締まった暗褐色火山灰層で、それぞれに特徴ある粘土化軽石層を数枚はさんでいる。軽石層の一部に黒雲母を含むのが特徴である。厚さは久慈市域で最大9mのところあるが、種市町域では数m以内である。町内には、現時点で全層序が残された露頭がなく、詳細は不明である。西方と南方に厚さを増す傾向があるので、おもな噴出源は岩手山・八幡平火山群と思われる。

天狗岱火山灰層は締まった暗褐色火山灰層で、それぞれに特徴ある粘土化軽石層を数枚以上はさんでいる。種市岳周辺域から南方でその厚さは数m以内であるが、町内では全層序が露出する場所に乏しく、層厚・層相の分布状態の全容は明らかでない。はさまれる軽石層の多くが、八甲田火山群に向かって厚さと軽石粒の粒度を増すことから、噴出源はおもに八甲田火山群と考えられる。

高館火山灰層は、種市町域以南では種市火山灰層とも呼ばれる。締まってはいるが軟らかい明褐色～黄褐色火山灰層で、それぞれに特徴ある粘土化軽石層を数枚はさんでいる。厚さは2～4mで、はさまれる軽石層と軽石層間の火山灰層が、いずれも十和田湖に向かって厚さと軽石粒の粒度を増し、ほとんどが十和田火山から噴出したものである。種市町域では未確認であるが、軽米町以西では、高館火山灰上部に、少なくとも一枚の火砕流堆積物（軽石流凝灰岩）が存在する。

八戸火山灰層は比較的未風化状態の火山灰と軽石との互層で、県境以北の八戸市周辺では、下位から火山灰層、軽石層の繰り返しで重なり、Ⅰ～Ⅵ層の6層に区分されている。このうちⅡ層（軽石層）とⅢ層（火山灰層）は厚さが数cm前後、Ⅰ層（火山灰層）は40～50cm、Ⅳ層（軽石層）とⅤ層（火山灰層）は25～35cmである。Ⅵ層（軽石層）の厚さは10～30cmであるが欠如する場所も多い。以上の合計層厚は100～140cmである。Ⅵ層の上には数十cmの褐色火山灰層がのり、その上が地表直下の腐植土類に移行している。Ⅱ・Ⅲ層は隣接する階上町付近で消滅し、Ⅳ層は南方へ急激に薄くなって種市町では薄い軽石列として存在するにすぎない。Ⅰ層は種市町北部までは厚さにさほどの変化はないが、南部では南方に薄くなる。八戸付近のⅠ層上半には、目立たない状態で横並びに軽石が集まる部位があるが、この部位は、種市町中央部でⅠ層中位にはさまれる厚さ数cmの軽石層となっている。Ⅵ層は県境付近で厚さが15cm前後、八木付近で数cm前後と南方に薄くなり消滅する。

種市町域では確認されていないが、軽米町以西の谷壁では、Ⅵ層の上に火砕流堆積物（八戸浮石流凝灰岩）がのっている。火砕流堆積物は十和田湖に近づくほど厚くなるとともに、それ自体で台地となっている場所が広がる。

地表直下の腐植土層はほとんどが暗褐色～黒褐色～黒色を呈しているため、黒色土類と総称する。

青森県東南部から岩手県北西部にかけての黒色土類中には、十和田火山から噴出・降下した二ノ倉火山灰層、南部浮石層、中振浮石層、十和田b降下火山灰層、十和田a降下火山灰層と、朝鮮半島基部の白頭山起源の苦小牧火山灰層が、場所によって全部が、場所によってそのうちの一部がはさまれている。これらの火山碎屑物層は、最近慣用的に南部軽石（層）、中振軽石（層）、十和田b（火山灰）、

十和田 a (火山灰) などと呼ぶ研究者が多くなってきた。

種市町域では、南部浮石層が広く分布するが、成層した中振浮石層と十和田 b 降下火山灰層はほとんど見られず、その構成火山灰粒が黒色土中に混合あるいはばらつき状態で含まれるにすぎない。二ノ倉火山灰層は直接降下層としては降下地域から遠くて分布しない。十和田 a 降下火山灰層と苦小牧火山灰層は、埋没小凹地（遺構や小谷など）などに、最大層厚数 cm 厚さで垂れ下がり状に残されている場所がある。

3. 本年度調査区の地形・地質について

渋谷川河口付近から J R 平内駅付近までの海岸線は大谷地段丘の海食崖で、基盤の種市層の上に八戸火山灰層がのっている。一部に高館火山灰層の最上部相当様の褐色火山灰がのるが、確認できなかった。種市層を刻む小谷わきで、段丘構成層の厚さ 2 m 余の未膠結礫層がみられるところがある。

種市段丘では、かつての筆者らの調査で、角浜の南西方から北側に向かう県境の谷の西側（横手面相当、青森県）で、高館火山灰層（種市火山灰層）の中部以上が確認されている。今回の調査では、角浜以外で種市段丘を特徴づける構成層の全容を確認できる露頭はみられなかった。

白前段丘では、平内西方で高館火山灰層中部以上は確認できたが、その下位層まで確認できる露頭はみられなかった。

九戸段丘では、かつての筆者らの調査で、調査区外で山地とした場所ではあるが、伝吉西南西方の調査区北西隅縁から北北西に 450 m 地点（青森県）、階上町寺下と城内を結ぶ道路西縁で天狗袋火山層までが確認されている。同様に調査区外であるが、調査区に隣接する荒屋敷北側には、九戸火山灰層（推定、現在分析中）から八戸火山灰層までが露出する大露頭がある。ここは、調査区内の麦沢面に連続する地形面であるので、九戸段丘を裏付けるものとして重要な露頭で、詳細については後日の機会に報告したい。

調査区内では、大谷地段丘と種市段丘の平内面には平坦面がよく残されている。

横手面から白前段丘面までは、緩やかに起伏する丘陵面が広く、これを刻むネコ川、渋谷川、平内川などの谷壁（段丘崖）の谷底部からの高度差はおおむね 20 m 以下で、比較的小さい。谷底部はおおむね幅 50 ～ 150 m の狭長な谷底平野となっているところが多い。

九戸段丘部は開析（浸食）が進んで、多くは頂部が樹枝状に分岐する狭長な平頂丘陵地となり、わずかに地形原面を保持するやせ尾根となっているところも多い。これらを刻む谷の谷底と丘陵面縁との高度差は、おおむね 20 ～ 40 m である。谷底に平地が開けているところはほとんどない。

<引用・参考文献>

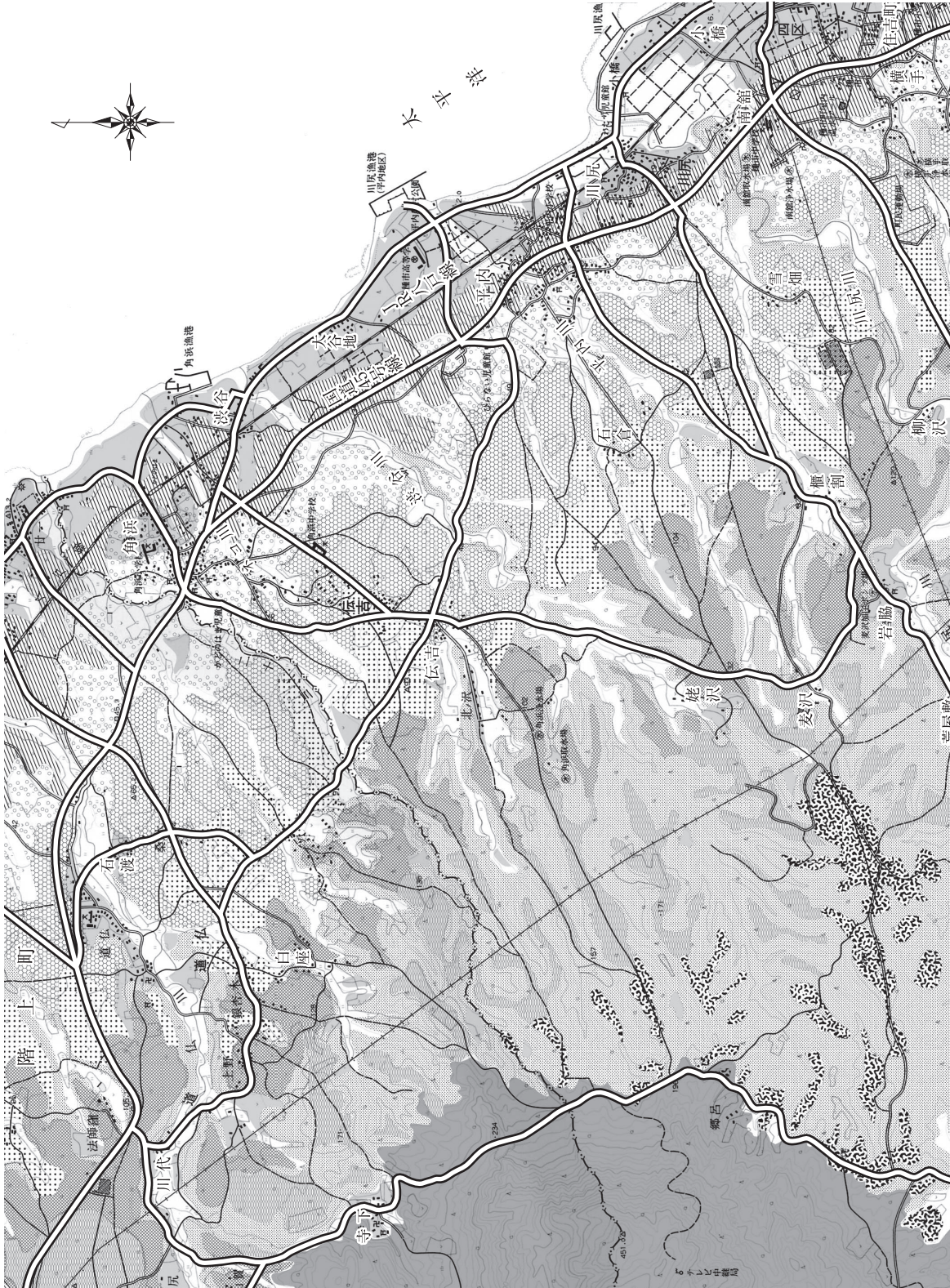
大池昭二・松山 力・七崎 修（1970） 八戸平原地区地質調査報告書. 東北農政局計画部

鎌田耕太郎ほか（1991） 20 万分の 1 地質図幅「八戸」. 地質調査所

松山 力（2003） 平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書. 4 ～ 15 頁. 種市町教育委員会

地形面区分凡例

- 海岸・谷底平野
- 大谷地面
- 平内面
- 横手面
- 雪畑面
- 伝吉面
- 姥沢面
- 麦沢面
- 高取面
- 急傾斜地
- 山地



第2図 調査区と周辺の地形面区分図

IV. 遺跡詳細分布調査の成果

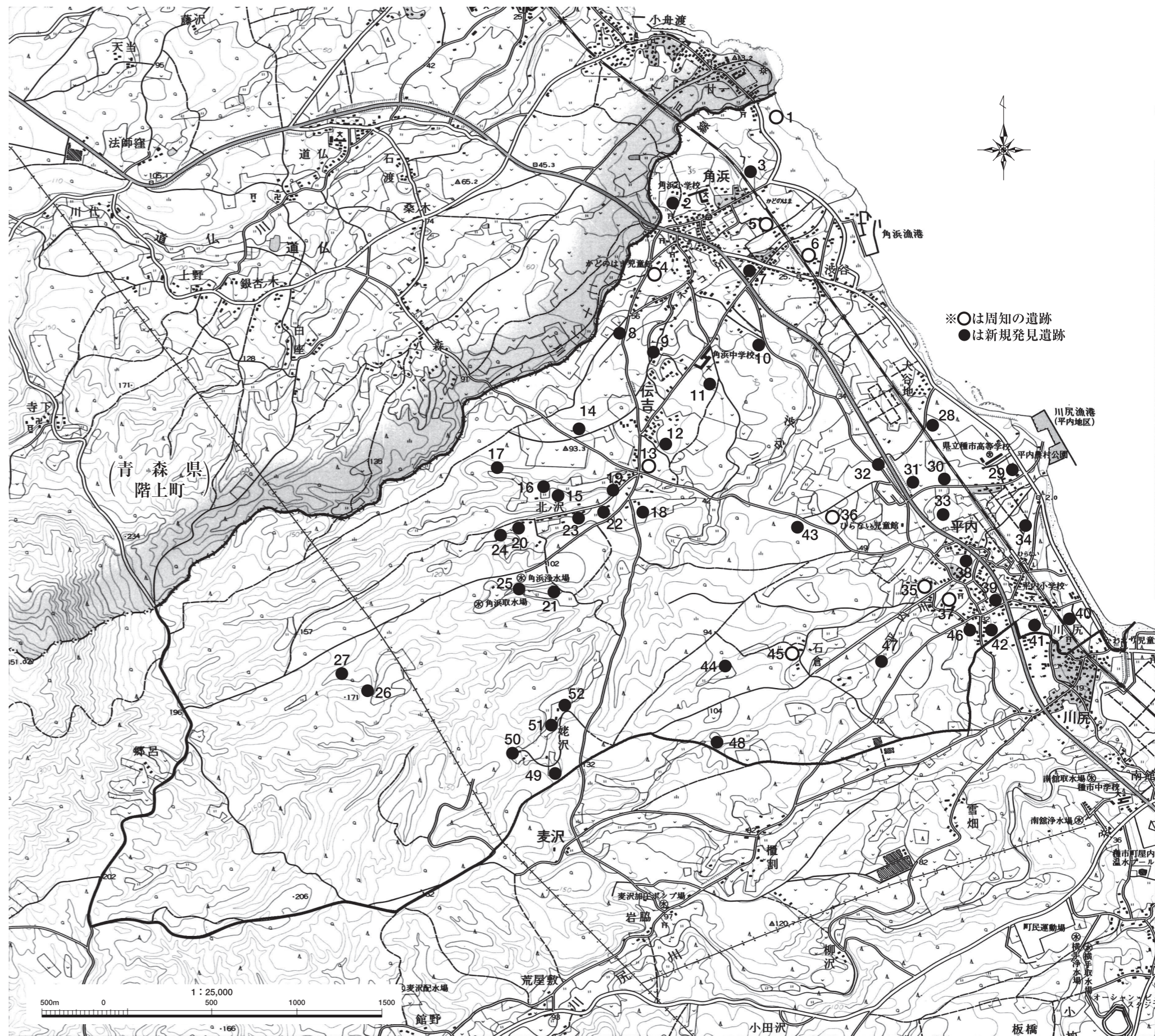
本年度調査では周知の9遺跡の確認を行い、新規に43ヶ所の遺跡を発見した。第3・4表は一覧表としてまとめたものである。遺跡ごとの成果は別記のとおりである。

遺跡No	遺跡コード	遺跡名	よみかた	種別	時代	遺物・遺構	所在地	備考
1	IF38-0098	二十一平	にじゅういちたい	製塩	古代	製塩土器・土製支脚・土師器	第41地割(字堆中山)	平成15年度登録
2	新規	堆中山I	たいなかやまいち	散布地	縄文時代	石斧	第41地割(字堆中山)	
3	新規	堆中山II	たいなかやまに	散布地	縄文時代	縄文土器・礫器	第41地割(字堆中山)	
4	IF37-1386	角浜	かどのほま	散布地	縄文時代	縄文土器	第42地割(字田ノ端)	
5	IF38-1072	アイス森	あいぬもり	散布地	縄文時代・弥生時代・古代	縄文土器(前・晩期)・縄文晩期後葉~弥生前期の土器・石器・土師器	第39地割(字角川目)	浜通遺跡から名称変更
6	IF38-1086	角川目I	かどかわめいち	散布地	縄文時代	縄文土器(前・中・晩期)・石斧・敲石・礫器	第39地割(字角川目)	蝦夷森(アイス森)遺跡から名称変更
7	新規	角川目II	かどかわめに	散布地	縄文時代	縄文土器	第39地割(字角川目)	
8	新規	田ノ端	たのはた	散布地	縄文時代	縄文土器(後期)	第42地割(字田ノ端)	
9	新規	笹花I	ささはないち	散布地	縄文時代	縄文土器	第43地割(字笹花)	
10	新規	笹花II	ささはなに	散布地	縄文時代	縄文土器(後期)	第43地割(字笹花)	
11	新規	笹花III	ささはなさん	散布地	縄文時代	縄文土器	第43地割(字笹花)	
12	新規	笹花IV	ささはなよん	散布地	縄文時代	縄文土器・石斧・敲石・礫器	第43地割(字笹花)	
13	IF37-2396	伝吉I	でんきちいち	散布地	縄文時代・古代	縄文土器(早・前・後期)・剥片石器・礫石器・土師器等	第43・44地割(字笹花・伝吉)	伝吉遺跡から名称変更
14	新規	伝吉II	でんきちに	散布地	縄文時代	縄文土器(前期)・石鎌	第42・43・44地割(字田ノ端・笹花・伝吉)	
15	新規	伝吉III	でんきちさん	散布地	縄文時代	縄文土器	第44地割(字伝吉)	
16	新規	伝吉IV	でんきちよん	製鉄関連	不明	鉄滓	第44地割(字伝吉)	近世か?
17	新規	伝吉V	でんきちご	製鉄関連	不明	鉄滓	第44地割(字伝吉)	近世か?
18	新規	北ノ沢I	きたのさわいち	散布地	縄文時代	縄文土器(中期)・石鎌・削搔器・石斧・敲石・剥片	第45地割(字北ノ沢)	
19	新規	北ノ沢II	きたのさわに	散布地	縄文時代・古代	縄文土器・土師器	第45地割(字北ノ沢)	
20	新規	北ノ沢III	きたのさわさん	散布地	縄文時代	縄文土器	第45地割(字北ノ沢)	
21	新規	北ノ沢IV	きたのさわよん	散布地	縄文時代・古代	縄文土器(前期)・土師器	第45地割(字北ノ沢)	
22	新規	北ノ沢V	きたのさわご	製鉄関連	不明	鉄滓	第45地割(字北ノ沢)	近世か?
23	新規	北ノ沢VI	きたのさわろく	製鉄関連	不明	鉄滓	第45地割(字北ノ沢)22	近世か?
24	新規	北ノ沢VII	きたのさわな	製鉄関連	不明	鉄滓	第45地割(字北ノ沢)	近世か?
25	新規	北ノ沢VIII	きたのさわはち	製鉄関連	不明	鉄滓	第45地割(字北ノ沢)	近世か?
26	新規	北ノ沢IX	きたのさわきゅう	製鉄関連	不明	鉄滓	第45地割(字北ノ沢)	近世か?

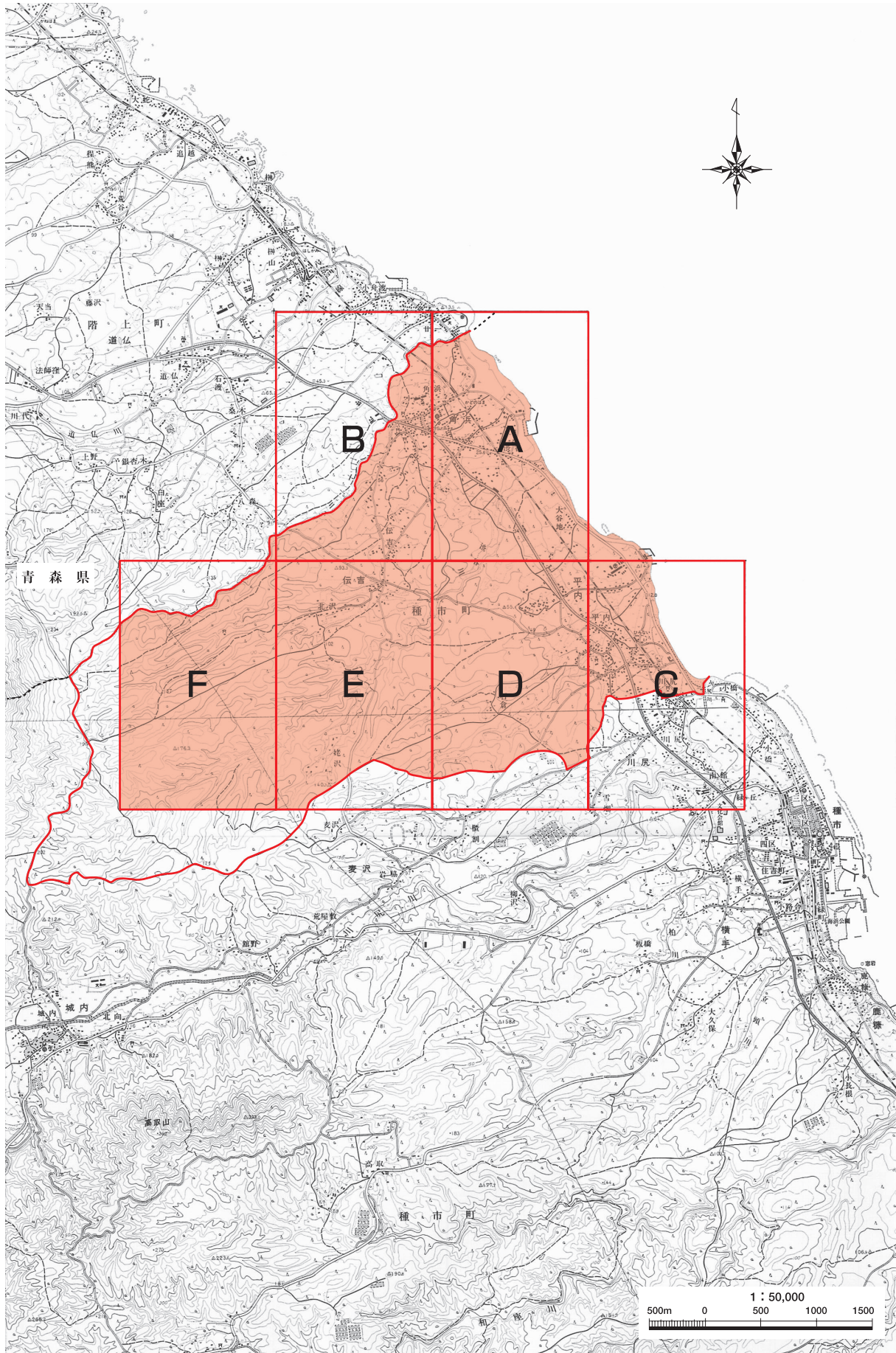
第3表 分布調査遺跡一覧表(1)

遺跡No	遺跡コード	遺跡名	よみかた	種別	時代	遺物・遺構	所在地	備考
27	新規	北ノ沢X	きたのさわじゅう	製鉄関連	不明	鉄滓	第45地割(字北ノ沢)	近世か?
28	新規	北平内I	きたひらないいち	散布地	縄文時代	縄文土器・石斧・礫器	第38地割(字北平内)	
29	新規	北平内II	きたひらないに	散布地	縄文時代・古代	縄文土器・土師器	第38地割(字北平内)	
30	新規	北平内III	きたひらないさん	散布地	縄文時代	縄文土器	第38地割(字北平内)	
31	新規	北平内IV	きたひらないよん	散布地	縄文時代	縄文土器(後期)・剥片	第38地割(字北平内)	
32	新規	北平内V	きたひらないご	散布地	縄文時代・弥生時代	縄文土器(後・晩期)・縄文晩期後葉~弥生前期の土器	第38・43地割(字北平内・笹花)	
33	新規	北平内VI	きたひらないろく	散布地	縄文時代	縄文土器・石斧・敲石	第38地割(字北平内)	
34	新規	浜平内	はまひらない	散布地	縄文時代	縄文土器(早・晩期)・石斧・敲石	第36地割(字浜平内)	
35	IF48-0170	平内I	ひらないいち	散布地	縄文時代	縄文土器(前・中期)・剥片	第34地割(字東平内)	平内遺跡から名称変更
36	IF48-0017	平内II	ひらないに	散布地	縄文時代・近世	縄文土器(中期末~後期前葉)・石器・鉄製品他	第43地割(字笹花)	平成11~13年度発掘調査
37	IF48-0194	平内III	ひらないさん	散布地	縄文時代	縄文土器(中期)・磨石	第34地割(字東平内)	
38	新規	平内IV	ひらないよん	散布地	縄文時代・古代	縄文土器(前期)・石斧・敲石・土師器・須恵器	第35地割(字平内)	
39	新規	平内V	ひらないご	散布地	縄文時代	縄文土器(前期)・石斧・礫器	第35地割(字平内)	
40	新規	南平内I	みなみひらないいち	散布地	縄文時代	縄文土器(晩期)・製塩土器	第33地割(字南平内)	製塩遺跡の可能性有り
41	新規	南平内II	みなみひらないに	散布地	縄文時代	縄文土器・剥片石器	第33地割(字南平内)	
42	新規	南平内III	みなみひらないさん	散布地	縄文時代	縄文土器・剥片	第33地割(字南平内)	
43	新規	西平内I	にしひらないいち	散布地	縄文時代	縄文土器(後期)・石斧・剥片	第37地割(字西平内)	
44	新規	西平内II	にしひらないに	散布地	縄文時代	縄文土器(前期)・敲石	第37地割(字西平内)	
45	IF48-1025	石倉	いしくら	散布地	縄文時代・古代	縄文土器(後期)・敲石・礫器・土師器	第37地割(字西平内)	
46	新規	東平内I	ひがしひらないいち	散布地	縄文時代	縄文土器・石斧・敲石・礫器・剥片	第34地割(字東平内)	
47	新規	東平内II	ひがしひらないに	散布地	縄文時代	縄文土器	第34地割(字東平内)	
48	新規	東平内III	ひがしひらないさん	製鉄関連	不明	羽口・鉄滓	第34地割(字東平内)	近世か?
49	新規	姥沢I	うばさわいち	散布地	縄文時代	縄文土器(後期)・石鎌・石斧・剥片	第47地割(字姥沢)	
50	新規	姥沢II	うばさわに	散布地	縄文時代・古代	縄文土器・石斧・土師器	第47地割(字姥沢)	
51	新規	姥沢III	うばさわさん	散布地	縄文時代	縄文土器(前・後期)・削搔器・石斧・剥片・古銭	第47地割(字姥沢)	
52	新規	姥沢IV	うばさわよん	散布地	縄文時代	縄文土器(中期)・削搔器・ピエスエスキュー・剥片	第47地割(字姥沢)	

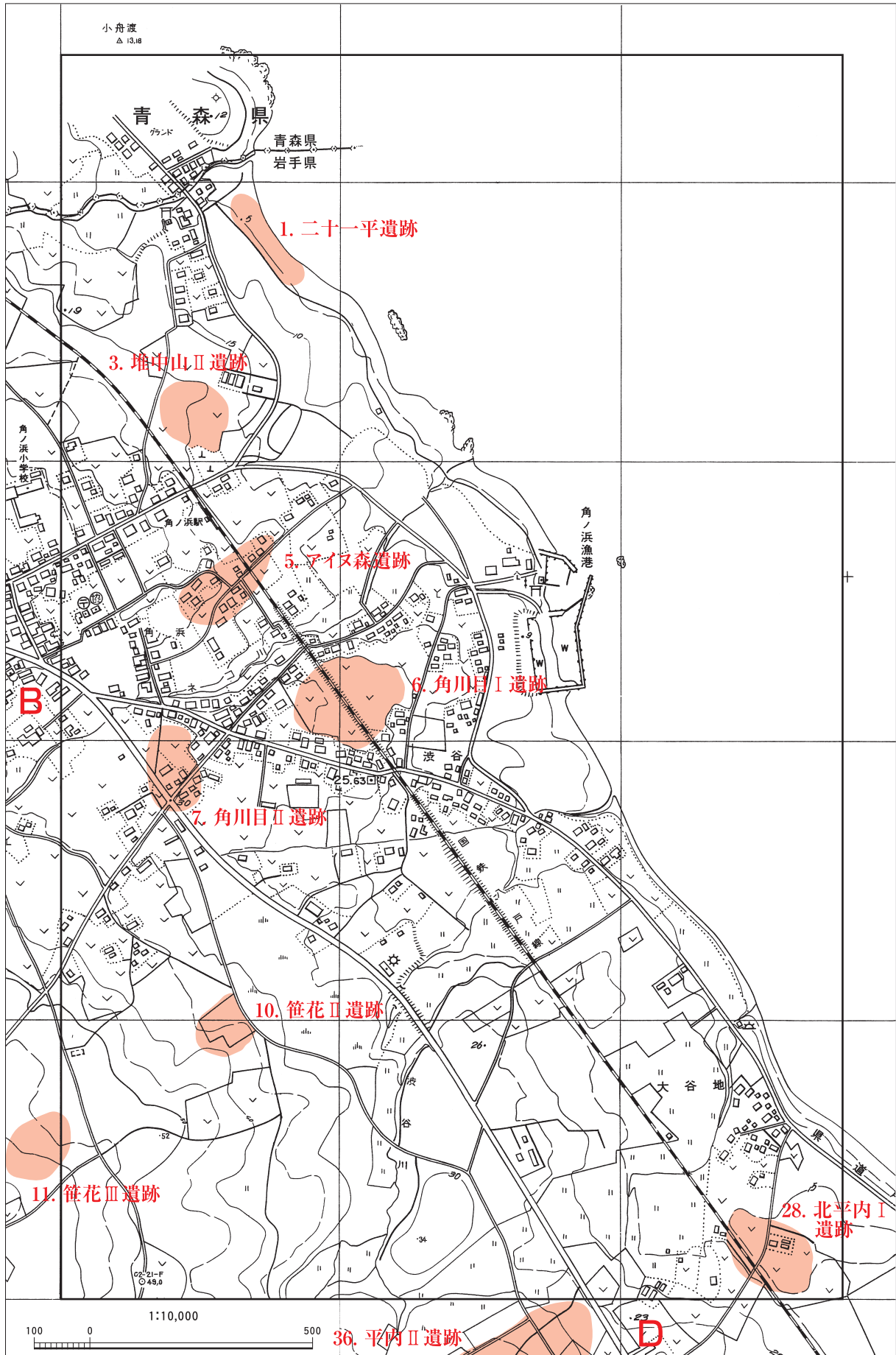
第4表 分布調査遺跡一覧表(2)



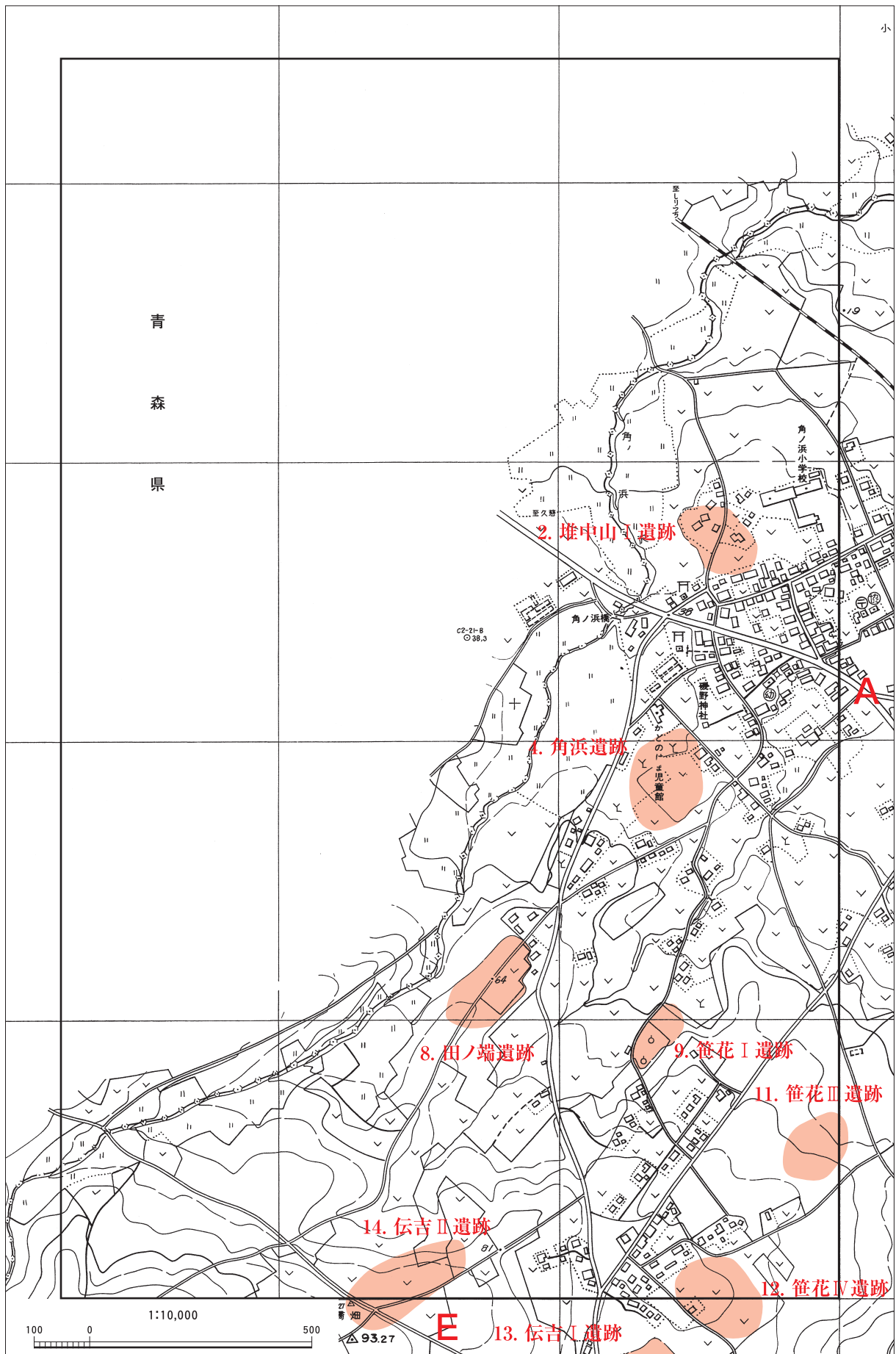
第3図 分布調査遺跡位置図



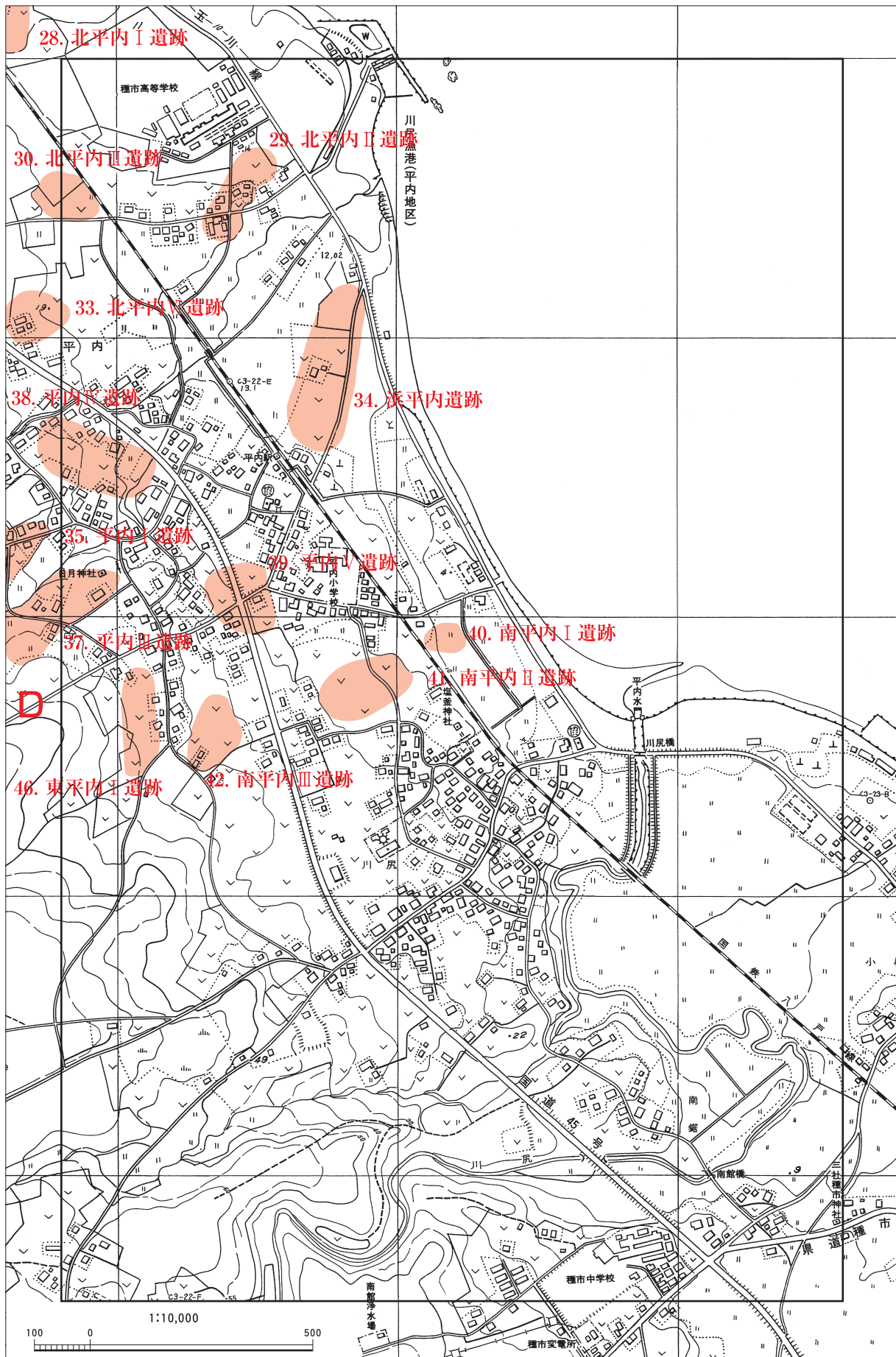
第4図 遺跡範囲図割付図



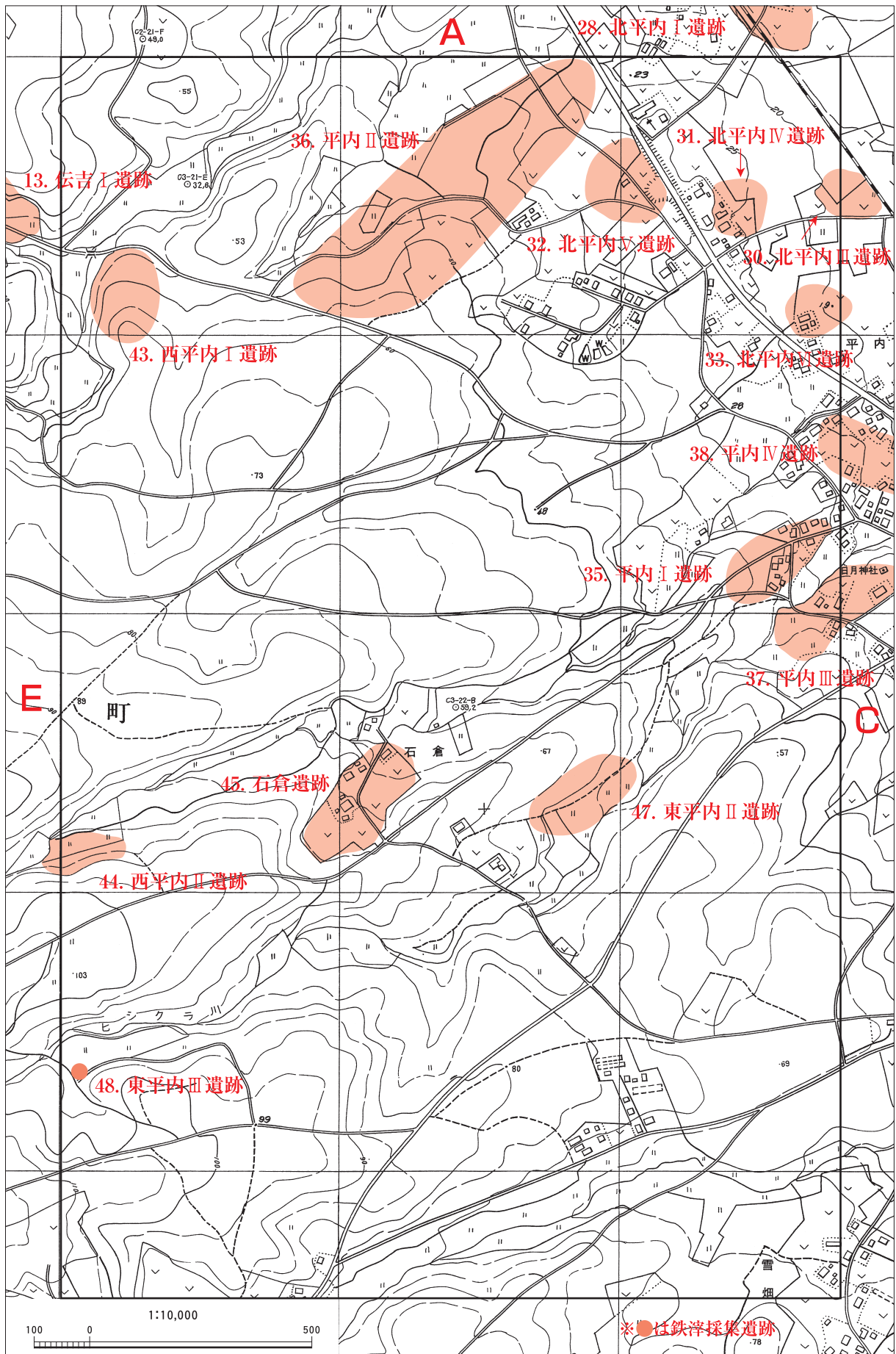
第5図 遺跡範囲図A



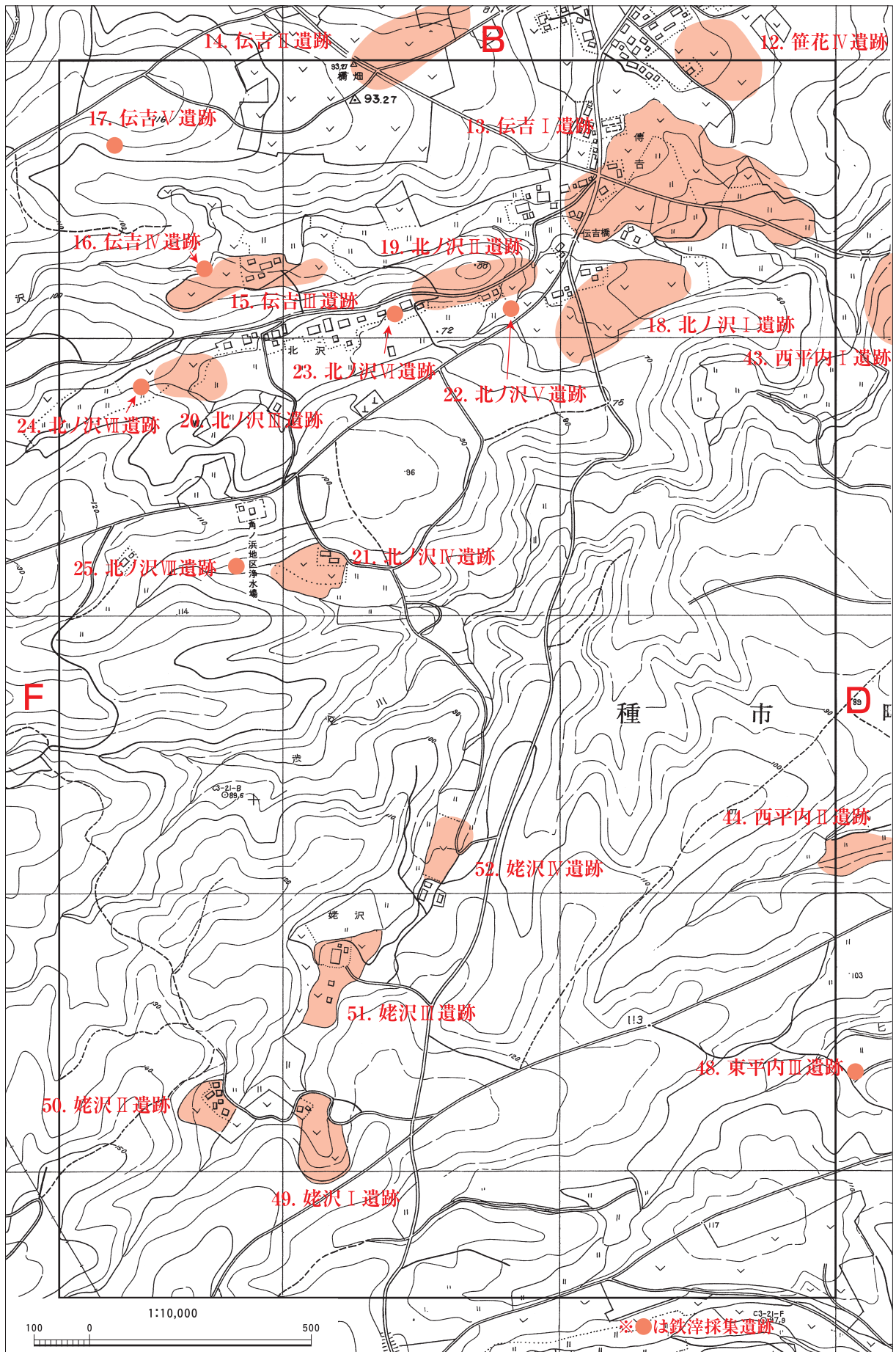
第6図 遺跡範囲図B



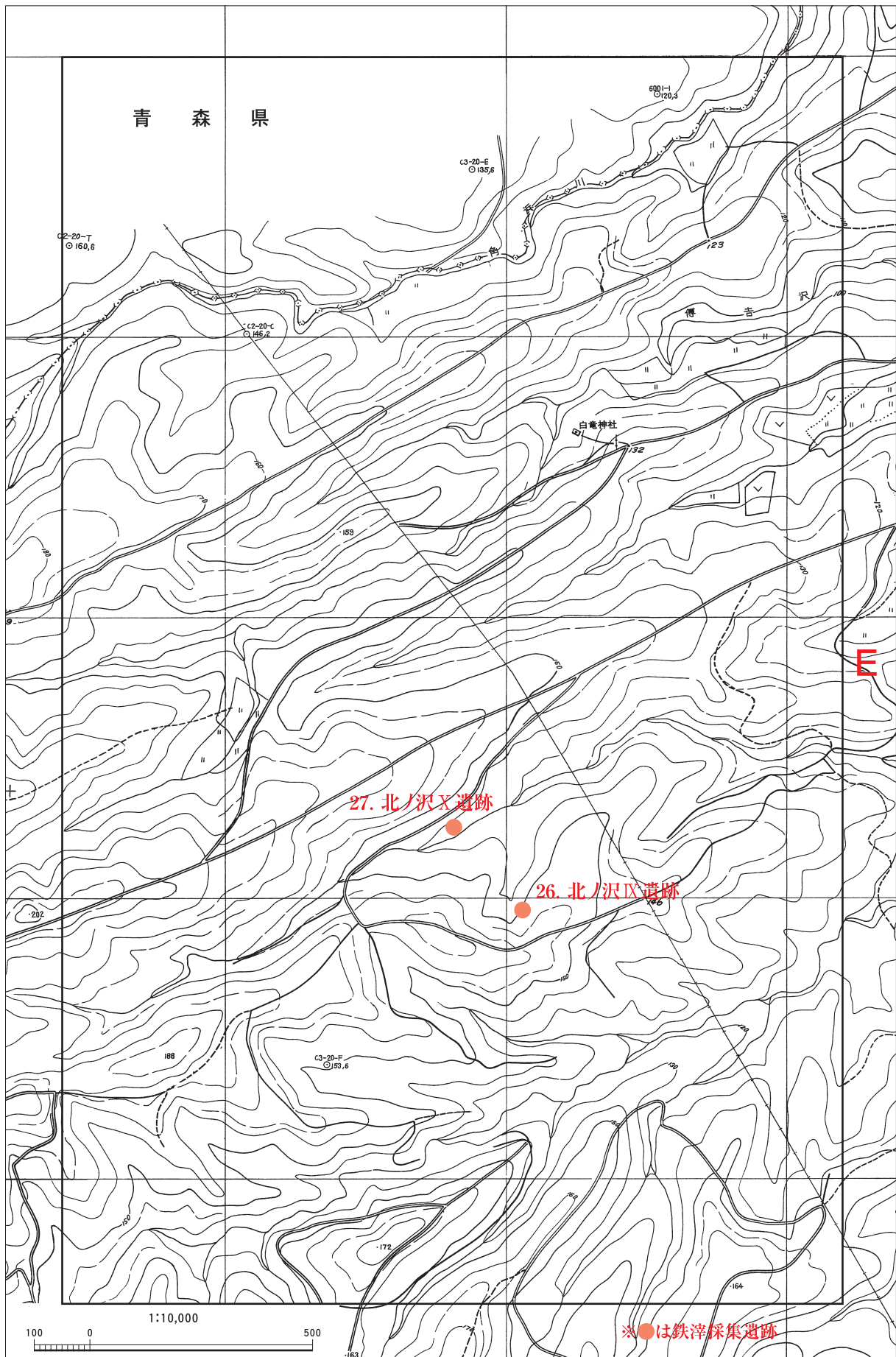
第7図 遺跡範囲図C



第8図 遺跡範囲図D



第9図 遺跡範囲図E



第10図 遺跡範囲図F

1. ^{にじゅういちたいいせき}二十一平遺跡 <県遺跡コード：IF38 - 0098 > 遺跡範囲図A

所在地：第41地割地内（字堆中山）

種別：製塩

時代：古代

遺物：製塩土器・土製支脚・土師器

現況：海岸

標高：5m未滿



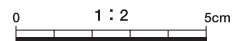
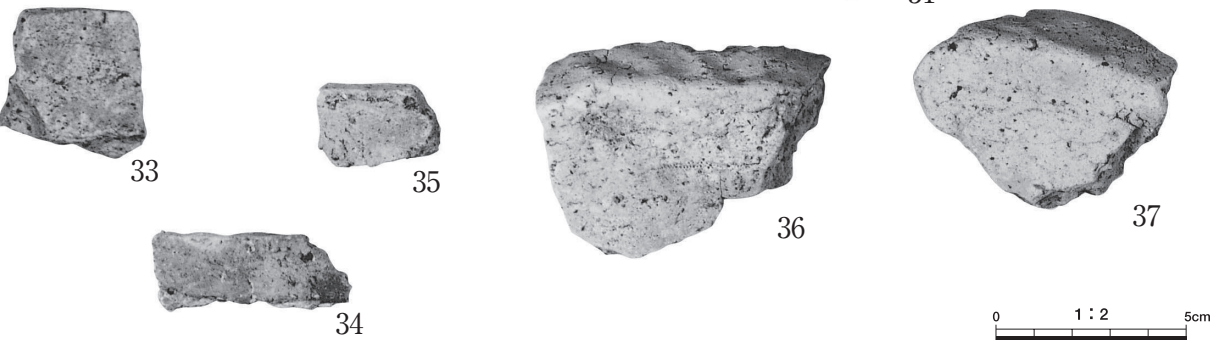
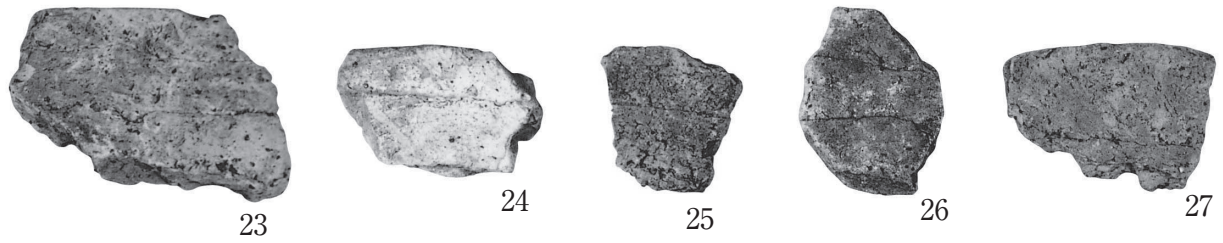
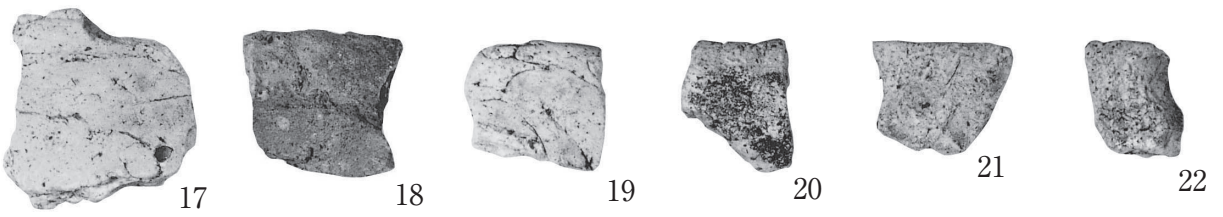
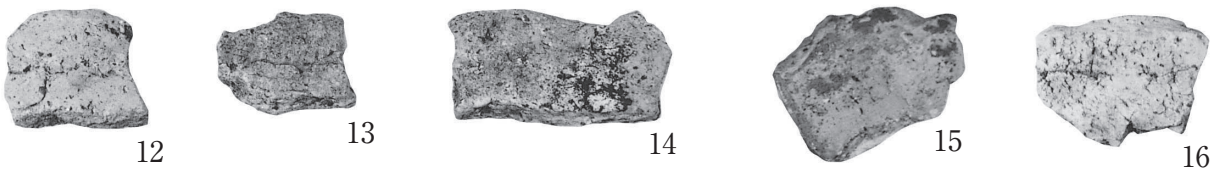
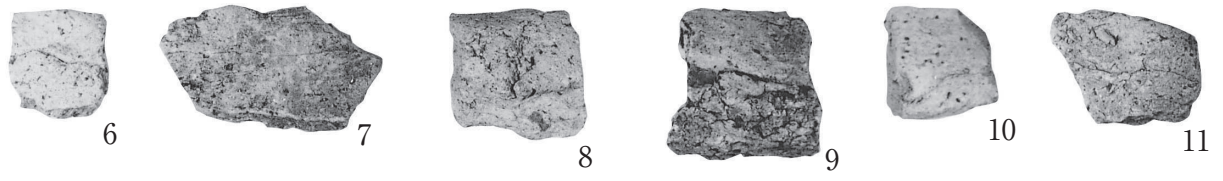
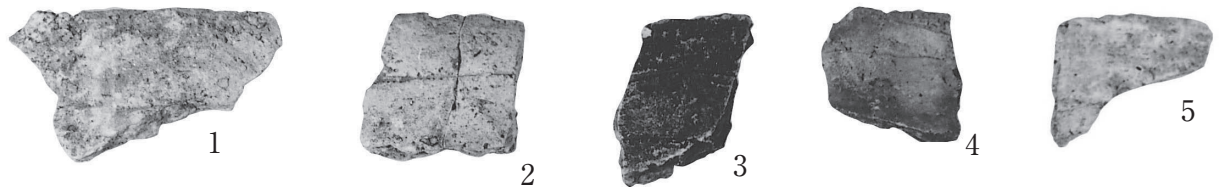
二十一平遺跡近景（北西から）

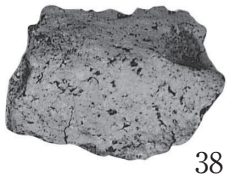
JR角浜駅から北北東へ約500m、岩手県と青森県境を流れる二十一川南側、北緯40°26′44″東経141°41′13″付近にあたる汀線付近に位置する。現況は円礫・円砂利浜の海岸である。

海岸整地のため重機による掘削を行った際に土器の出土で遺跡の存在が明らかになり、平成15年度に新規遺跡として登録を行った。古代の製塩土器片・土製支脚片が多量に散布し、被熱したと見られる円礫もある。現在までに大型のコンテナ（54cm×34cm×13cm）で約5箱分を採集している。遺跡の立地・遺物の状況から製塩を行った可能性が高いと考えられ、種別は製塩遺跡とした。保存状況は重機の掘削のため一部破壊されていると見られ、津波の影響があった可能性もある。

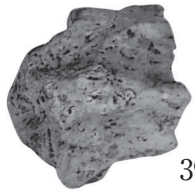
古代の製塩土器について、近隣での出土事例は久慈市で2遺跡、青森県三戸郡階上町で1遺跡、八戸市で数カ所の遺跡がある。

掲載した遺物は製塩土器の口縁部・底部、土製支脚、土師器片である。全てが小破片で、接合を試みたが復元できるものはなかったため法量等は不明である。製塩土器の特徴は縄文時代のものに比べ器厚が厚く、口縁部が5mm～10mm前後、胴部が10mm～15mm前後、底部が15mm～20mm前後である。土器の外表面は粘土の継ぎ目が明瞭で、粗雑なナデ調整であるのに対し、内表面は丁寧なナデ調整が見られ、内外表面の調整の違いは縄文時代の製塩土器と同様である。色調は橙色・赤褐色のものが多く、器面は二次加熱により変色し、灰白色や黒褐色の付着物が見られる。口縁部の形態はほぼ平坦で、口唇部断面は平坦・指でつまみあげ先細るもの・丸みを帯びるもの等複数見られる。底部の形態は径の大きな平底で、粘土を厚く重ねて作られ、底部からの立ち上がりは直立気味に立ち上がるものが多いが、張り出すものもある。底面は平坦・砂底状・木葉痕状等複数見られるが、青森県で出土しているような柁目のものは確認されていない。土器全体の形状は縄文時代は砲弾形であるのに対し、バケツ形であったと推測される。土製支脚は円筒状と円柱状の2種類があり、円筒状のものが多数を占める。円柱状のものでも中空型と中実型の2種類がある。土師器は非ロクロ成形の甕頸部片1点のみの採集で、内外面に灰白色の付着物が見られる。小片のため年代は不明である。

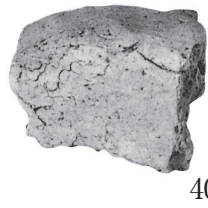




38



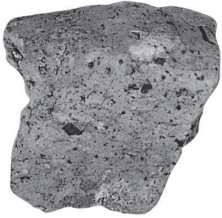
39



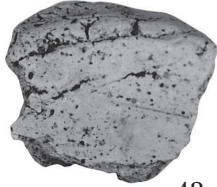
40



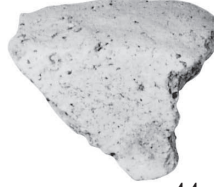
41



42



43



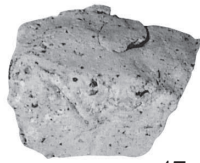
44



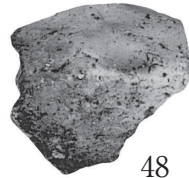
45



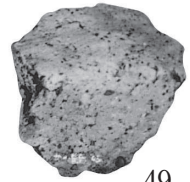
46



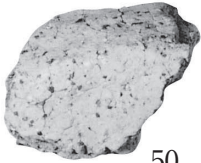
47



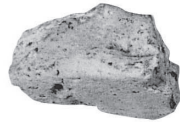
48



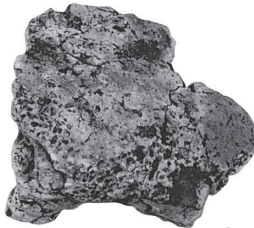
49



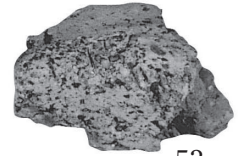
50



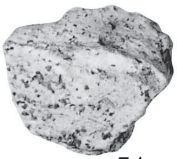
51



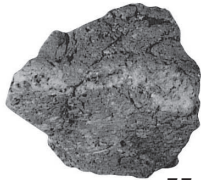
52



53



54



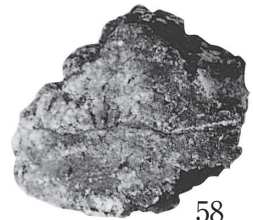
55



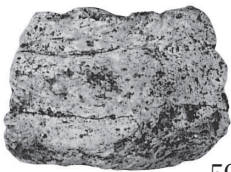
56



57



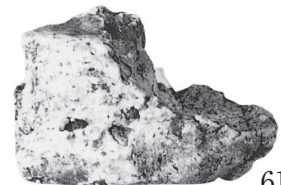
58



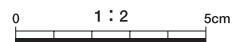
59



60

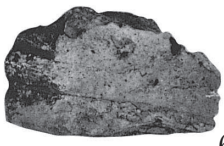


61





62



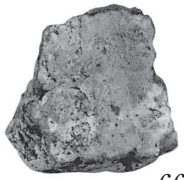
63



64



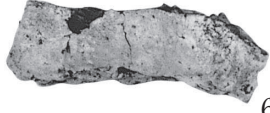
65



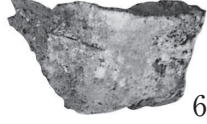
66



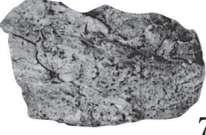
67



68



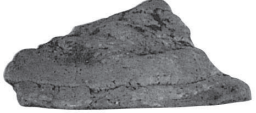
69



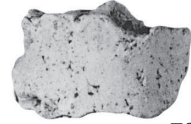
70



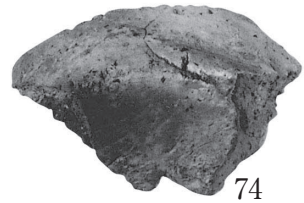
71



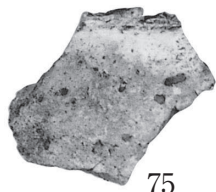
72



73



74



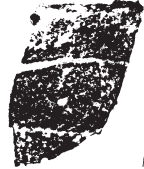
75



1



2



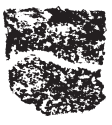
3



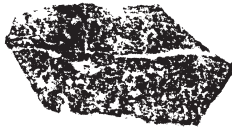
4



5



6



7



8



9



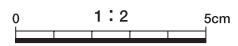
10

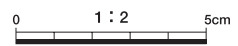
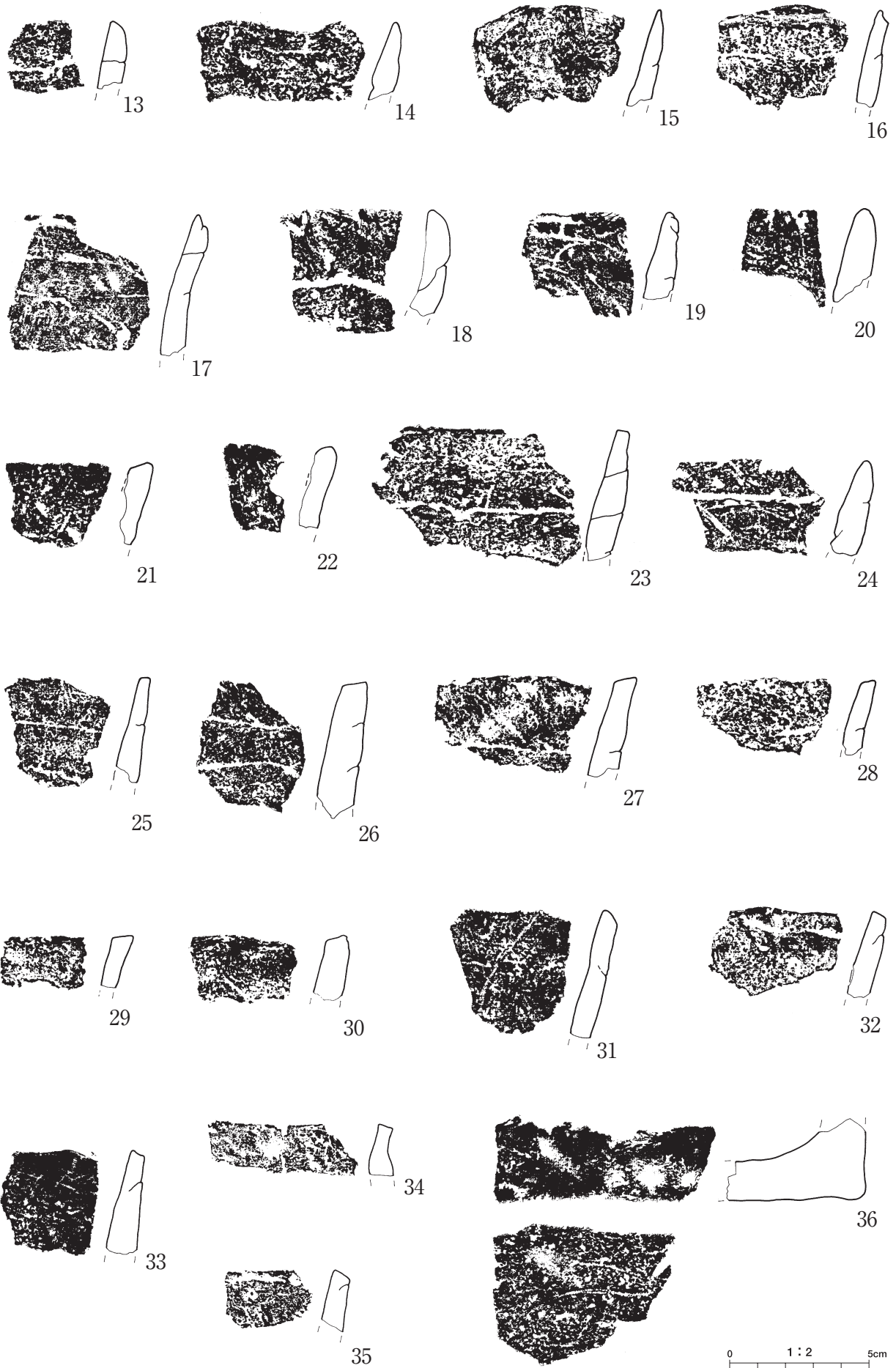


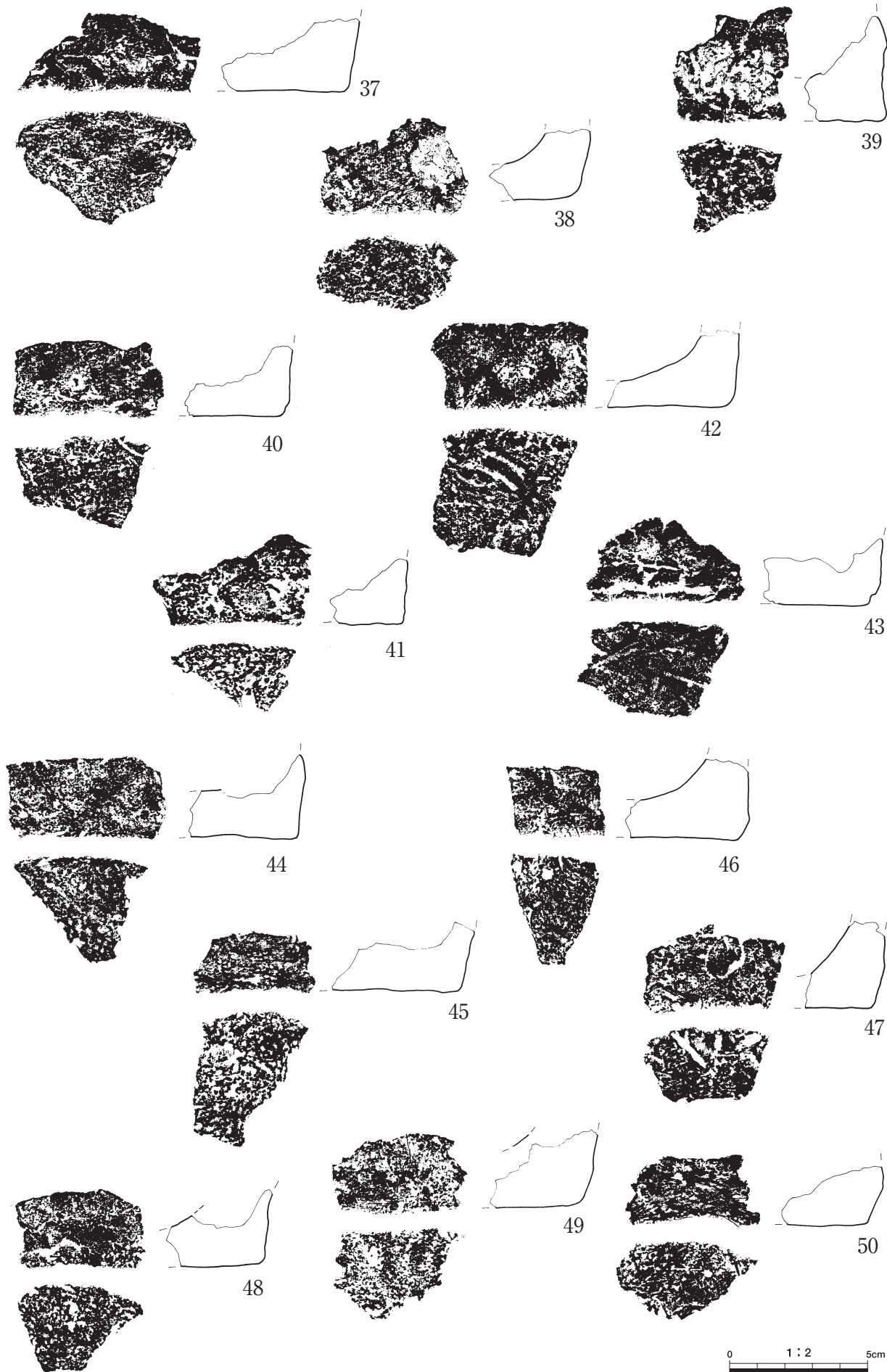
11



12

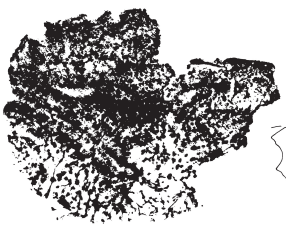




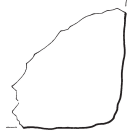




51



52



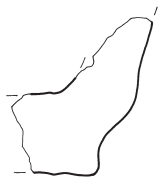
53



54



55



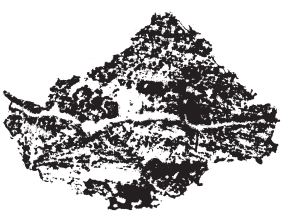
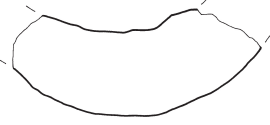
56



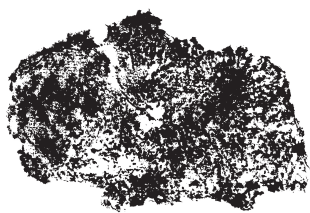
57



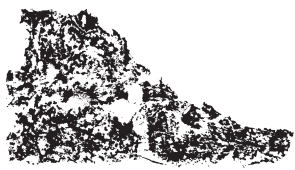
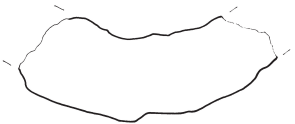
59



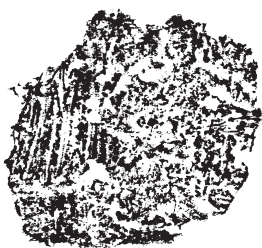
58



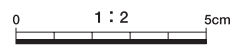
60

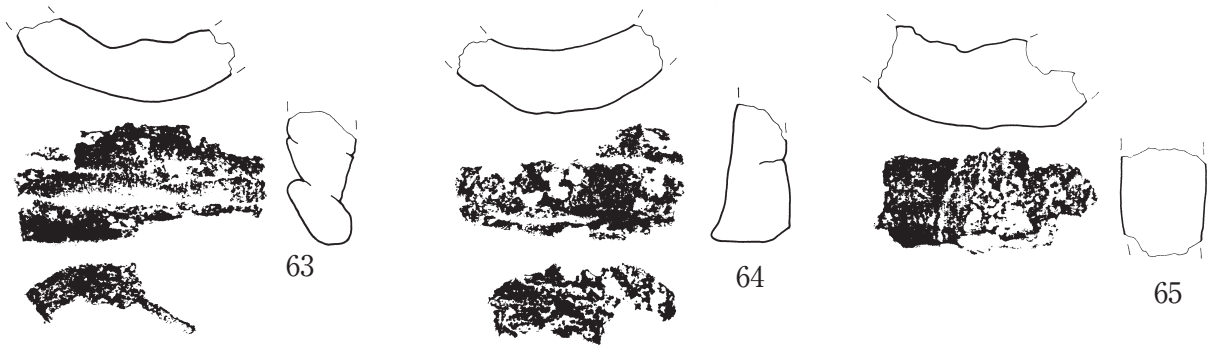


61



62





63

64

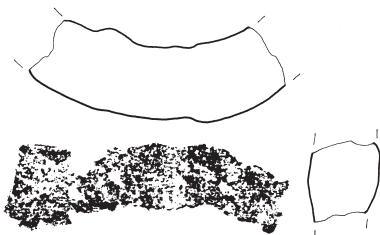
65



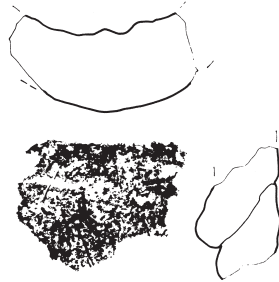
66



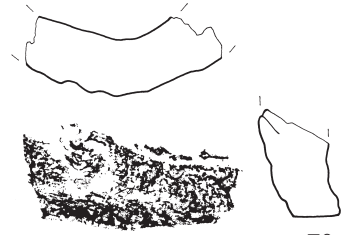
67



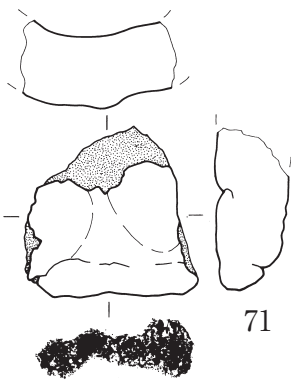
68



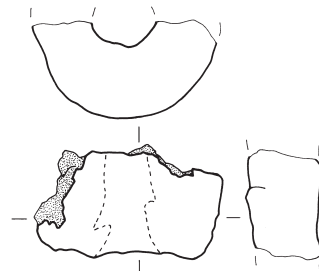
69



70



71



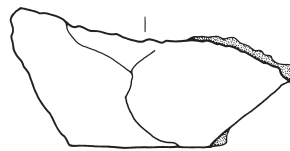
73



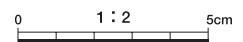
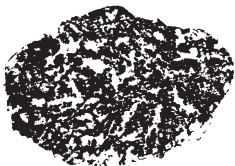
75



72



74



2. ^{たいなかやまいちいせき} 堆中山Ⅰ遺跡 <新規> 遺跡範囲図B

所在地：第41地割地内（字堆中山）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：石器

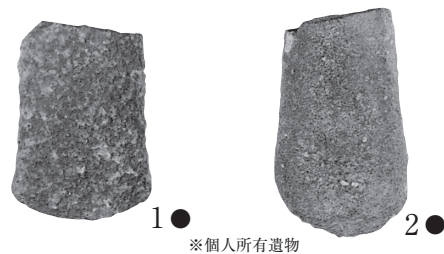
現況：畑地・宅地

標高：約35m

JR角浜駅から西へ約500m、太平洋岸から約900m、北緯40°26′29″ 東経141°40′46″付近にあたる二十一川南側の段丘縁辺部に位置する。以前は畑地で多くの土器が出土したとのことであるが、今回の踏査では遺物を採集できなかった。個人宅庭より出土した石斧2点を確認したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は一部道路工事により破壊されていると見られる。



堆中山Ⅰ遺跡近景（西から）



※個人所有遺物



3. ^{たいなかやまにいせき} 堆中山Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図A

所在地：第41地割地内（字堆中山）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器・石器

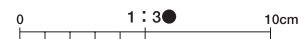
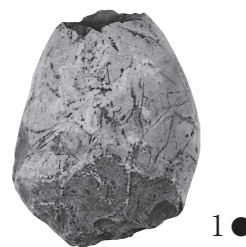
現況：畑地・宅地

標高：約20m

JR角浜駅から北へ約200m、太平洋岸から約400m、北緯40°26′38″ 東経141°41′04″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代と見られる土器片と礫器を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は良好であると見られる。



堆中山Ⅱ遺跡近景（西から）



かどのはまいせき
4. 角浜遺跡 <県遺跡コード：IF37 - 1386> 遺跡範囲図B

所在地：第42地割地内（字田ノ端）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器

現況：畑地・宅地

標高：約70m

JR角浜駅から南西へ約800m、太平洋岸から約1.2km、北緯40°26′16″ 東経141°40′41″付近にあたる丘陵地南側の緩斜面上に位置する。周知の遺跡で、今回の踏査では縄文土器



角浜遺跡近景（南東から）

片を採集したが、遺物の散布量は少ない。現況は主に畑地で、保存状況は良好であると見られる。

あいぬもりいせき
5. アイヌ森遺跡 <県遺跡コード：IF38 - 1072> 遺跡範囲図A

所在地：第39地割地内（字角川目）

種別：散布地

時代：縄文時代・弥生時代・古代

遺物：縄文土器（前期～晩期）・縄文晩期後葉
～弥生前期の土器・石器・土師器

現況：畑地・山林・宅地

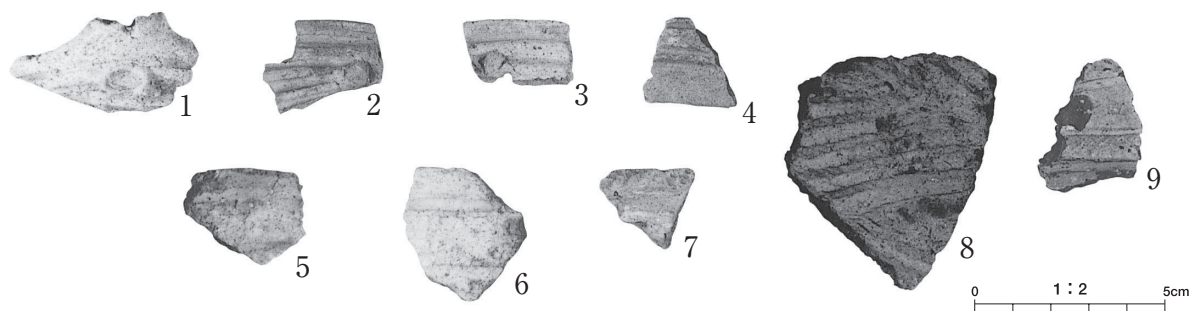
標高：約25～30m

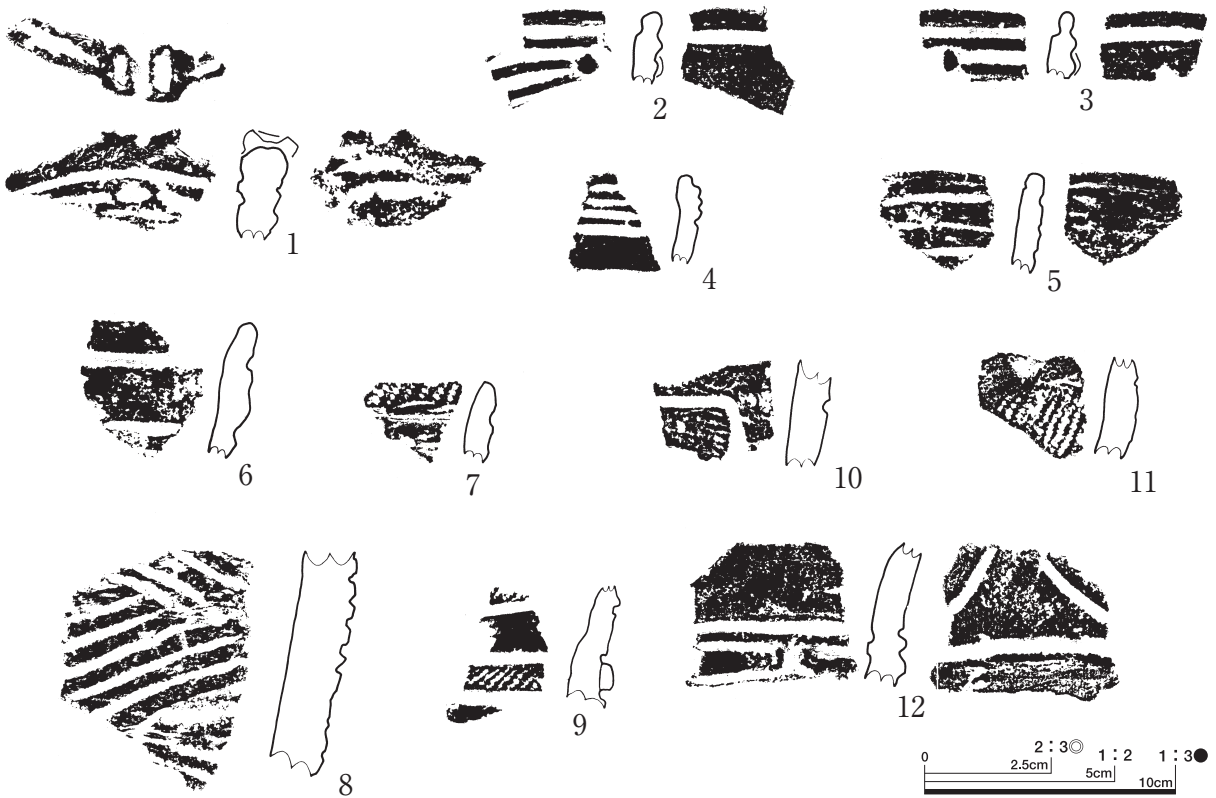
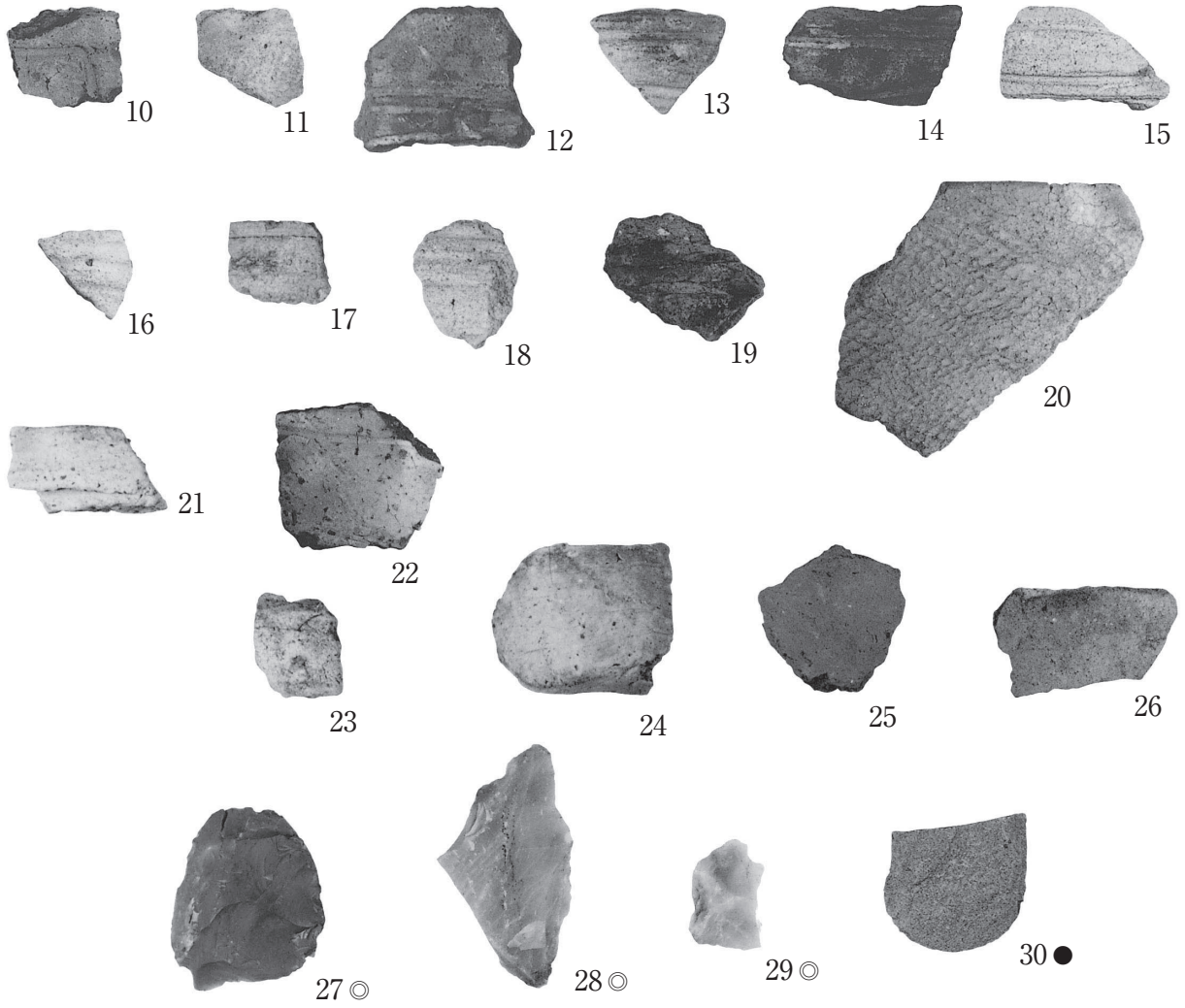
JR角浜駅から南へ約100m、太平洋岸から約500m、北緯40°26′26″ 東経141°41′09″付近にあたる段丘面上に位置する。周知の遺跡

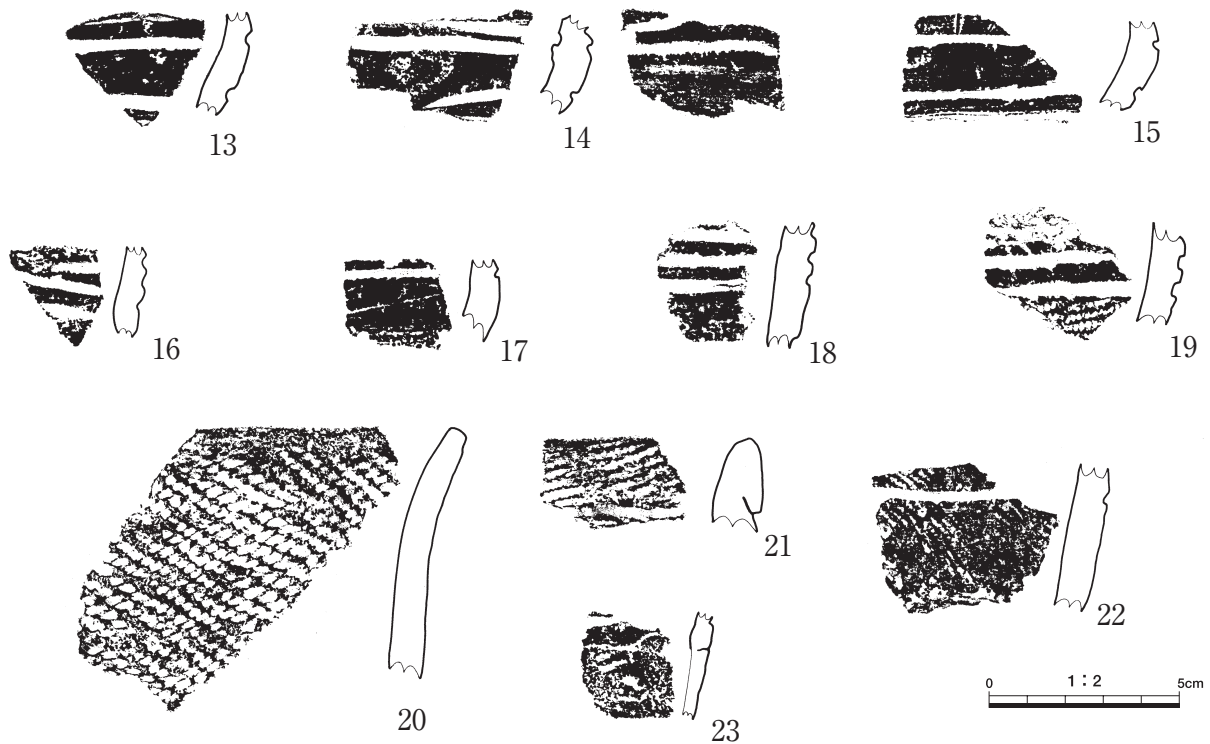


アイヌ森遺跡近景（南西から）

で、縄文時代中期の土器、石器が採集され、浜通遺跡として登録されていたが、この地域ではアイヌ森と呼ばれ名称変更を行った。今回の踏査で縄文時代前期・後期・晩期・縄文晩期後葉～弥生前期の土器片、石斧・剥片、土師器片を小型のコンテナ（42cm×32cm×11cm）で約半分を採集した。その他少量であるが、器壁が薄く無文で、輪積痕が残る土器片が混ざっており縄文時代の製塩土器の可能性はある。保存状況は八戸線（現JR八戸線）の工事により一部破壊されているが、概ね良好であると見られる。







6. ^{かどかわ めいちいせき}角川目 I 遺跡 <県遺跡コード：IF38 - 1086> 遺跡範囲図A

所在地：第 39 地割地内（字角川目）

種 別：散布地

時 代：縄文時代

遺 物：縄文土器（前期・中期・晩期）・石器

現 況：畑地・山林

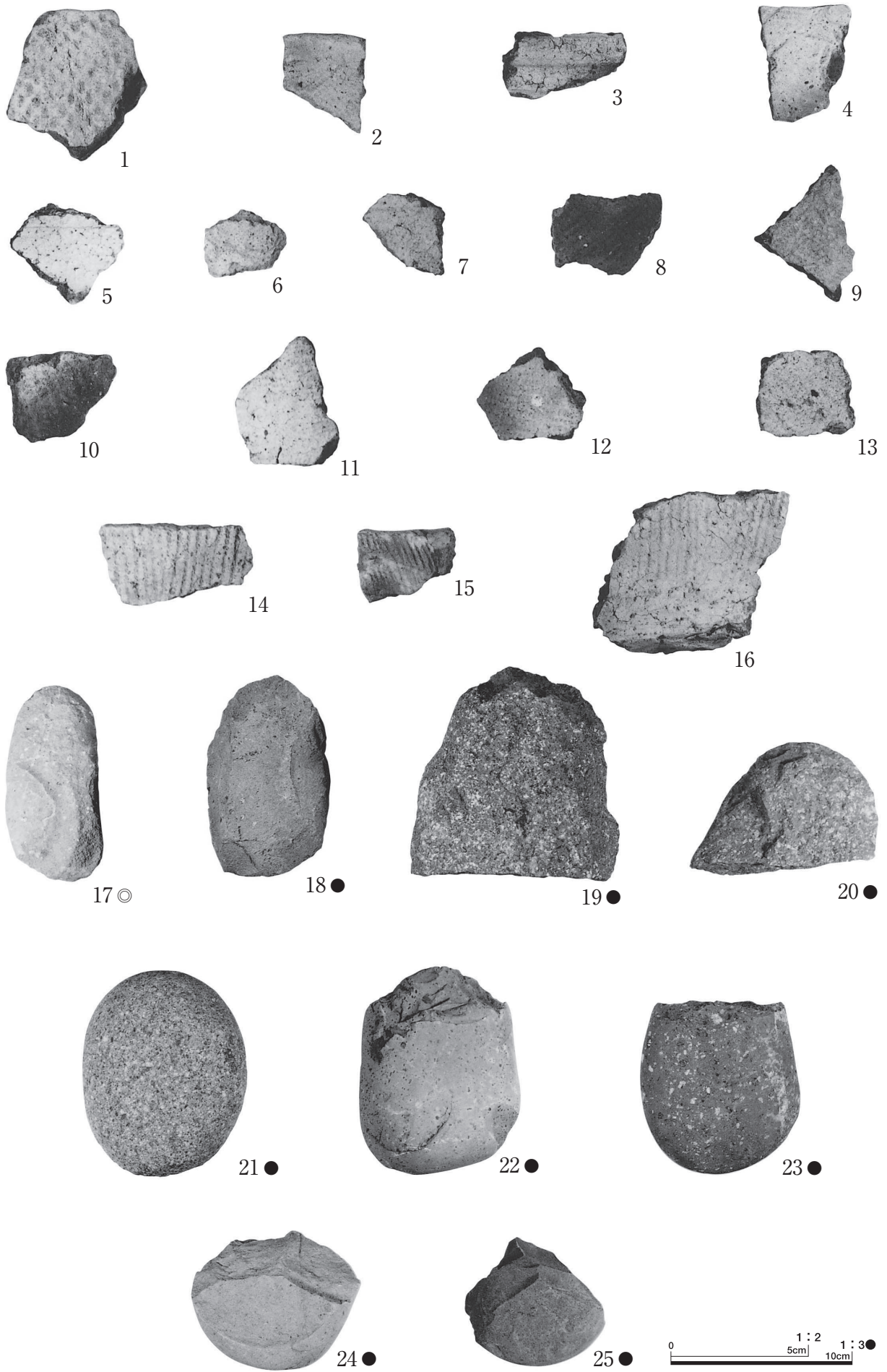
標 高：約 20～25m

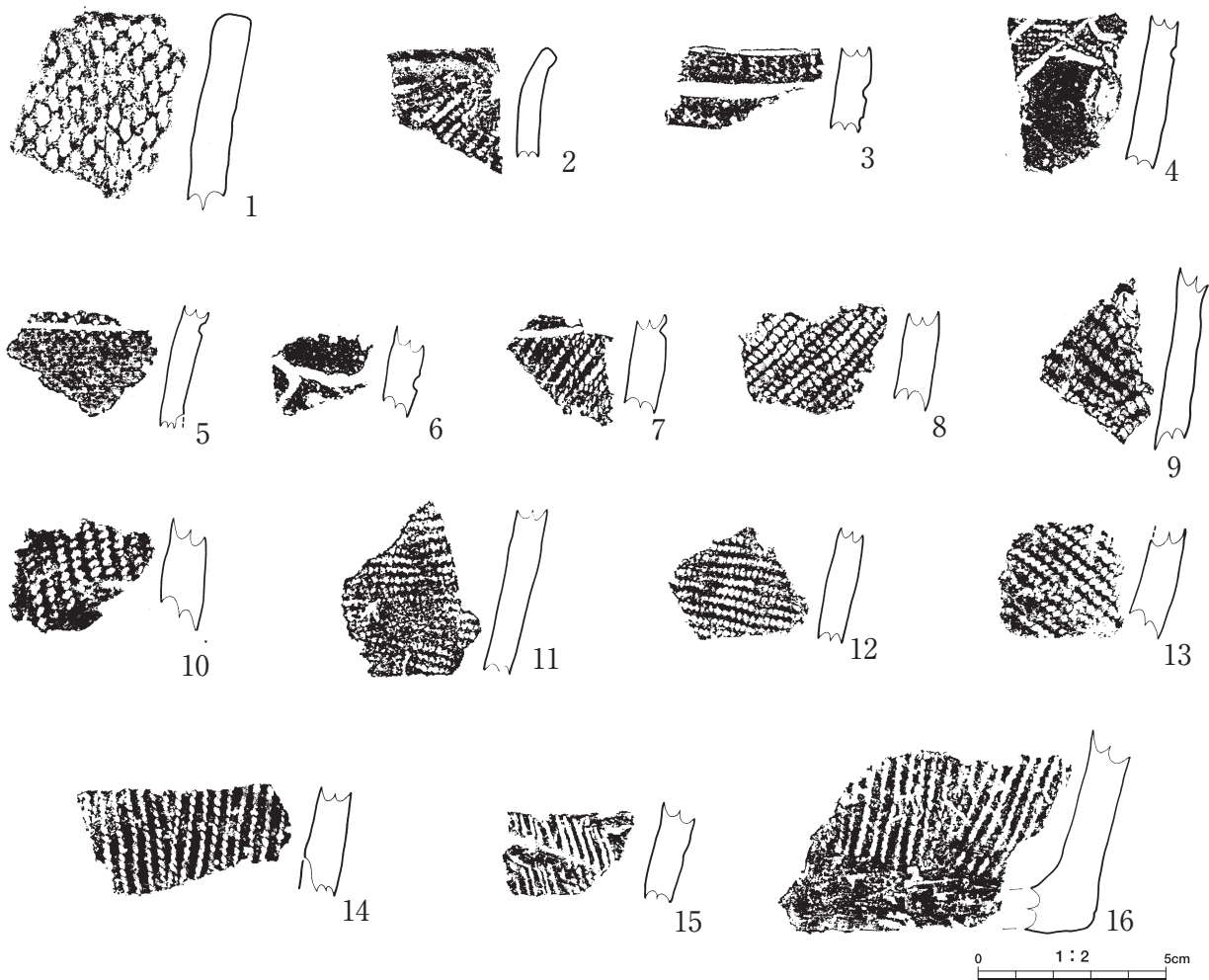
JR 角浜駅から南東へ約 400m、太平洋岸から約 400m、北緯 40° 26′ 20″ 東経 141° 41′ 16″ 付近にあたるアイヌ森遺跡から約 200m 南側の段丘面上に位置する。周知の遺跡で、縄文



角川目 I 遺跡近景（東から）

時代中期・晩期の土器、フレークが採集され、蝦夷森（アイヌ森）遺跡として登録されていたが、この辺りは蝦夷森（アイヌ森）と呼ばれることはなく、場所を間違えて名称を付けたのではないかと考えられ名称変更した。現在は山林となっている JR 八戸線西側で多くの土器が出土したとのことであるが、今回の踏査では線路東側の畑地から縄文時代前期を中心とした土器片、石斧・敲石・礫器を採集した。保存状況は八戸線（現 JR 八戸線）の工事により一部破壊されているが、概ね良好である。





かどかわめ に いせき
7. 角川目Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図A

所在地：第39地割地内（字角川目）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器

現況：畑地・宅地

標高：約35m

JR角浜駅から南南東へ約500m、太平洋岸から約700m、北緯40°26′16″ 東経141°41′04″付近にあたる丘陵地北側の緩斜面に位置する。国道45号線の西側で多くの土器が出土したとのことであるが、今回の踏査で東側の畑地で縄文土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は国道工事により一部破壊されたと見られる。



角川目Ⅱ遺跡近景（北西から）

8. ^{たのはいせき}田ノ端遺跡 <新規> 遺跡範囲図B

所在地：第42地割地内（字田ノ端）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（後期）

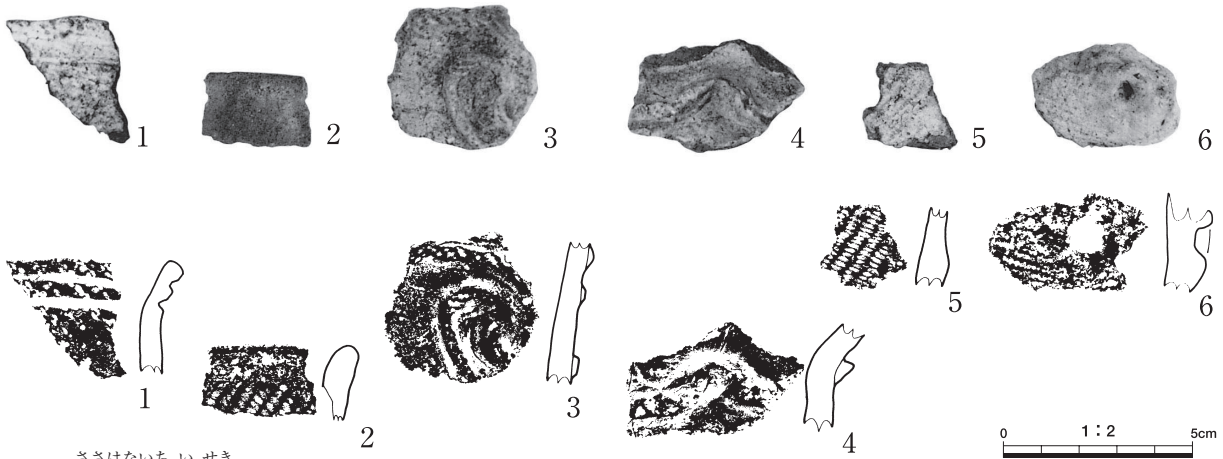
現況：山林・畑地

標高：約60～65m

JR角浜駅から南西へ約1.2km、太平洋岸から約1.6km、北緯40°25′58″東経141°40′25″付近にあたる丘陵地南側の緩斜面上に位置する。今回の踏査で縄文時代後期の土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に山林で、保存状況は良好である。



田ノ端遺跡近景（北から）



9. ^{ささはないちいせき}笹花I遺跡 <新規> 遺跡範囲図B

所在地：第43地割地内（字笹花）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器

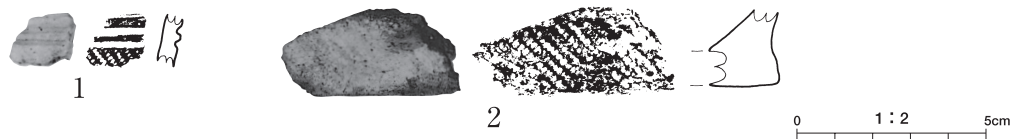
現況：畑地・山林

標高：約55m

JR角浜駅から南西へ約1.1km、太平洋岸から約1.4km、北緯40°26′00″東経141°40′40″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は概ね良好であると見られる。



笹花I遺跡近景（北西から）



10. ^{ささはなに いせき} 笹花Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図A

所在地：第43地割地内（字笹花）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（後期）

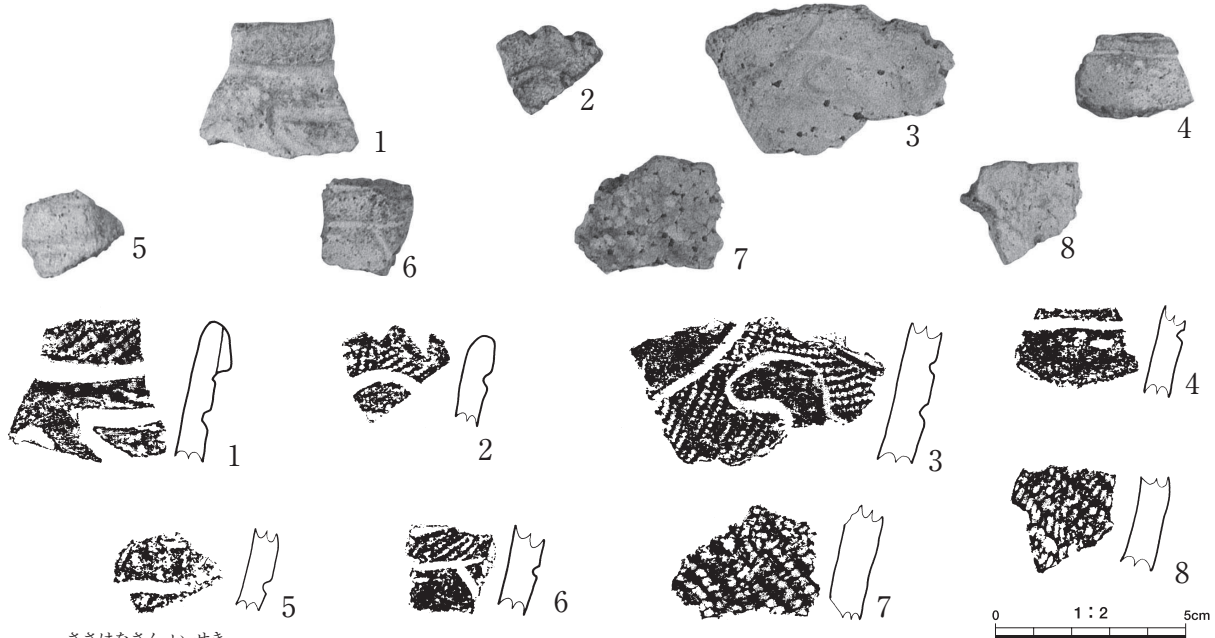
現況：畑地・山林

標高：約35～40m

JR角浜駅から南へ約900m、太平洋岸から約800m、北緯40°25′59″ 東経141°41′05″付近にあたる丘陵地緩斜面上に位置する。今回の踏査で縄文時代後期の土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は概ね良好であると見られる。



笹花Ⅱ遺跡近景（北東から）



11. ^{ささはなさん いせき} 笹花Ⅲ遺跡 <新規> 遺跡範囲図B

所在地：第43地割地内（字笹花）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器

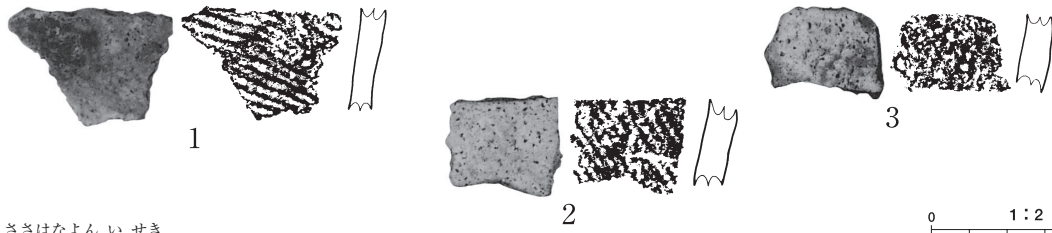
現況：畑地・山林・宅地

標高：約60m

JR角浜駅から南南西へ約1.2km、太平洋岸から約1.2km、北緯40°25′53″ 東経141°40′55″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は概ね良好であると見られる。



笹花Ⅲ遺跡近景（西から）



12. ^{ささはなよん い せき} 笹花IV遺跡 <新規> 遺跡範囲図B

所在地：第43地割地内（字笹花）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器・石器

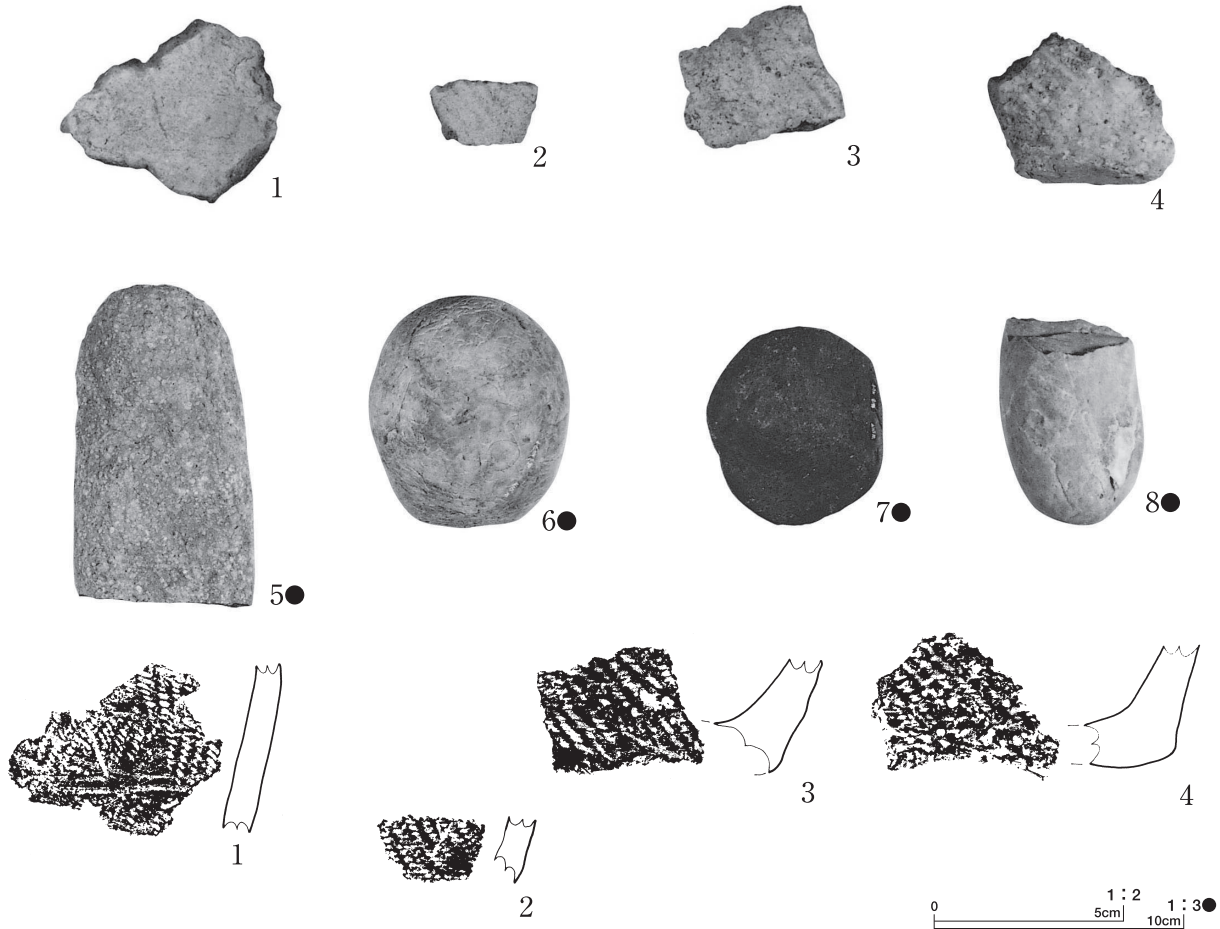
現況：畑地・山林・宅地

標高：約70m

JR角浜駅から南南西へ約1.5km、太平洋岸から約1.5km、北緯40°25′15″東経141°40′07″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片、石斧・敲石・礫器を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地と山林で、保存状況は概ね良好であると見られる。



笹花IV遺跡近景（北から）



13. 伝吉 I 遺跡 ^{でんきちいち いせき} <県遺跡コード：IF37 - 2396> 遺跡範囲図E

所在地：第43・44地割地内（字笹花・伝吉）

種別：散布地

時代：縄文時代・古代

遺物：縄文土器（早期・前期・後期）・石器
土師器

現況：畑地・水田・宅地

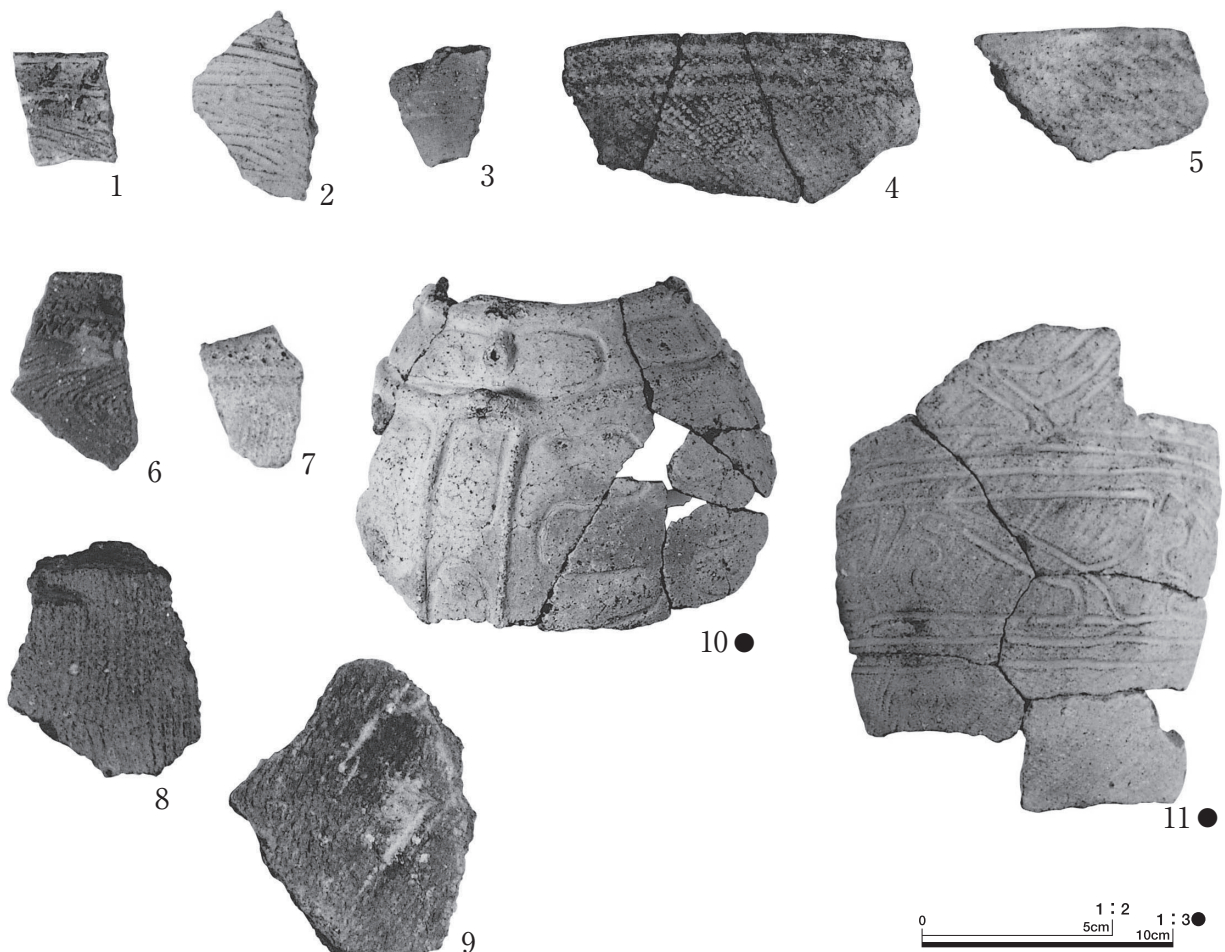
標高：約40～65m

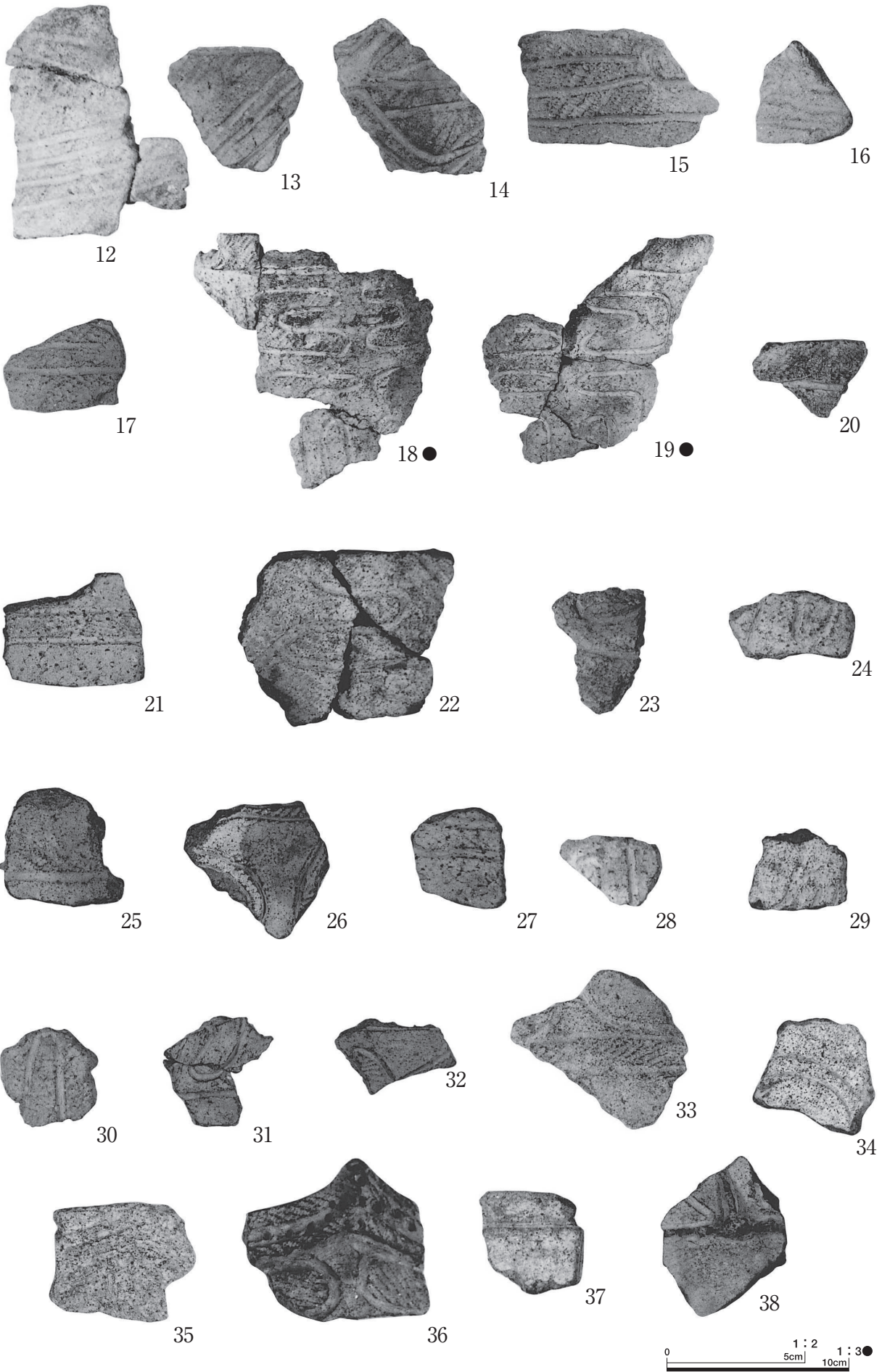


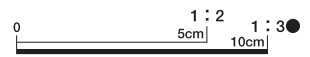
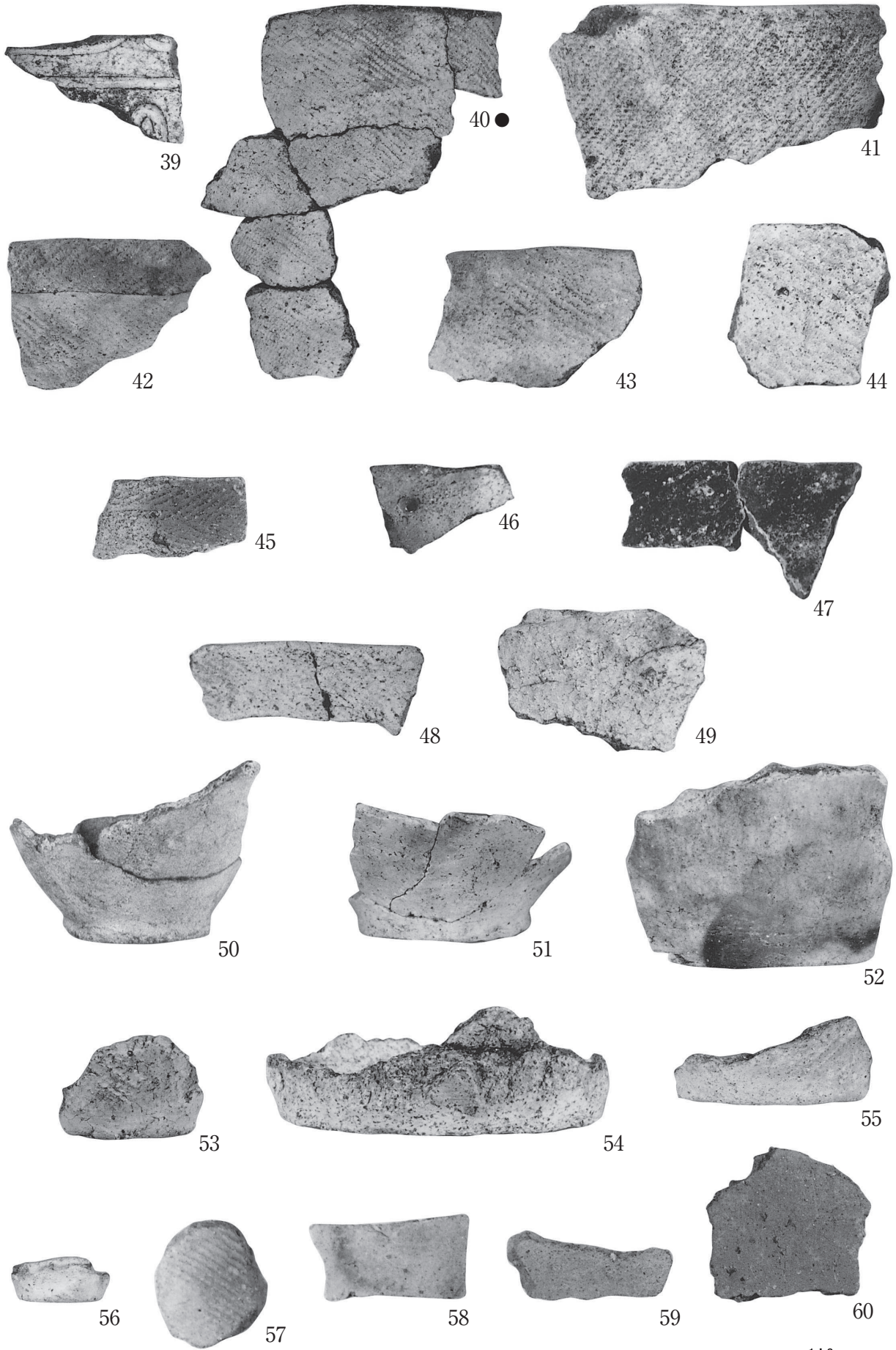
伝吉 I 遺跡近景（北西から）

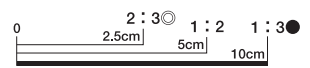
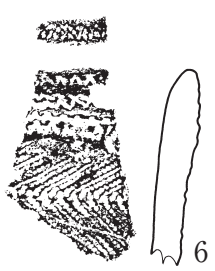
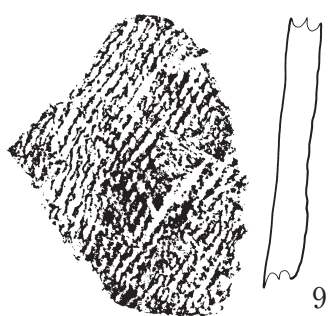
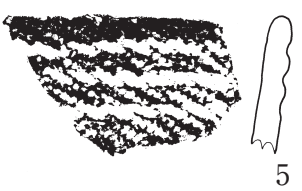
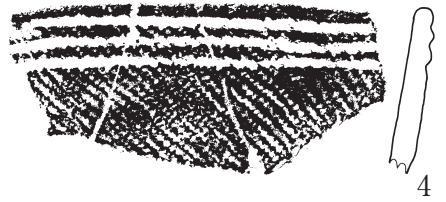
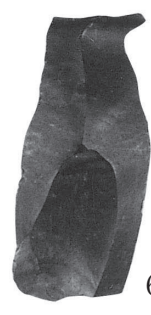
JR 角浜駅から西北西へ約2.2km、太平洋岸から約1.7km、北緯40° 25′ 38″ 東経141° 40′ 41″ 付近にあたる渋谷川と伝吉沢の合流地点に

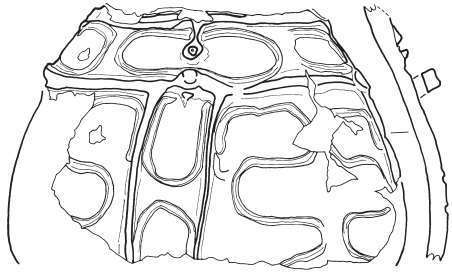
向かい緩やかに傾斜する段丘面上に位置する。周知の遺跡で、縄文時代の遺跡として伝吉遺跡の名称で登録されていたが、伝吉地区の遺跡数の増加に伴い名称変更を行った。以前から土器等が出土する場所として知られており、今回の踏査により縄文時代早期・前期・後期の土器片、石器、土師器等を確認した。掲載遺物は個人所有を借り受け図化・写真撮影を行った。遺物が採集できる箇所が広範囲に及び、保存状況は水田により一部削平されているが、概ね良好であると見られる。











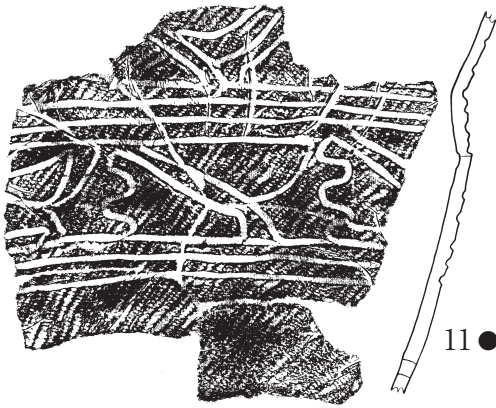
10●



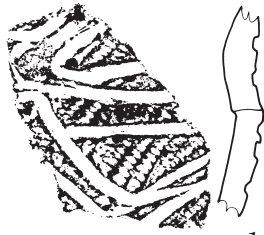
12



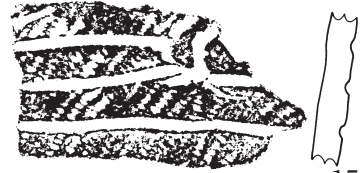
13



11●



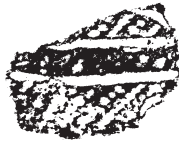
14



15



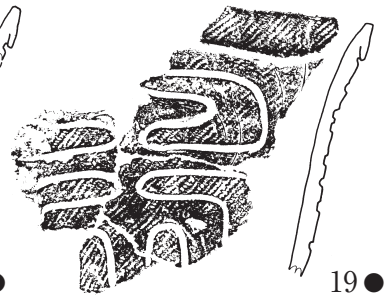
16



17



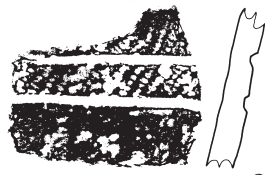
18●



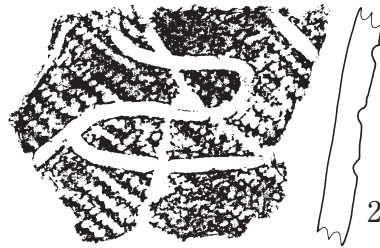
19●



20



21



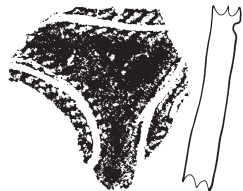
22



23



24



26



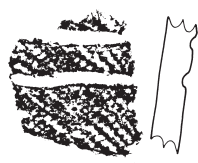
28



29



25



27

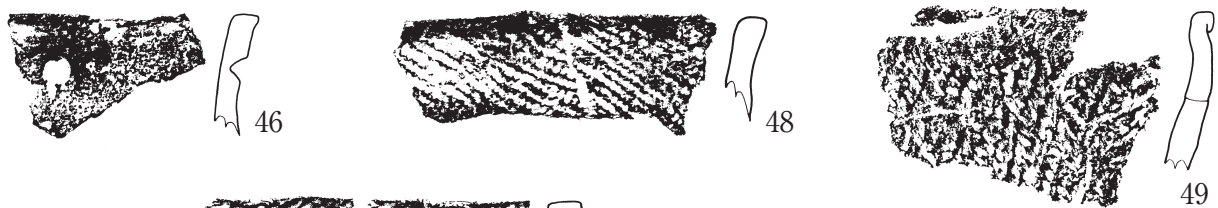
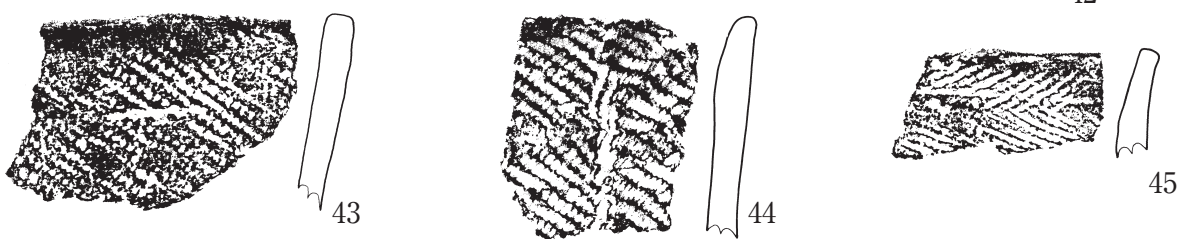
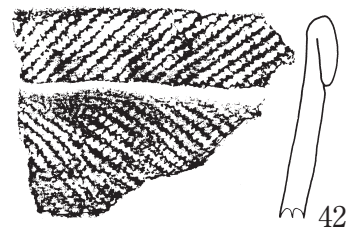
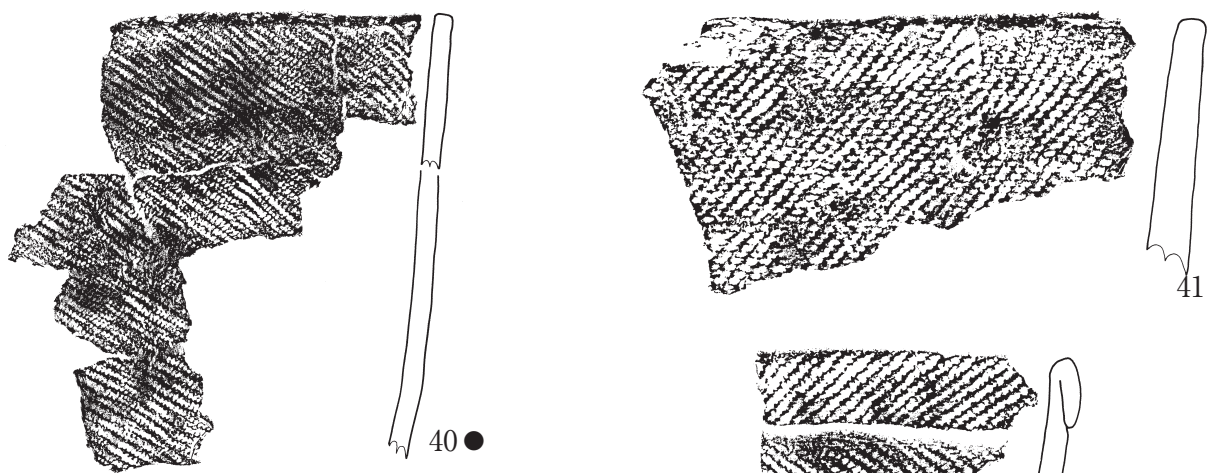
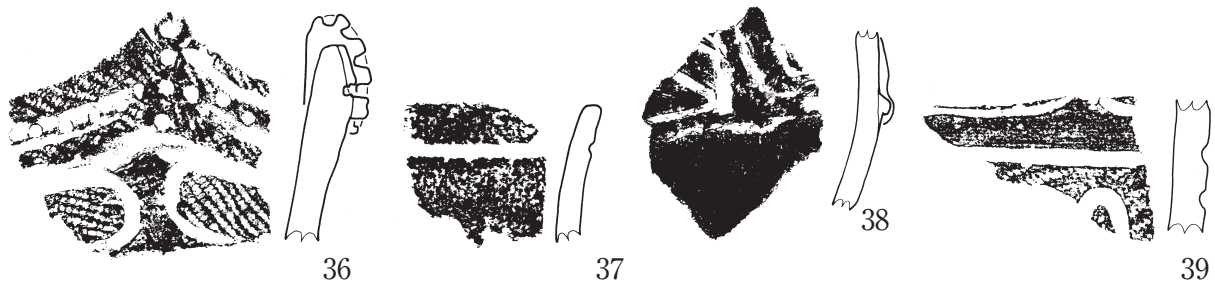
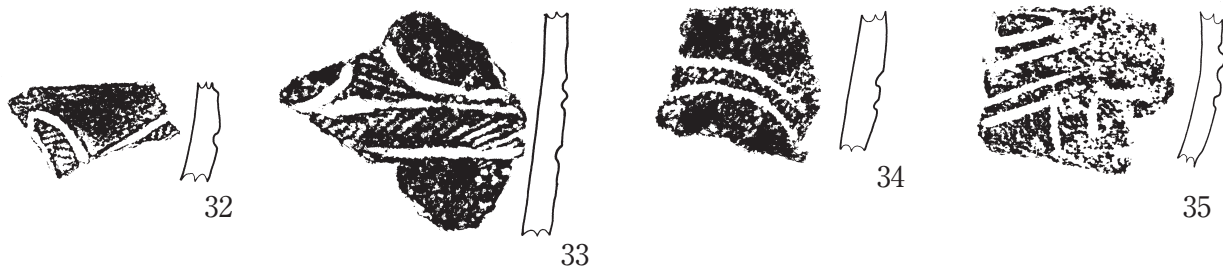


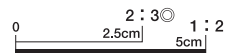
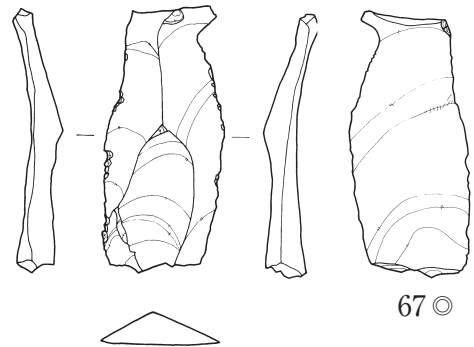
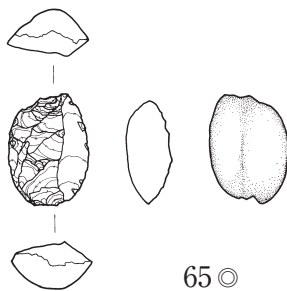
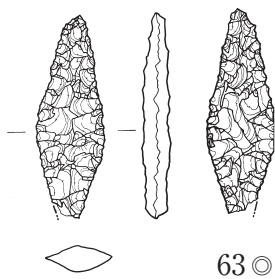
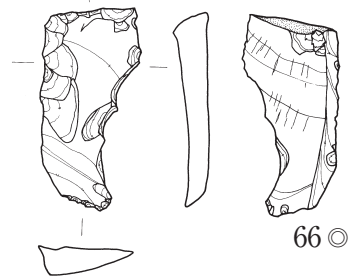
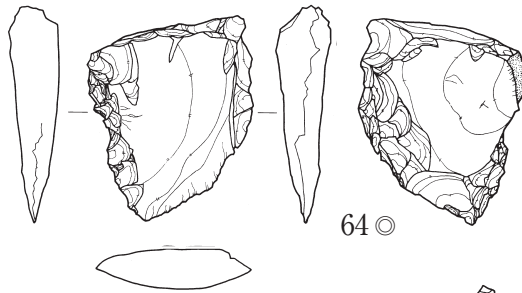
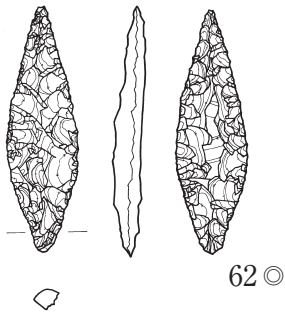
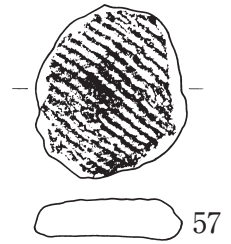
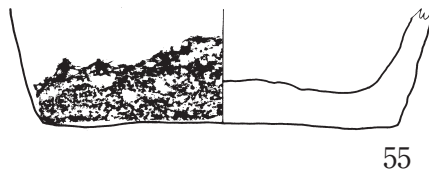
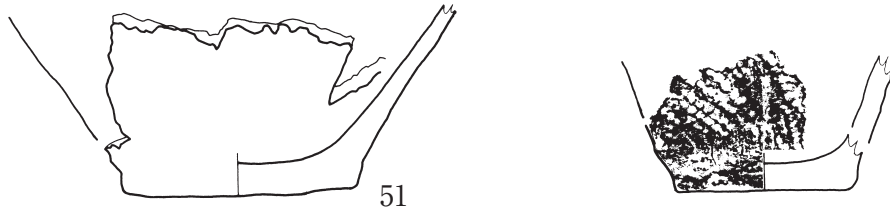
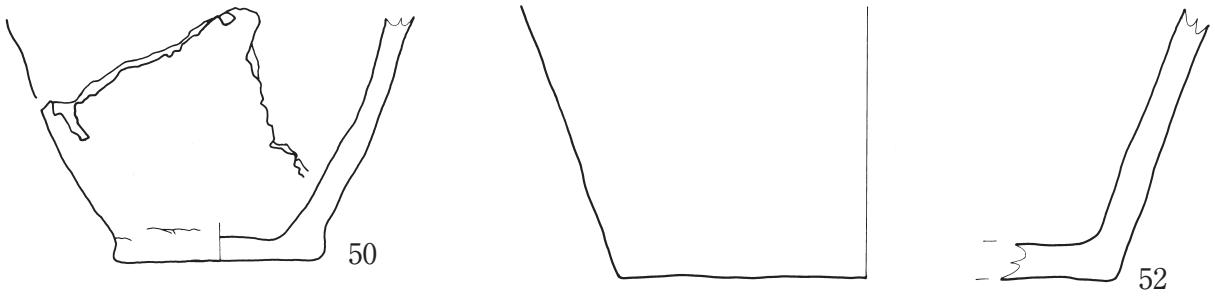
30

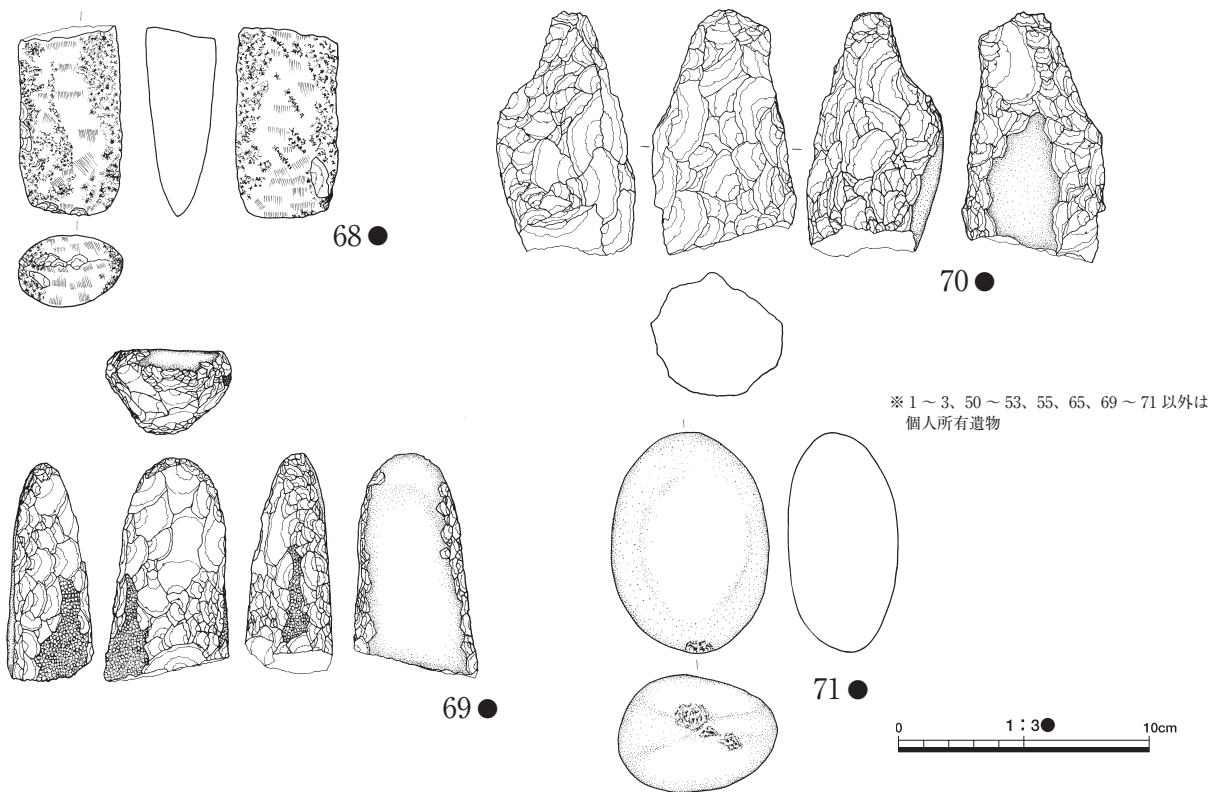


31









※ 1～3、50～53、55、65、69～71 以外は
個人所有遺物

14. 伝吉Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図B

所在地：第 42・43・44 地割地内（字田ノ端・
笹花・伝吉）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（前期）・石器

現況：畑地・山林

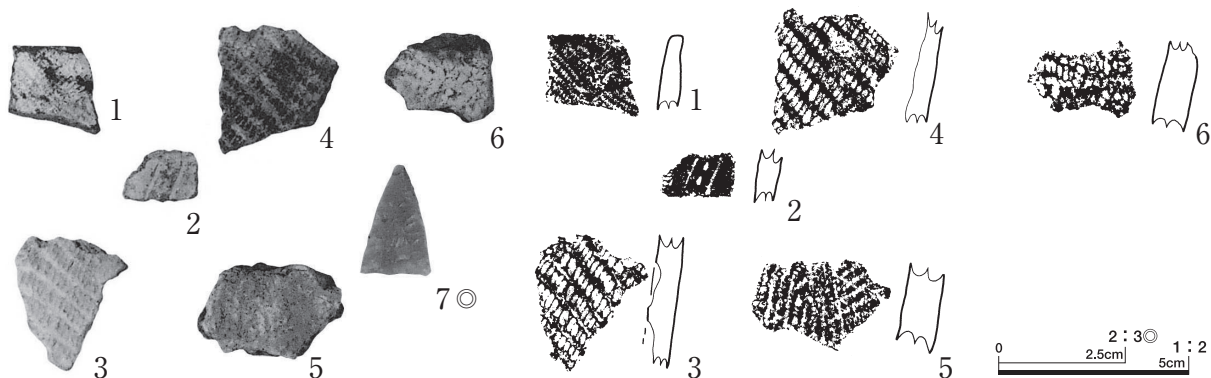
標高：約 85～90m



伝吉Ⅱ遺跡近景（西から）

JR 角浜駅から西北西へ約 2.7km、太平洋岸から約 2.0km、北緯 40° 25′ 45″ 東経 141° 40′ 19″ 付近にあたる二十一川南側の段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代前期の土器片、石鏃を採集したことから、新規遺跡として登録した。

現況は主に畑地で、保存状況は概ね良好である。



15. 伝吉Ⅲ遺跡 ^{でんきちさん いせき} <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第44地割地内（字伝吉）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器

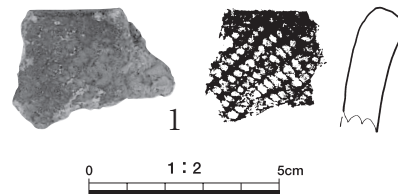
現況：畑地・宅地

標高：約75～90m

JR角浜駅から西北西へ約2.9km、太平洋岸から約2.5km、北緯40°25′34″ 東経141°40′10″付近にあたる丘陵地北側の斜面に位置する。今回の踏査で縄文土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は良好であると見られる。



伝吉Ⅲ遺跡近景（北東から）



16. 伝吉Ⅳ遺跡 ^{でんきちよん いせき} <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第44地割地内（字伝吉）

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：鉄滓

現況：畑地

標高：約85m

JR角浜駅から西北西へ約2.9km、太平洋岸から約2.5km、北緯40°25′33″ 東経141°40′08″付近にあたる伝吉Ⅲ遺跡の範囲上に位置する。伝吉沢の南辺で鉄滓を採集したことから、製鉄関連遺跡として伝吉Ⅲ遺跡とは別に新規遺跡として登録した。現況は畑地で、鉄滓の包蔵量は少ないと見られる。



伝吉Ⅳ遺跡近景（南から）



17. 伝吉V遺跡 ^{でんきちごいせき} <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第44地割地内（字伝吉）

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：鉄滓

現況：山林

標高：約95m

JR角浜駅から西北西へ約3.2km、太平洋岸から約2.5km、北緯40°25′40″ 東経141°39′57″付近にあたる伝吉・郷呂線南側の段丘下に位置する。今回の踏査で鉄滓を採集したこ



伝吉V遺跡近景（南から）

とから、新規遺跡として登録した。小コンテナ（42cm×32cm×11cm）で約1/3を採集したが、包蔵量は多くないと見られる。以前は畑地で、現況は山林である。



18. 北ノ沢I遺跡 ^{きたのさわいちいせき} <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（中期）・石器

現況：畑地

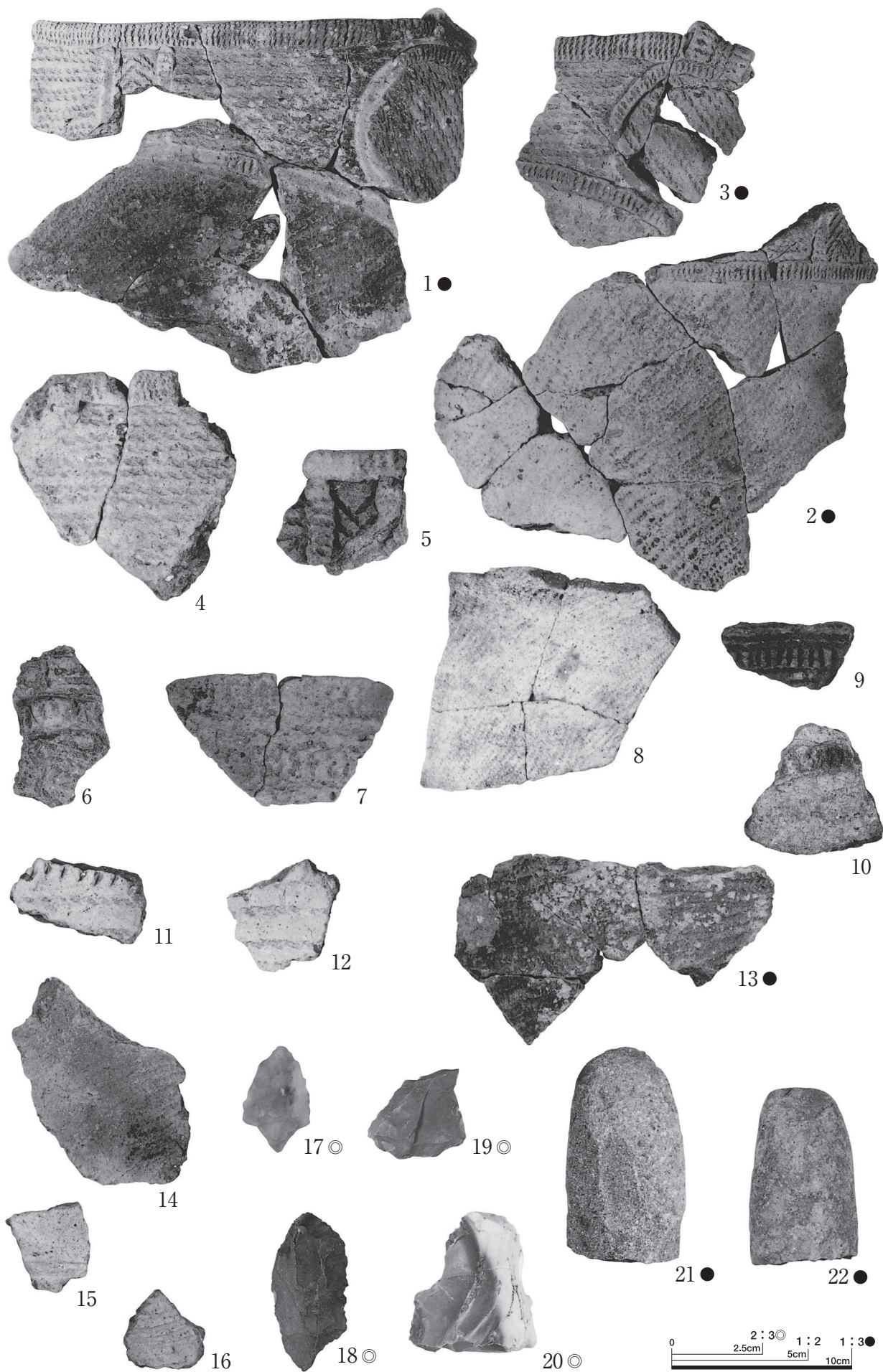
標高：約55～70m

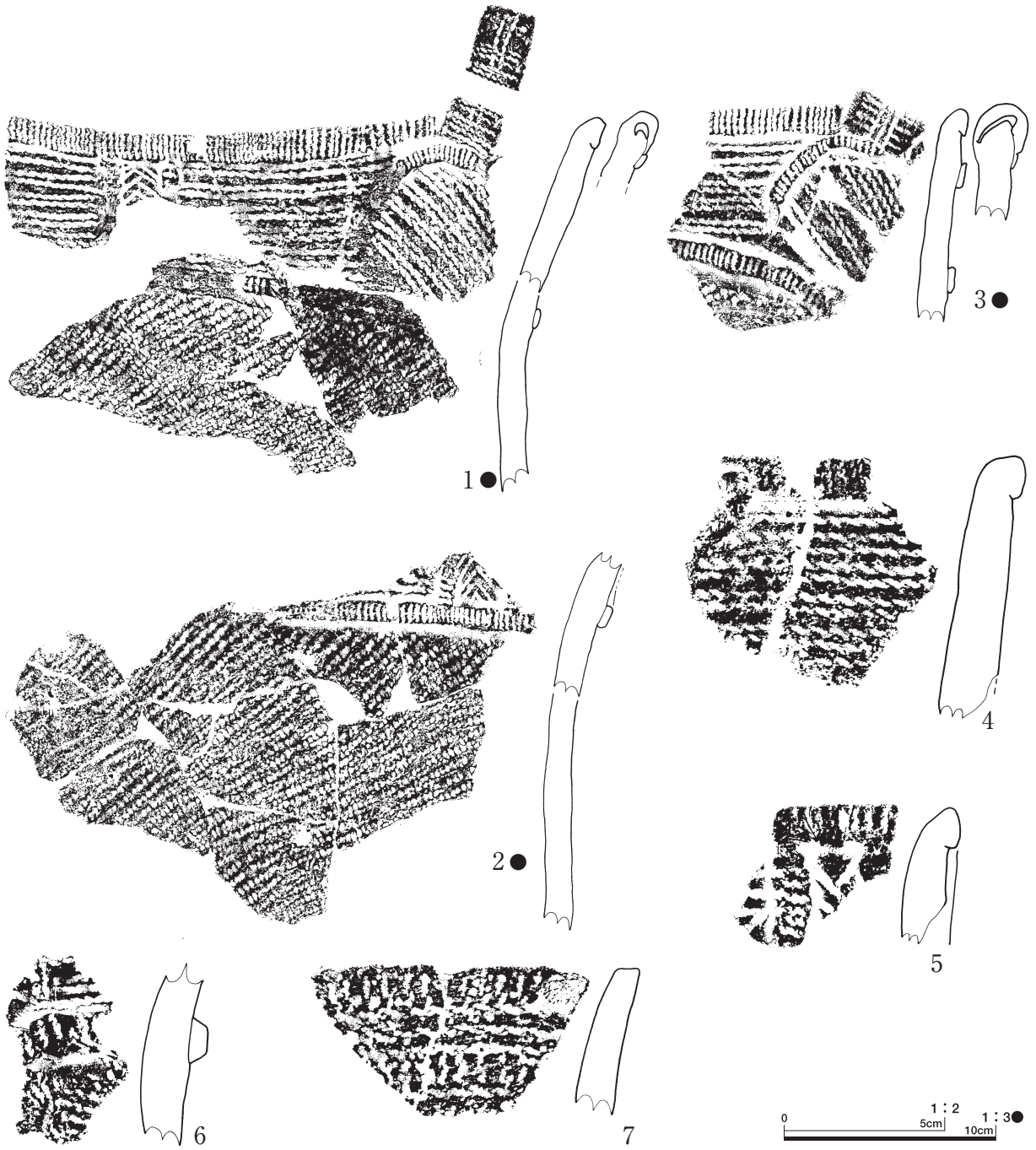
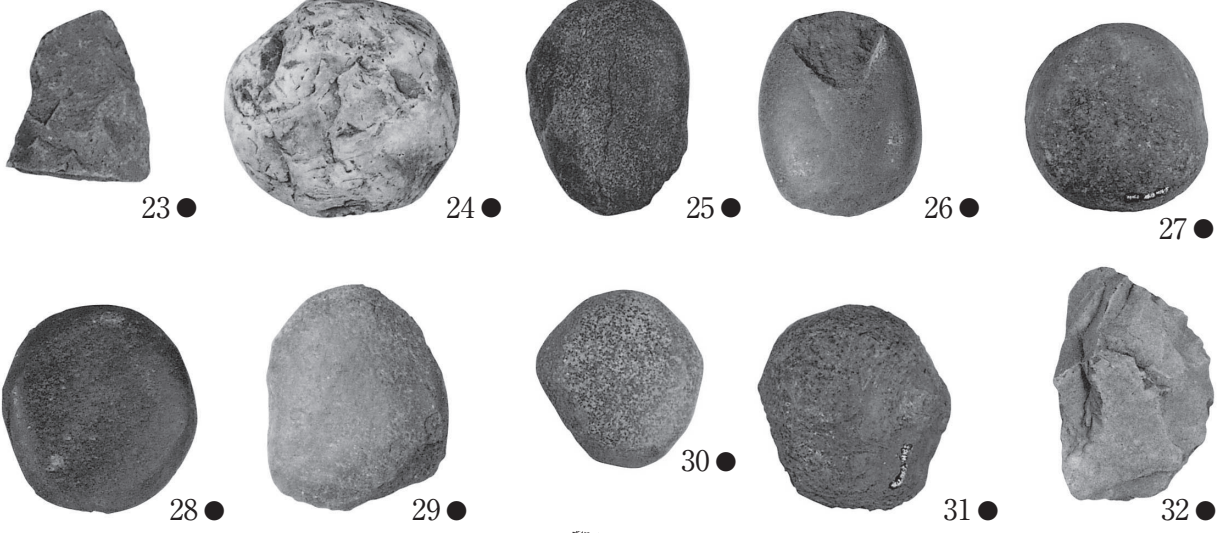
JR平内駅から西北西へ約2.2km、太平洋岸から約1.8km、北緯40°25′32″ 東経141°40′39″付近あたる渋谷川と伝吉沢の間の段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代中期の



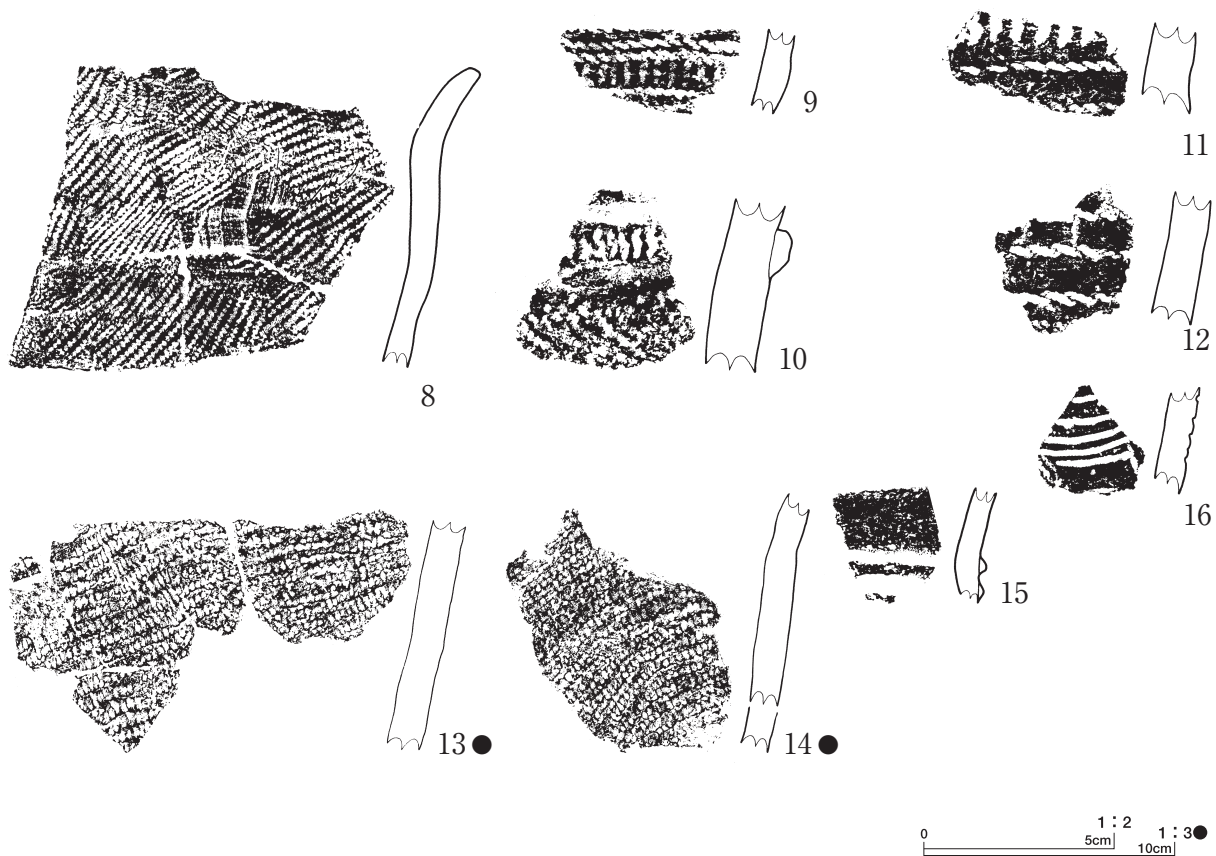
北ノ沢I遺跡近景（西から）

土器片、石鏃・削搔器・石斧・敲石・剥片を小型のコンテナ（42cm×32cm×11cm）で約1箱分を採集したことから、新規遺跡として登録した。遺物の分布密度が高く、遺跡の保存状況は良好であると見られる。





0 1 : 2 1 : 3 ●
5cm 10cm



19. ^{きたのさわに いせき}北ノ沢Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：散布地

時代：縄文時代・古代

遺物：縄文土器・土師器

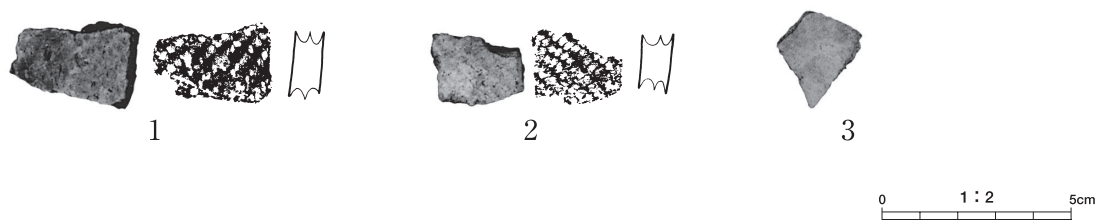
現況：畑地

標高：約75～85m

JR平内駅から西北西へ約2.4km、太平洋岸から約2.1km、北緯40°25′32″ 東経141°40′32″付近にあたる丘陵地南側の緩斜面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片、土師器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は道路工事により一部破壊されたと見られる。



北ノ沢Ⅱ遺跡近景（南東から）



20. ^{きたの さわさん い せき}北ノ沢Ⅲ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器

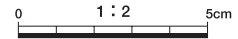
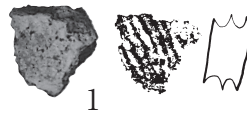
現況：畑地・水田

標高：約90～95m

JR平内駅から西へ約3km、太平洋岸から約2.6km、北緯40°25′27″ 東経141°40′05″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は水田により大部分が削平されたと見られる。



北ノ沢Ⅲ遺跡近景（西から）



21. ^{きたの さわよん い せき}北ノ沢Ⅳ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：散布地

時代：縄文時代・古代

遺物：縄文土器（前期）・土師器

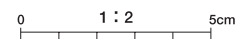
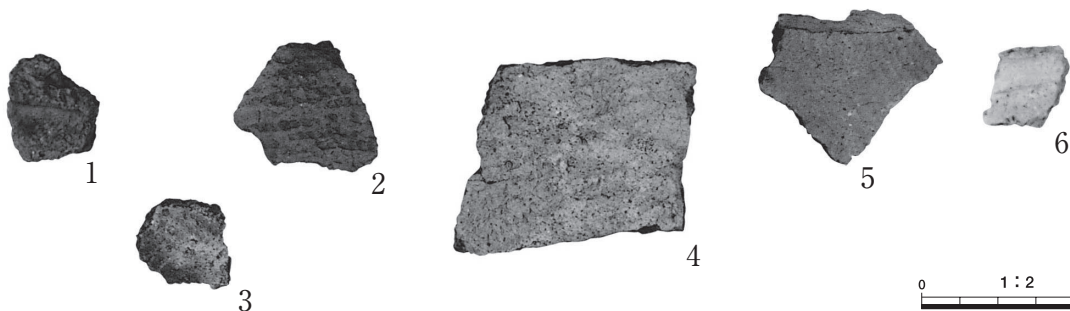
現況：畑地・水田

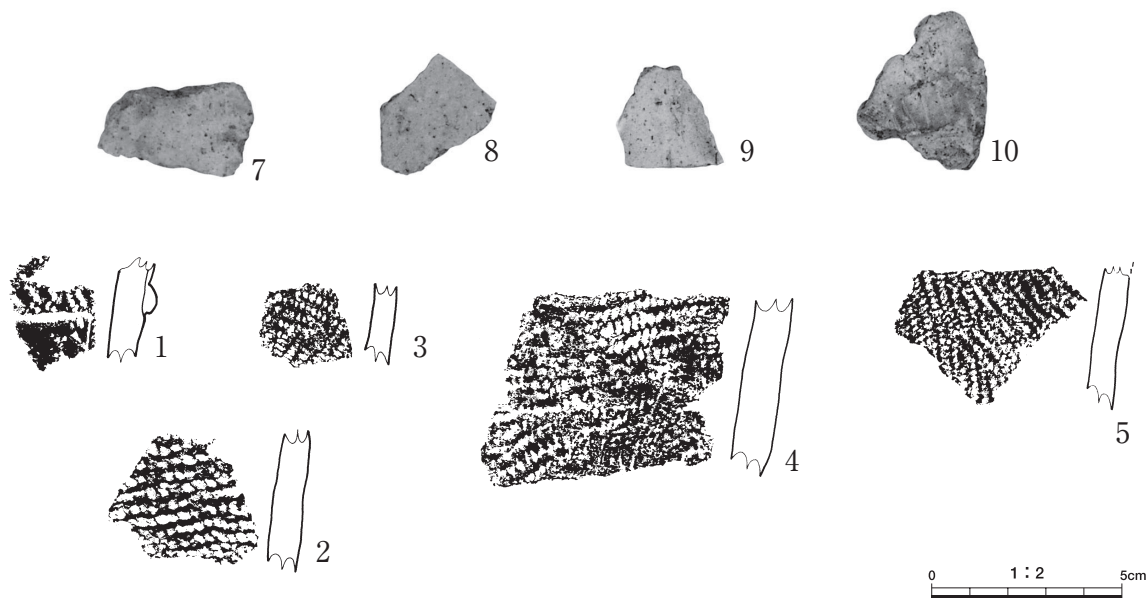
標高：約80～85m

JR平内駅から西へ約2.7km、太平洋岸から約2.6km、北緯40°25′15″ 東経141°40′15″付近にあたる段丘面上に位置する。現在植林されている遺跡の東側で多くの土器が出土したとのことである。今回の踏査で縄文時代前期を中心とした土器片、土師器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に水田で、保存状況は一部破壊されたと見られる。



北ノ沢Ⅳ遺跡近景（南から）





22. ^{きたのさわごいせき}北ノ沢V遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：鉄滓

現況：畑地

標高：約75m

JR平内駅から西北西へ約2.4km、太平洋岸から約2.1km、北緯40°25′30″東経141°40′29″付近にあたる渋谷川支流の沢の北側に位置する。今回の踏査で鉄滓を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は畑地で、現在も多くの鉄滓を地表面で確認できる。



北ノ沢V遺跡近景（南から）



23. 北ノ沢VI遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第45地割22(字北ノ沢)

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：鉄滓

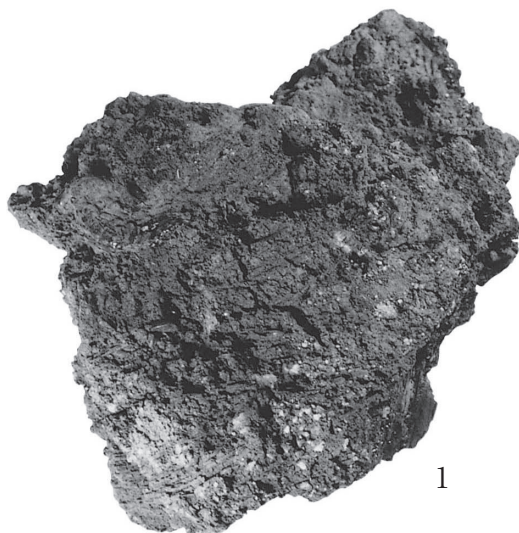
現況：畑地

標高：約80m

JR平内駅から西北西へ約2.6km、太平洋岸から約2.2km、北緯40°25′30″東経141°40′20″付近にあたる個人住宅西側の畑地に位置する。今回の踏査で鉄滓を採集したことから、新規遺跡として登録した。中型のコンテナ(42cm×32cm×20cm)で約1箱分で採集をやめたが、包蔵量は多量であると見られる。



北ノ沢VI遺跡近景(南から)



※1~3
0 1:2 5cm



24. ^{きたのさわなないせき}北ノ沢Ⅶ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：鉄滓

現況：牧草地

標高：約95m

JR平内駅から西へ約3km、太平洋岸から約2.7km、北緯40°25′30″ 東経141°40′20″付近にあたる北ノ沢Ⅲ遺跡の西側に位置する。今回の踏査で鉄滓を採集したことから、新規遺跡として登録した。以前は畑地であったが、鉄滓が多く出土し「金糞畑」と呼ばれていた。現況は牧草地である。



北ノ沢Ⅶ遺跡近景（北から）



25. ^{きたのさわはちいせき}北ノ沢Ⅷ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：鉄滓

現況：山林

標高：約95m

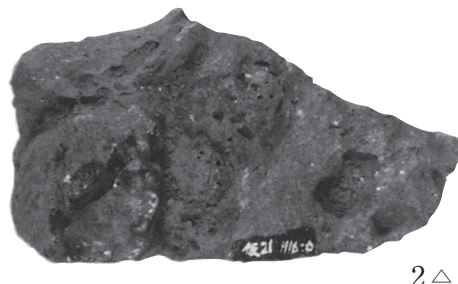
JR平内駅から西へ約2.9km、太平洋岸から約2.7km、北緯40°25′15″ 東経141°40′70″付近にあたる渋谷川支流の北側に位置する。今回の踏査で鉄滓を採集したことから、新規遺跡として登録したが、採集量は少なかった。以前は畑地であったが、現況は山林である。



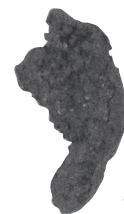
北ノ沢Ⅷ遺跡近景（北から）



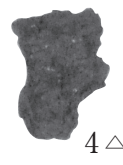
1△



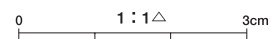
2△



3△



4△



26. ^{きたのさわきゅういせき}北ノ沢Ⅸ遺跡 <新規> 遺跡範囲図F

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：鉄滓

現況：山林

標高：約115m

JR平内駅から西南西へ約3.8km、太平洋岸から約3.8km、北緯40°24′58″東経141°39′30″付近にあたる渋谷川支流の沢の西側に位置する。今回の踏査で鉄滓を採集したことから、新規遺跡として登録したが、包蔵量は少ないと見られる。以前は畑地であったが、現況は山林である。



北ノ沢Ⅸ遺跡近景（北から）



27. ^{きたのさわじゅういせき}北ノ沢Ⅹ遺跡 <新規> 遺跡範囲図F

所在地：第45地割地内（字北ノ沢）

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：鉄滓

現況：山林

標高：約145m

JR平内駅から西南西へ約3.9km、太平洋岸から約3.8km、北緯40°25′01″東経141°39′25″付近にあたる渋谷川支流沿いに位置する。今回の踏査で鉄滓を採集したことから、新規遺跡として登録したが、包蔵量は多くないと見られる。以前は畑地であったが、現況は山林である。



北ノ沢Ⅹ遺跡近景（北から）



28. ^{きたひらないいち いせき}北平内Ⅰ遺跡 <新規> 遺跡範囲図A

所在地：第38地割地内（字北平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器・石器

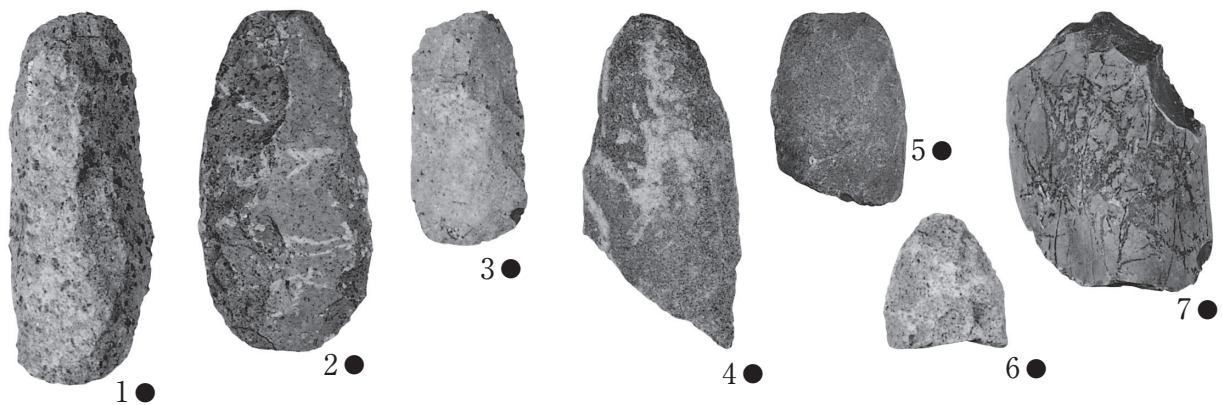
現況：畑地・山林

標高：約15m

JR平内駅から北西へ約900m、太平洋岸から約250m、北緯40°25′47″ 東経141°41′47″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片、石斧・礫器を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は畑地と山林で、保存状況は線路に隣接しているため一部破壊された可能性もあるが、概ね良好であると見られる。



北平内Ⅰ遺跡近景（北西から）



29. ^{きたひらないに いせき}北平内Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第38地割地内（字北平内）

種別：散布地

時代：縄文時代・古代

遺物：縄文土器・土師器

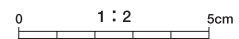
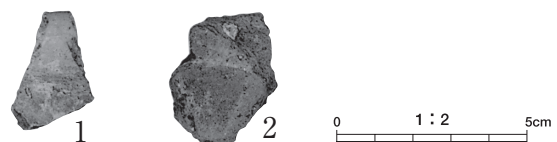
現況：畑地・宅地

標高：約15m

JR平内駅から北へ約500m、太平洋岸から約200m、北緯40°25′38″ 東経141°42′06″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片、土師器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は畑地で、保存状況は概ね良好であると見られる。



北平内Ⅱ遺跡近景（北西から）



30. ^{きたひらないさん い せき}北平内Ⅲ遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第38地割地内（字北平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器

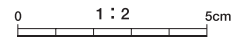
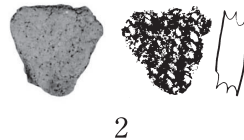
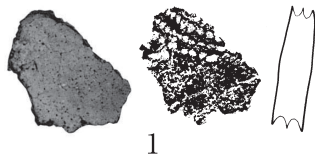
現況：山林・畑地

標高：約20m

JR平内駅から北西へ約600m、太平洋岸から約550m、北緯40°25′36″ 東経141°41′51″付近にあたる段丘面上に位置する。以前は畑地で多くの土器片が出土したとのことである。今回の踏査で縄文土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に山林で、保存状況は良好であると見られる。



北平内Ⅲ遺跡近景（東から）



31. ^{きたひらないよん い せき}北平内Ⅳ遺跡 <新規> 遺跡範囲図D

所在地：第38地割地内（字北平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（後期）・剥片

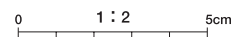
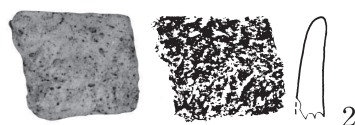
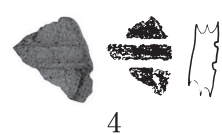
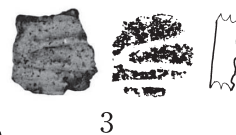
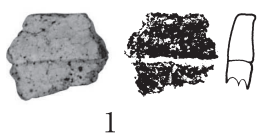
現況：山林・畑地

標高：約25m

JR平内駅から北西へ約700m、太平洋岸から約600m、北緯40°25′36″ 東経141°41′45″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代後期の土器片、剥片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に山林で、保存状況は良好であると見られる。



北平内Ⅳ遺跡近景（北西から）



32. 北平内V遺跡 きたひらないごいせき <新規> 遺跡範囲図D

所在地：第38・43地割地内（字北平内・笹花）

種別：散布地

時代：縄文時代・弥生時代

遺物：縄文土器（後期・晩期）・縄文晩期後葉
～弥生前期の土器

現況：畑地・宅地

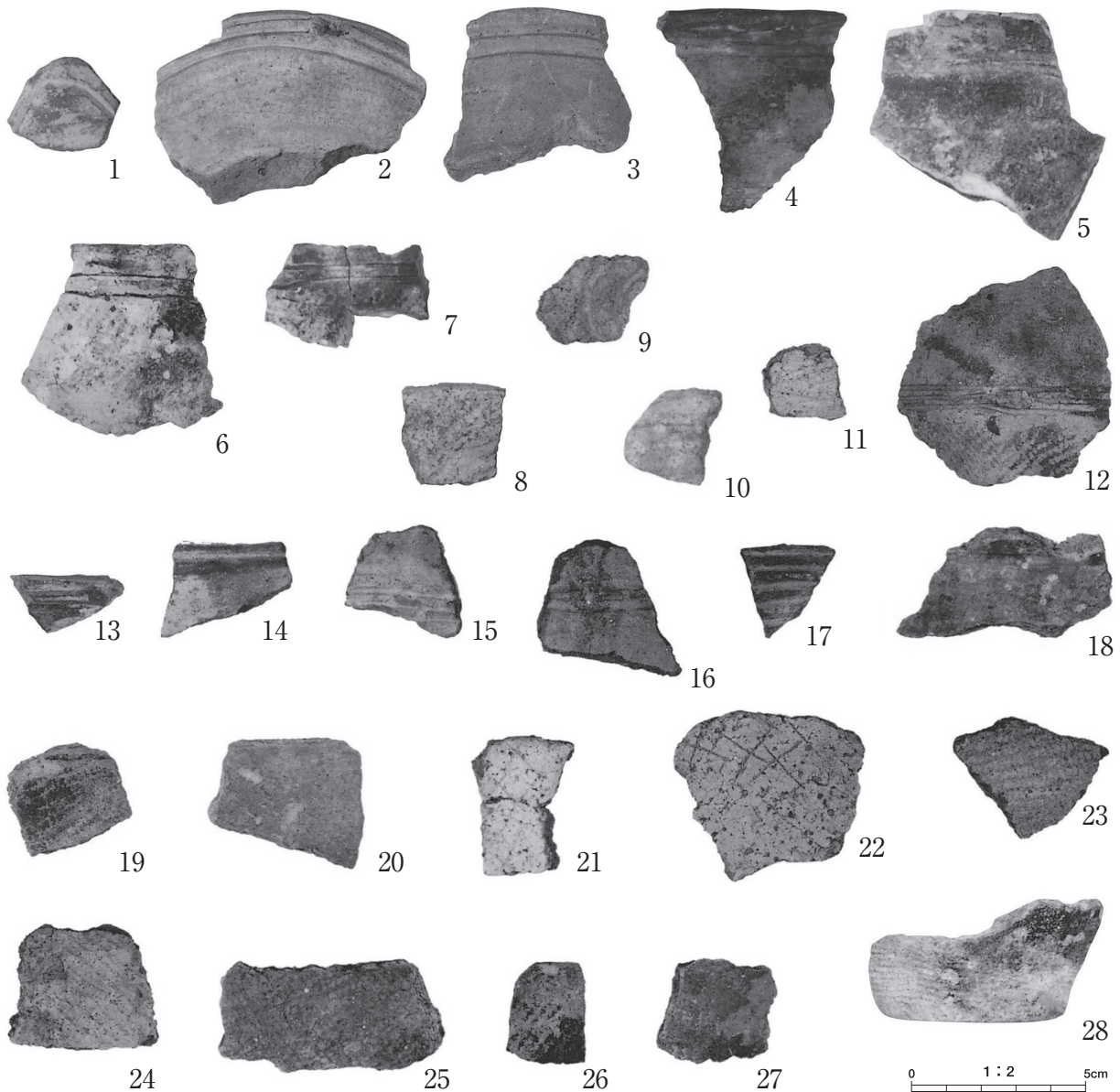
標高：約35m

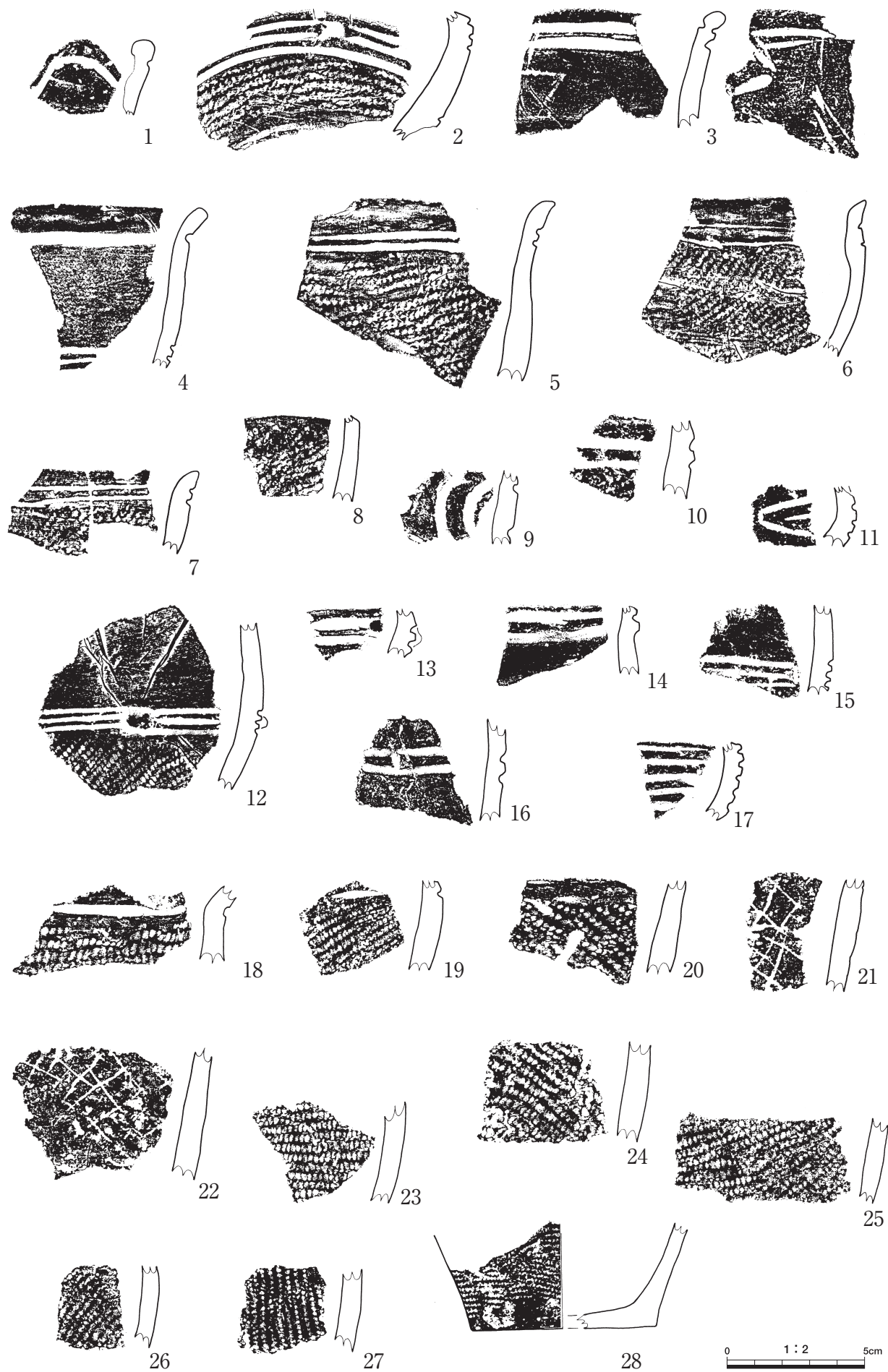
JR平内駅から北西へ約900m、太平洋岸から約600m、北緯40°25′37″ 東経141°41′38″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の

踏査で縄文時代後期・晩期・縄文晩期後葉～弥生前期の土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は国道45号線の工事の際に一部破壊されたものと見られる。



北平内V遺跡近景（北東から）





33. ^{きたひらないろく い せき}北平内VI遺跡 <新規> 遺跡範囲図D

所在地：第 38 地割地内（字北平内）

種 別：散布地

時 代：縄文時代

遺 物：縄文土器・石器

現 況：畑地

標 高：約 20m

JR 平内駅から北西へ約 500m、太平洋岸から約 600m、北緯 40° 25′ 30″ 東経 141° 41′ 51″ 付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片、石斧・敲石を採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は良好である。



北平内VI遺跡近景（南西から）



34. ^{はまひらない い せき}浜平内遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第 36 地割地内（字浜平内）

種 別：散布地

時 代：縄文時代

遺 物：縄文土器（早期・晩期）・石器

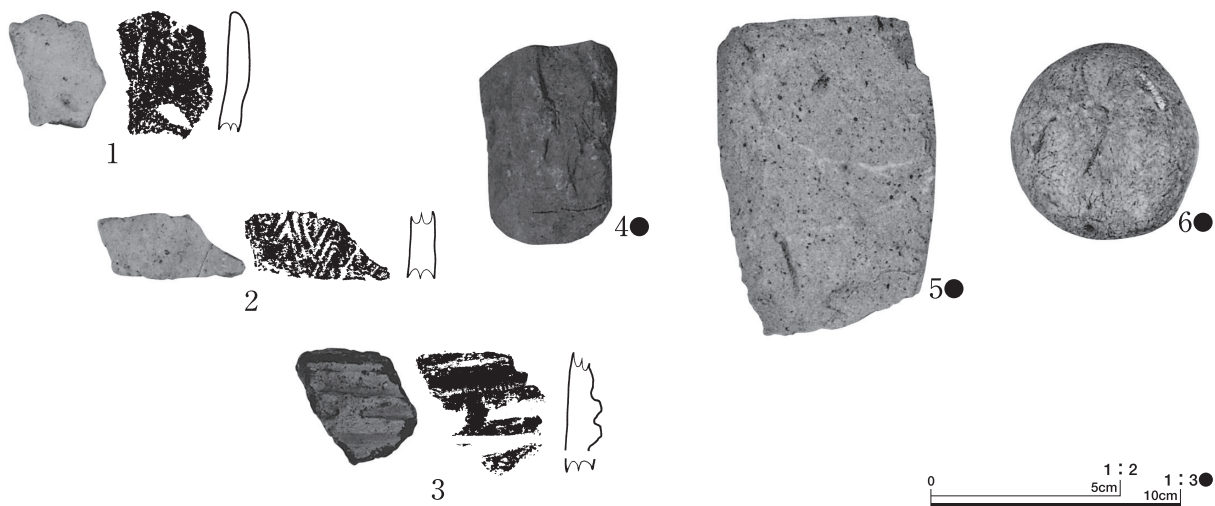
現 況：畑地・宅地

標 高：約 10m

JR 平内駅から北東へ約 100m、太平洋岸から約 100m、北緯 40° 25′ 22″ 東経 141° 42′ 13″ 付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代早期・晩期の土器片、石斧・敲石を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は概ね良好であると見られる。



浜平内遺跡近景（南から）



35. ^{ひらないいち いせき}平内 I 遺跡 < 県遺跡コード：IF48 - 0170 > 遺跡範囲図D

所在地：第 34 地割地内（字東平内）

種 別：散布地

時 代：縄文時代

遺 物：縄文土器（前期・中期）・剥片

現 況：山林・畑地・宅地

標 高：約 30 ～ 45m

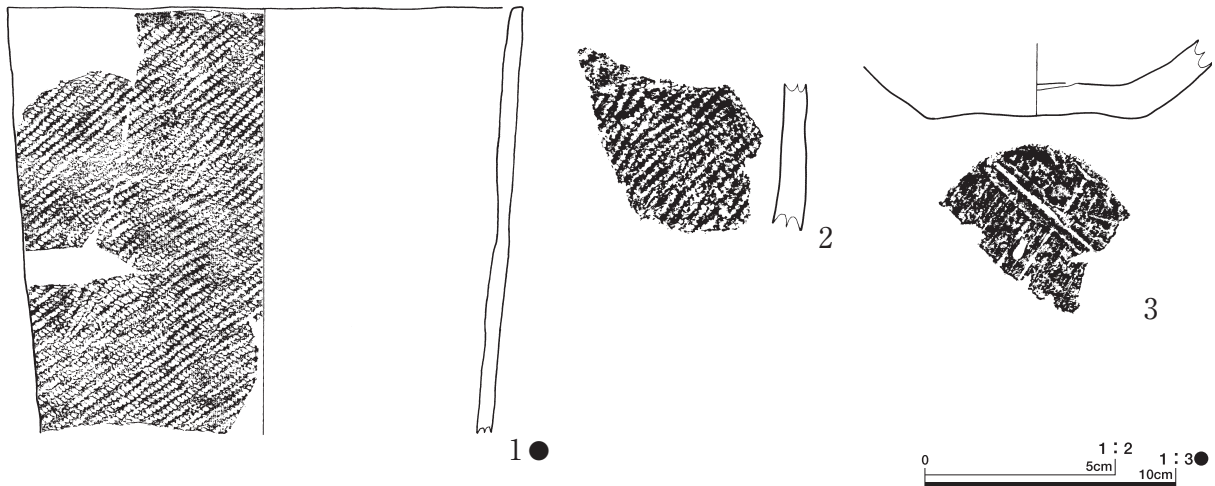
JR 平内駅から南西へ約 500m、太平洋岸から約 800m、北緯 40° 25′ 16″ 東経 141° 41′ 50″ 付近にあたる平内川北側の段丘面上に位置する。周知の遺跡で、縄文時代前期・中期の土器、



平内 I 遺跡近景（南西から）

フレークが採集され、平内遺跡として登録されていたが、平内地区の遺跡数の増加に伴い名称変更を行った。今回の踏査では縄文土器片、剥片を採集した。保存状況は水田や宅地造成等により一部破壊されていると見られる。





36. ^{ひらないに いせき}平内Ⅱ遺跡 <県遺跡コード：IF48 - 0017> 遺跡範囲図D

所在地：第43地割地内（字笹花）

種別：散布地

時代：縄文時代・近世

遺物：縄文土器（中期末～後期前葉）・石器
鉄製品・煙管・絵銭

現況：山林

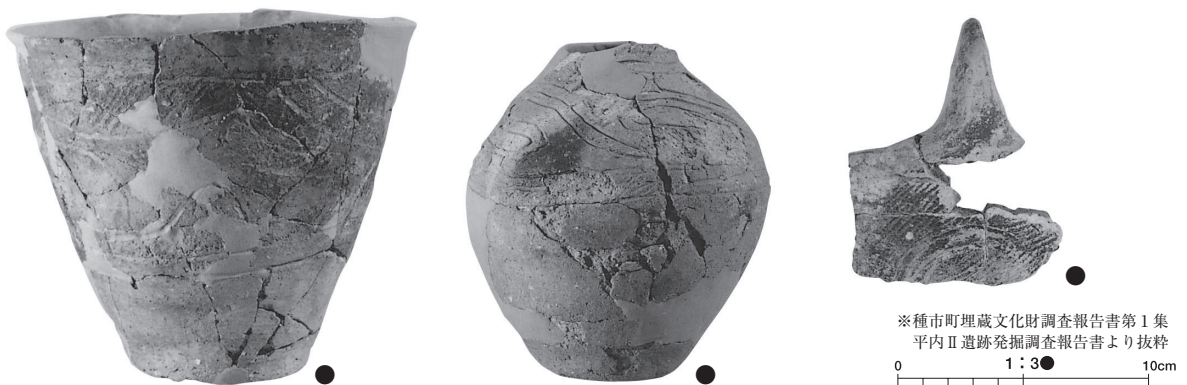
標高：約35～60m

JR平内駅から北西へ約1.2km、太平洋岸から約900m、北緯40°25′36″ 東経141°41′27″付近にあたる緩やかに起伏する丘陵上に位置する。



平内Ⅱ遺跡近景（南から）

平成10年度に平内工業団地整備事業に伴う試掘調査により発見され、新規遺跡として登録された。その後平成11年度～13年度まで発掘調査が行われ、多数の土坑が検出された。そのほとんどが陥し穴状遺構で、遺跡の一部は狩猟場跡であることが判明した。遺物は縄文時代中期末葉～後期前葉の土器片、石器、近世の鉄製品・煙管・絵銭が出土している。遺跡は以前は畑地であったがほぼ全域植林したため現況は山林で、保存状況は概ね良好であると見られる。



※種市町埋蔵文化財調査報告書第1集
平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書より抜粋

37. ^{ひらないさん}平内Ⅲ遺跡 <県遺跡コード：IF48 - 0194> 遺跡範囲図C・D

所在地：第34地割地内（字東平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（中期）・石器

現況：山林・畑地・宅地

標高：約30～45m

JR平内駅から南西へ約500m、太平洋岸から約700m、北緯40°25′11″ 東経141°41′52″付近にあたる平内川南側の段丘縁辺上に位置する。周知の遺跡で、縄文時代中期の土器が採集されている。今回の踏査では時期が特定できないが縄文土器片、磨石を採集した。保存状況は水田等により一部破壊されていると見られる。



平内Ⅲ遺跡近景（南西から）



38. ^{ひらないよん}平内Ⅳ遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第35地割地内（字平内）

種別：散布地

時代：縄文時代・古代

遺物：縄文土器（前期）・石器・土師器・須惠器

現況：水田・畑地・宅地

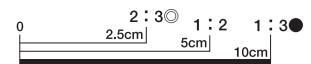
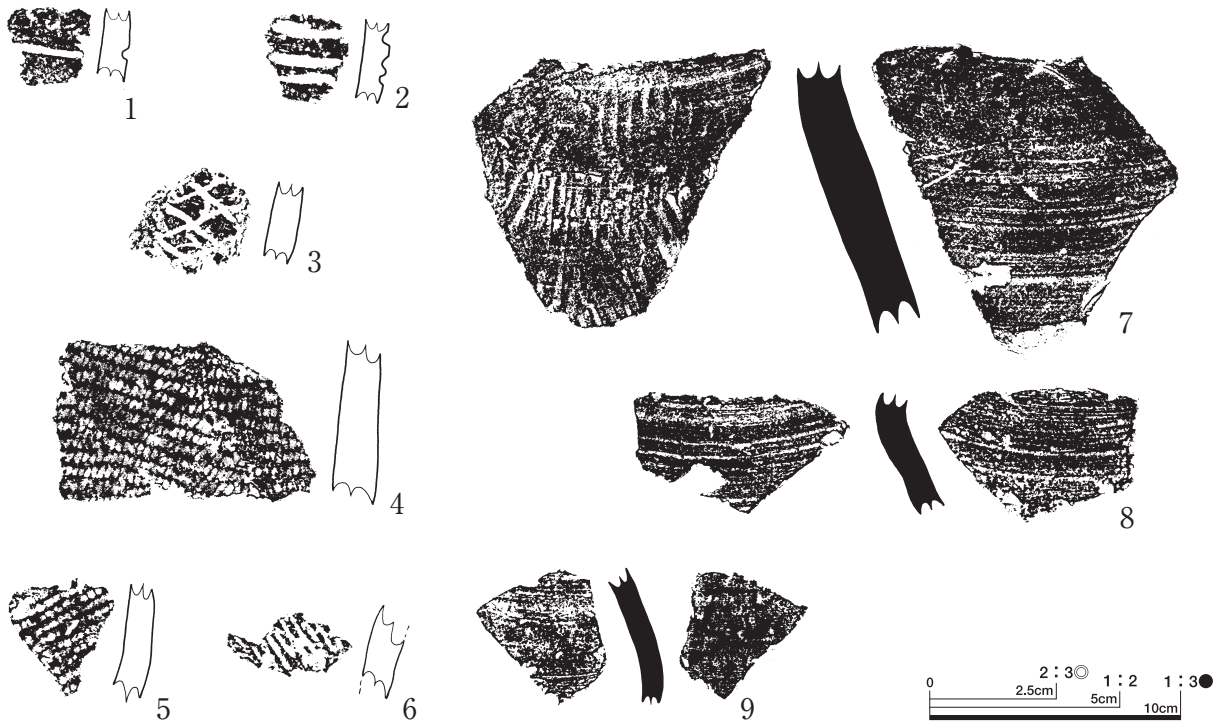
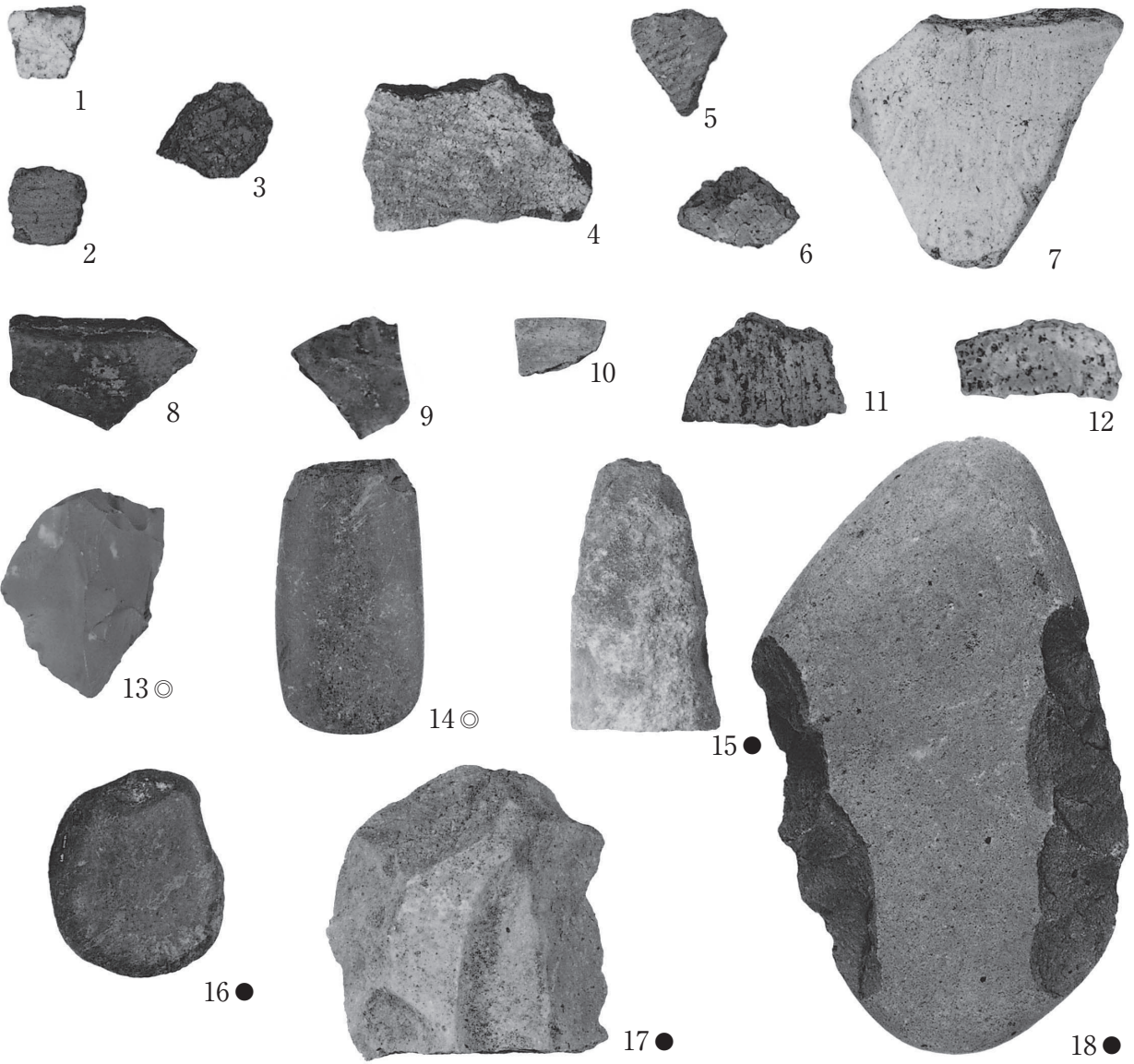
標高：約20～25m

JR平内駅から西へ約300m、太平洋岸から約600m、北緯40°25′20″ 東経141°41′55″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査



平内Ⅳ遺跡近景（北から）

で縄文時代前期の土器片、石斧・敲石、土師器片・須惠器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は概ね良好であると見られる。



39. ^{ひらないごいせき}平内V遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第35地割地内（字平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（前期）・石器

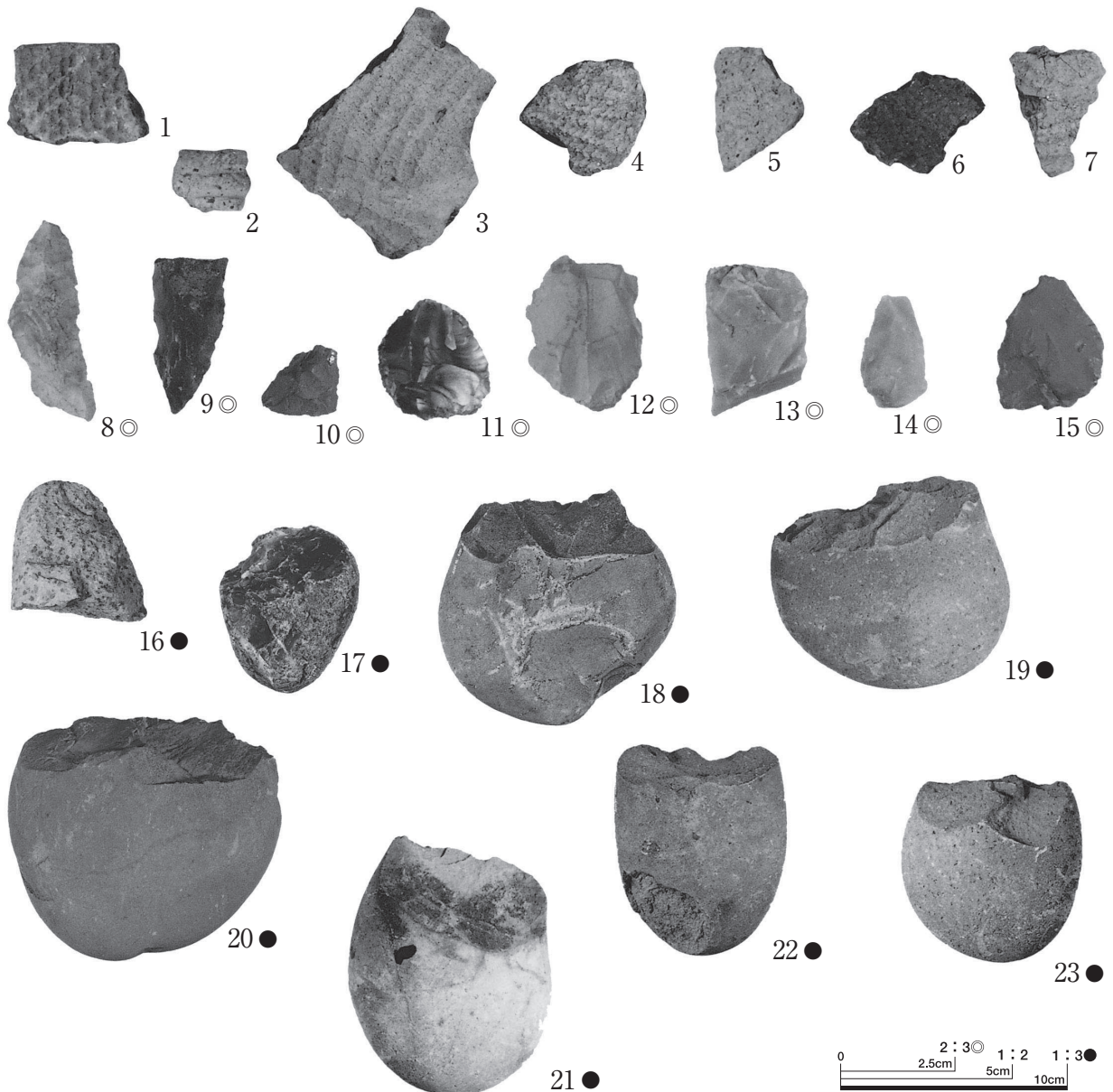
現況：水田・畑地・宅地

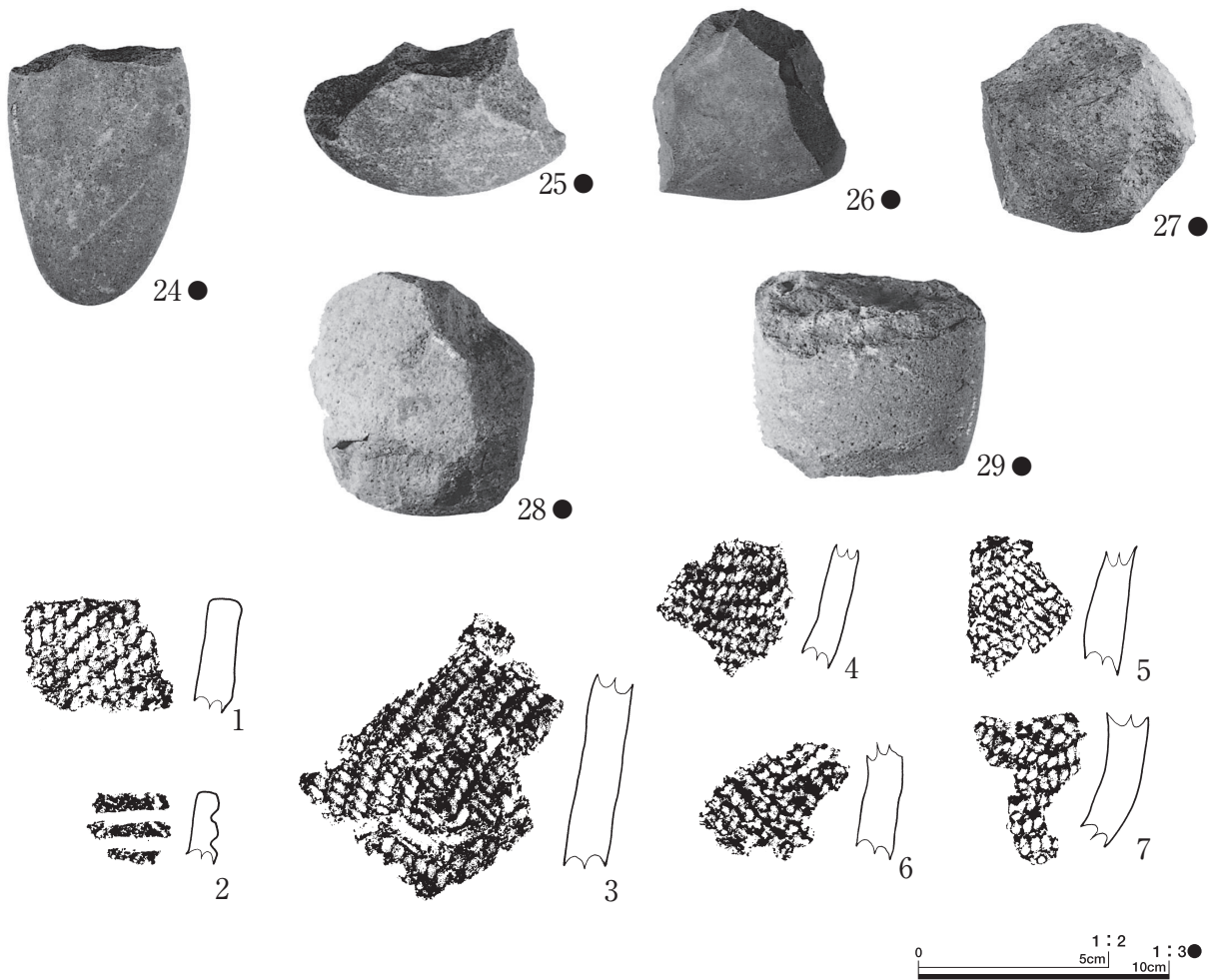
標高：約20m



平内V遺跡近景（南から）

JR平内駅から南南西へ約300m、太平洋岸から約450m、北緯40°25′13″東経141°42′08″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代前期の土器片、石斧・礫器を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に畑地と宅地で、保存状況は国道45号線の工事により一部破壊されたと見られる。





40. ^{みなみひらないちいせき}南平内 I 遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第 33 地割地内（字南平内）

種 別：散布地

時 代：縄文時代

遺 物：縄文土器（晩期）・製塩土器

現 況：水田

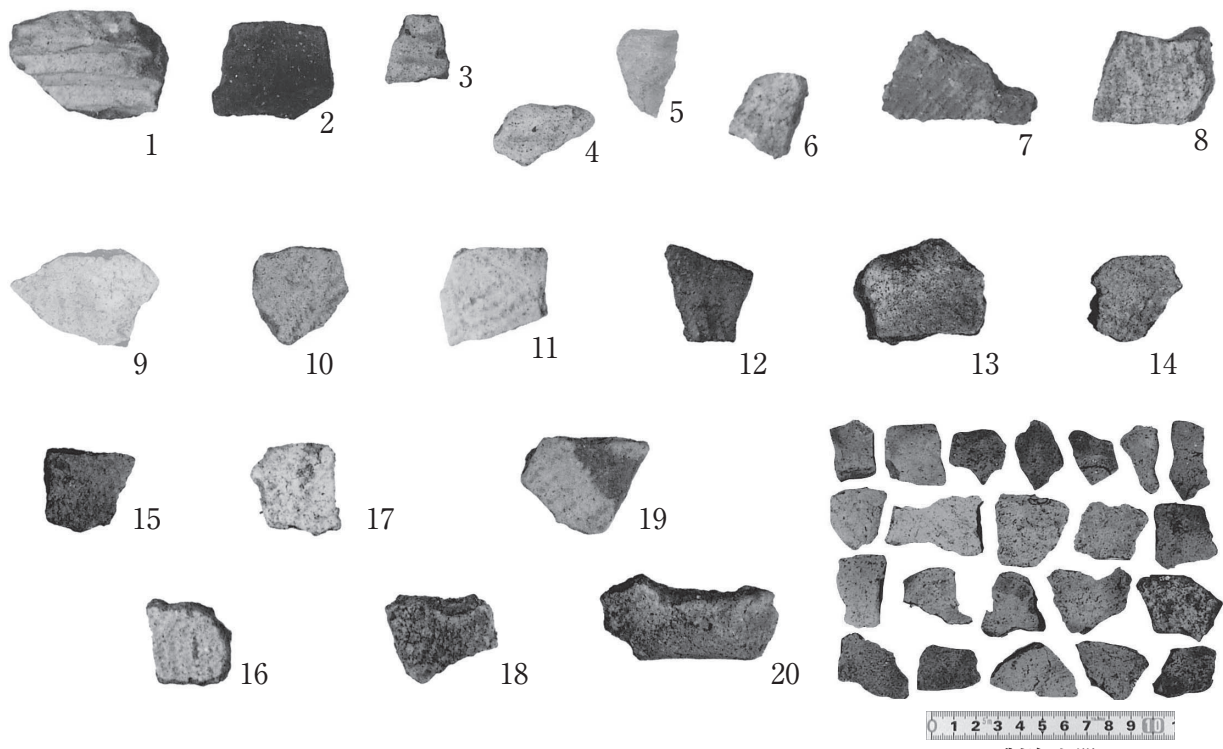
標 高：約 8 m

JR 平内駅から南東へ約 450m、太平洋岸から約 150m、北緯 40° 25′ 10″ 東経 141° 42′ 23″ 付近にあたる段丘直下の水田地帯に位置する。今回の踏査で薄手で無文の土器片、三叉文状の文様がある縄文時代晩期の土器片、回転縄文のある土器片を採集した。全て小破片のため断定は

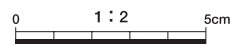
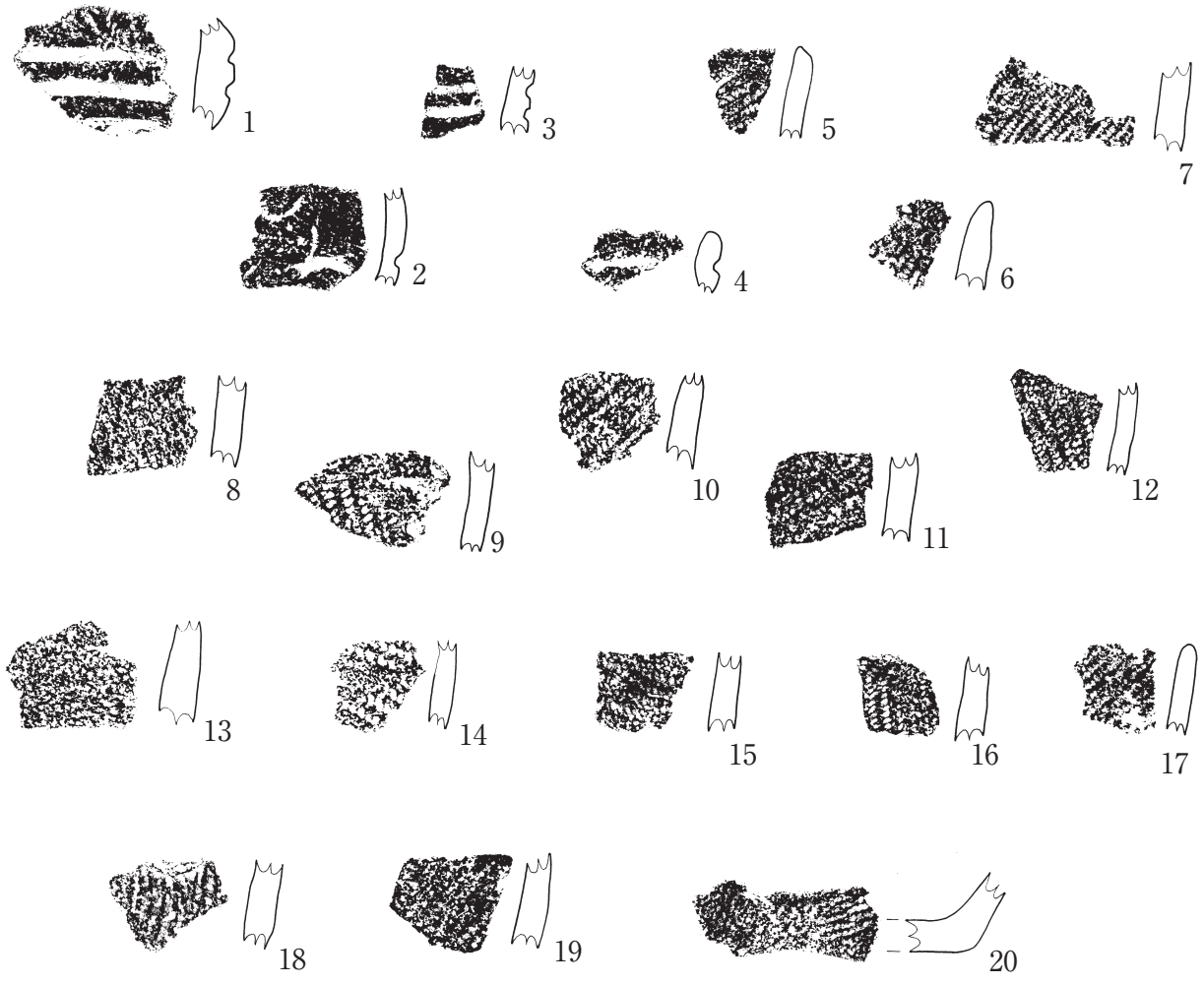


南平内 I 遺跡近景（西から）

できないが、9割以上は無文の土器片で、剥離や変色等の状況から製塩土器であると見られる。遺物は約 50m 四方の範囲でのみ散布し、周辺では確認できなかった。現在の汀線までは約 150m 程の距離で、時代によっては海底や汀線付近であった可能性がある。被熱した礫は採集できず、炉があったかは不明であるため種別は散布地としたが、製塩を行った遺跡であることも考えられる。残存状況はかなり破壊されていると見られる。



製塩土器



みなみひらないに いせき
41. 南平内Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第33地割地内（字南平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器・石器

現況：畑地

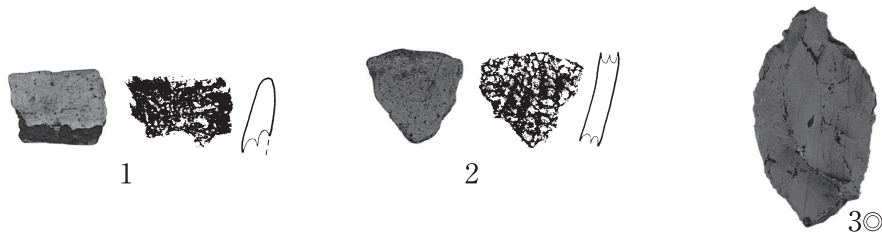
標高：約15～20m

JR平内駅から南東へ約400m、太平洋岸から約300m、北緯40°25′09″ 東経141°42′18″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片、石匙と見られる石器を採集



南平内Ⅱ遺跡近景（西から）

したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は概ね良好であると見られる。



みなみひらないさんいせき
42. 南平内Ⅲ遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第33地割地内（字南平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器・剥片

現況：畑地・宅地

標高：約25～30m

JR平内駅から南南西へ約500m、太平洋岸から約600m、北緯40°25′04″ 東経141°42′05″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片、剥片を採集したことから、



南平内Ⅲ遺跡近景（北から）

新規遺跡として登録した。現況は主に畑地で、保存状況は宅地造成等で一部破壊されていると見られる。



にしひらないいちいせき
 43. 西平内 I 遺跡 <新規> 遺跡範囲図D

所在地：第 37 地割地内（字西平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（後期）・石器・剥片

現況：山林

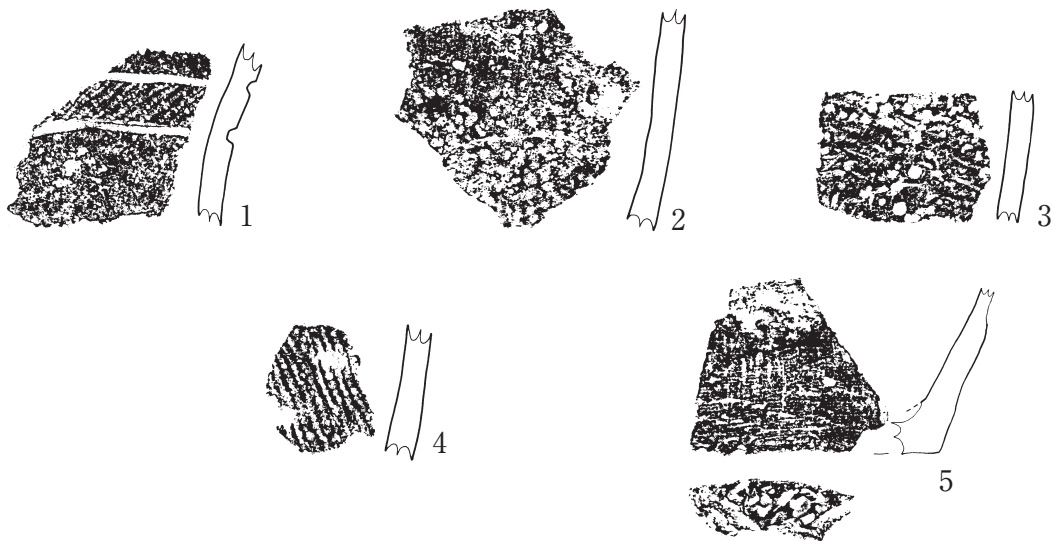
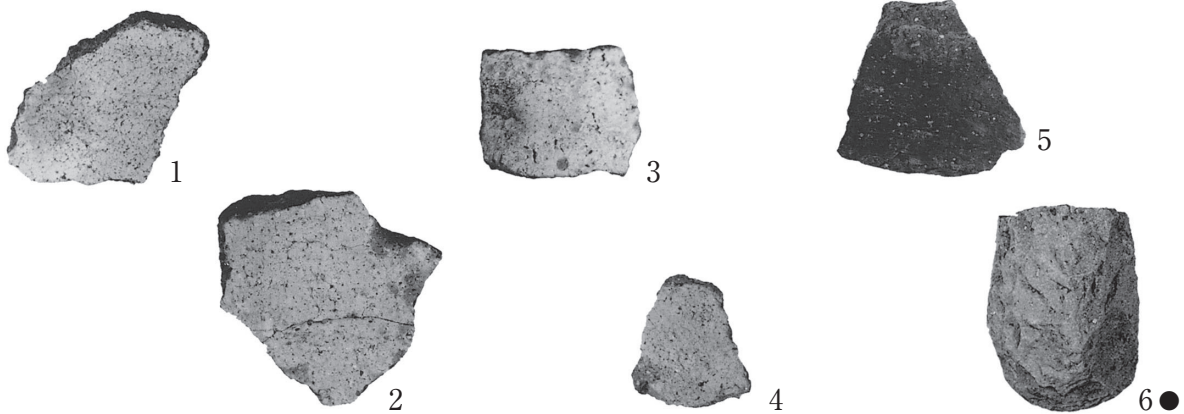
標高：約 25～30m

JR 平内駅から西北西へ約 1.7km、太平洋岸から約 1.4km、北緯 40° 25′ 33″ 東経 141° 40′ 59″ 付近にあたる二十一川と伝吉沢の合流地点南側の段丘面上に位置する。今回の踏査で



西平内 I 遺跡近景（北から）

縄文時代後期の土器片、石斧・剥片を採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は町道工事により一部破壊されているが、概ね良好であると見られる。



にしひらないにいせき
44. 西平内Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図D

所在地：第37地割地内（字西平内）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（前期）・石器

現況：水田・山林

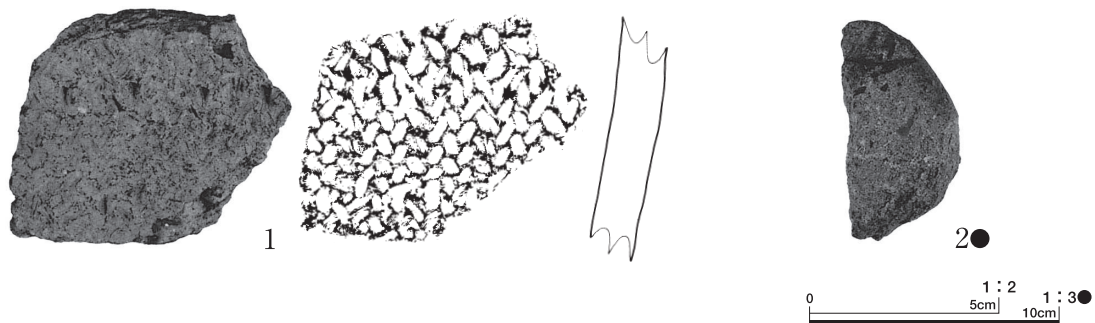
標高：約90m

JR平内駅から南西へ約1.9km、太平洋岸から約2.2km、北緯40°24'58" 東経141°40'54" 付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代前期の土器片、敲石を採集した



西平内Ⅱ遺跡近景（東から）

ことから、新規遺跡として登録した。現況は主に水田で、保存状況は一部破壊されていると見られる。



いしくらいせき
45. 石倉遺跡 <県遺跡コード：IF48 - 1025> 遺跡範囲図D

所在地：第37地割地内（字西平内）

種別：散布地

時代：縄文時代・古代

遺物：縄文土器（後期）・石器・土師器

現況：畑地・宅地

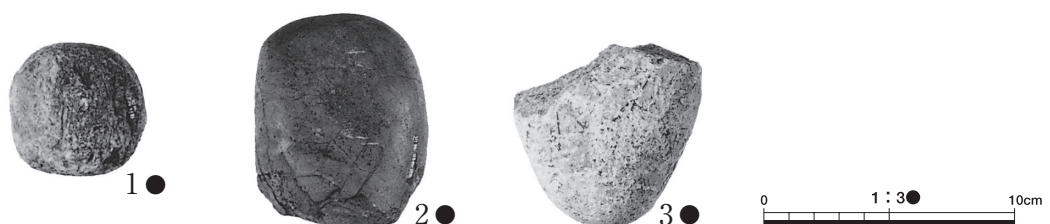
標高：約60～75m

JR平内駅から南西へ約1.4km、太平洋岸から約1.7km、北緯40°25'01" 東経141°41'16" 付近にあたる丘陵地緩斜面に位置する。周知の遺跡で、縄文時代後期の土器、土師器が採



石倉遺跡近景（東から）

集されている。今回の踏査では時期は特定できないが縄文土器片、敲石・礫器を採集した。保存状況は概ね良好であると見られる。



ひがしひらなにいちいせき
46. 東平内 I 遺跡 <新規> 遺跡範囲図C

所在地：第 34 地割地内（字東平内）

種 別：散布地

時 代：縄文時代

遺 物：縄文土器・石器

現 況：山林・畑地

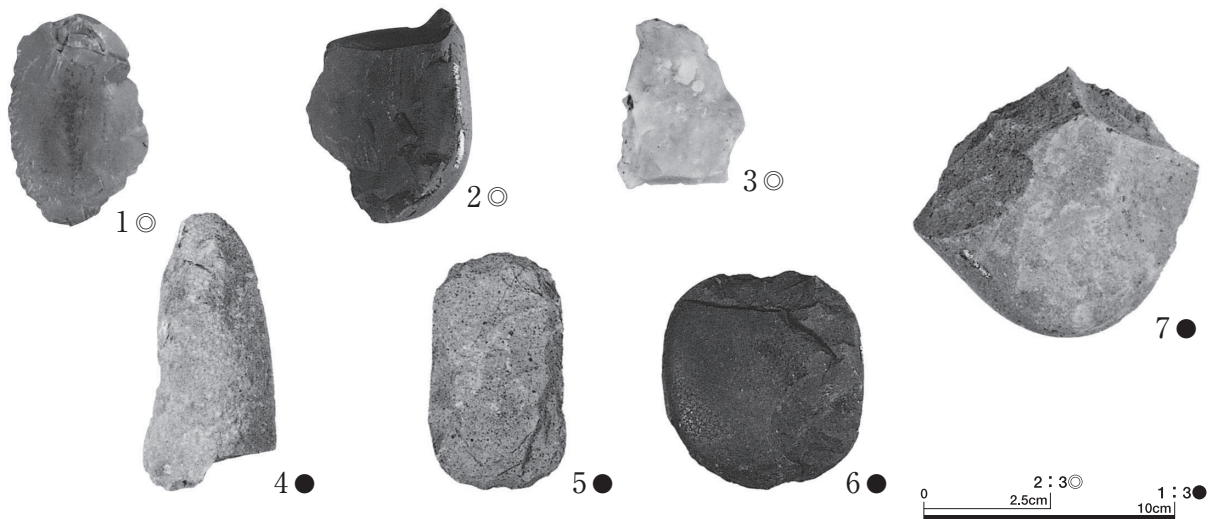
標 高：約 35m

JR 平内駅から南南西へ約 500m、太平洋岸から約 700m、北緯 40° 25′ 07″ 東経 141° 41′ 59″ 付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片、石斧・敲石・礫器・剥片を



東平内 I 遺跡近景（北から）

採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に山林で、保存状況は概ね良好である。



ひがしひらなにいせき
47. 東平内 II 遺跡 <新規> 遺跡範囲図D

所在地：第 34 地割地内（字東平内）

種 別：散布地

時 代：縄文時代

遺 物：縄文土器

現 況：畑地・宅地

標 高：約 55～60m

JR 平内駅から南西へ約 1.0km、太平洋岸から約 1.2km、北緯 40° 25′ 03″ 東経 141° 41′ 35″ 付近にあたる平内川北側の段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文土器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。現況は主に山林で、保存状況は水田により一部破壊されているが、概ね良好である。



東平内 II 遺跡近景（東から）

ひがしひらなさん い せき
48. 東平内Ⅲ遺跡 <新規> 遺跡範囲図D

所在地：第34地割地内（字東平内）

種別：製鉄関連

時代：不明

遺物：羽口・鉄滓

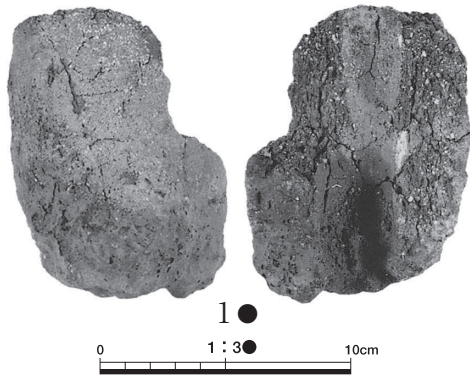
現況：山林

標高：約90m

JR平内駅から南西へ約2.1km、太平洋岸から約2.3km、北緯40°24'45" 東経141°40'55" 付近にあたる段丘面上に位置する。平内川支流の沢中で鉄滓を採集したことから、新規遺跡として登録した。中型のコンテナ（42cm×32cm×20cm）で約1箱分で採集をやめたが、沢の中には多量の鉄滓が残存する。



東平内Ⅲ遺跡近景（南東から）



うばさわいち い せき
49. 姥沢Ⅰ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第47地割地内（字姥沢）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（後期）・石器

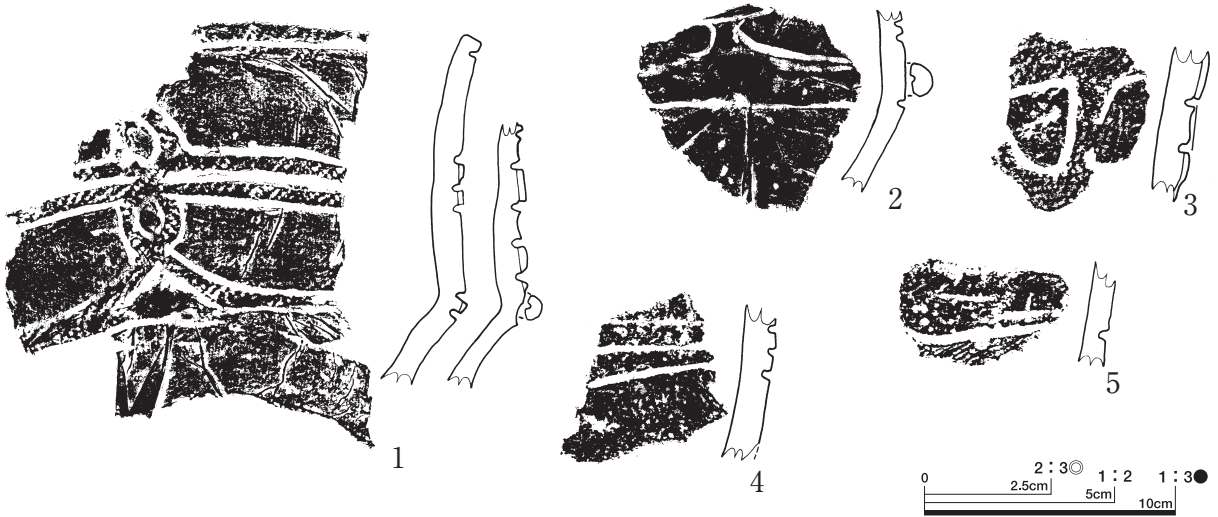
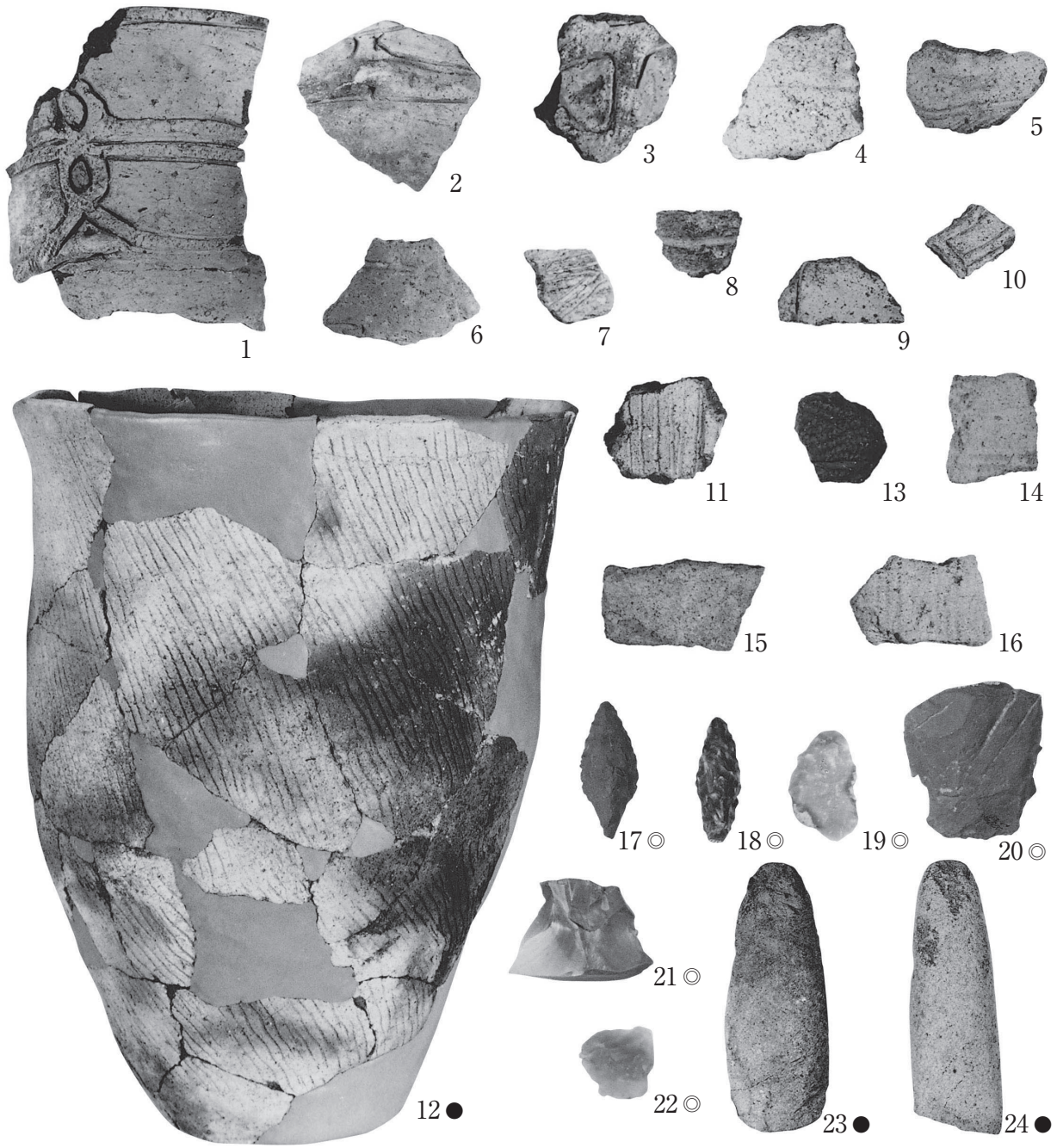
現況：畑地

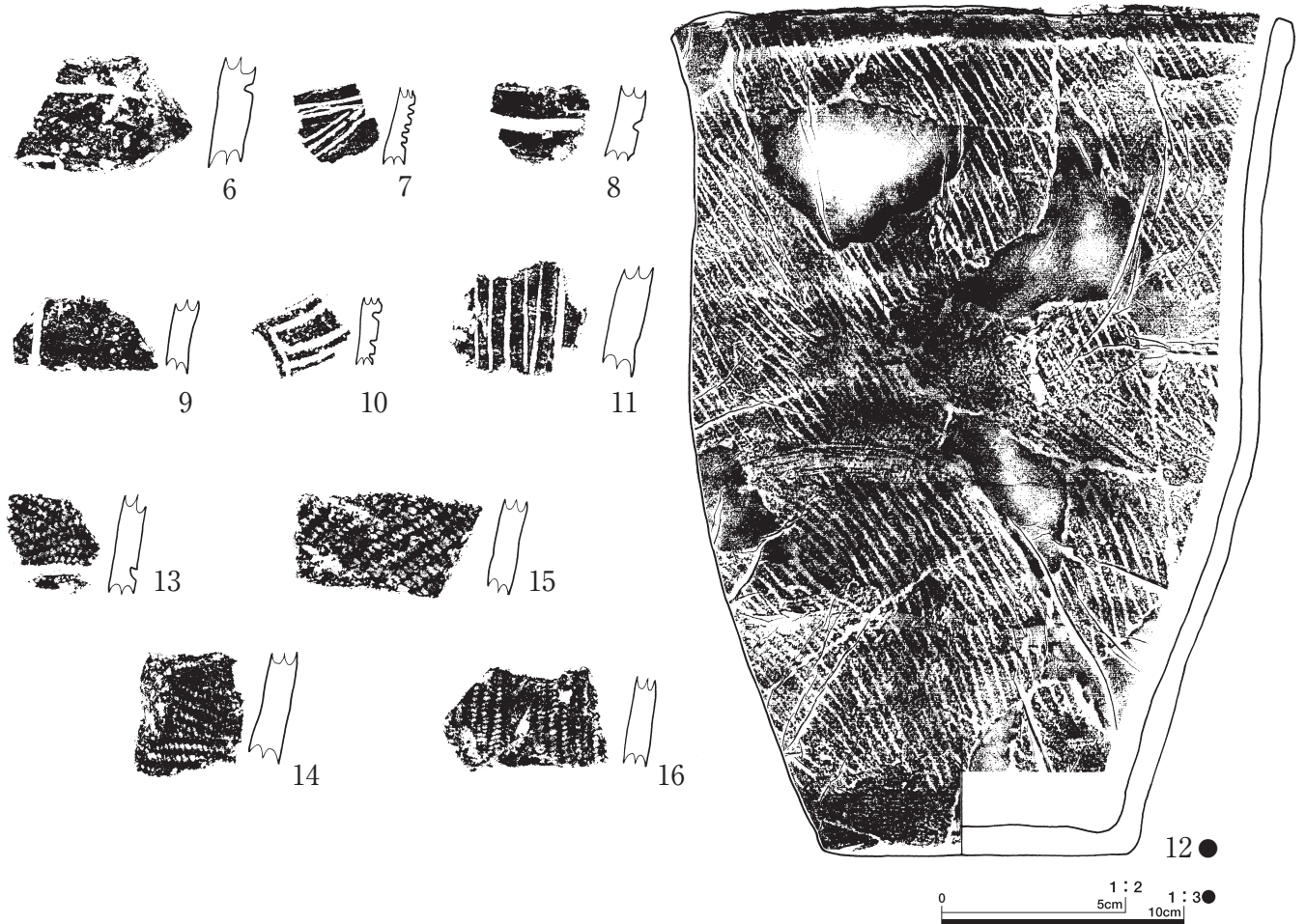
標高：約120～125m

JR平内駅から南西へ約3.0km、太平洋岸から約3.3km、北緯40°24'42" 東経141°40'14" 付近にあたる丘陵地北側の緩斜面に位置する。今回の踏査で縄文時代後期の土器片、石鏃・石斧・剥片を小型のコンテナ（42cm×32cm×11cm）で約半分を採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は良好である。



姥沢Ⅰ遺跡近景（北から）





50. ^{うばさわに いせき}姥沢Ⅱ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第47地割地内（字姥沢）

種別：散布地

時代：縄文時代・古代

遺物：縄文土器・石器・土師器

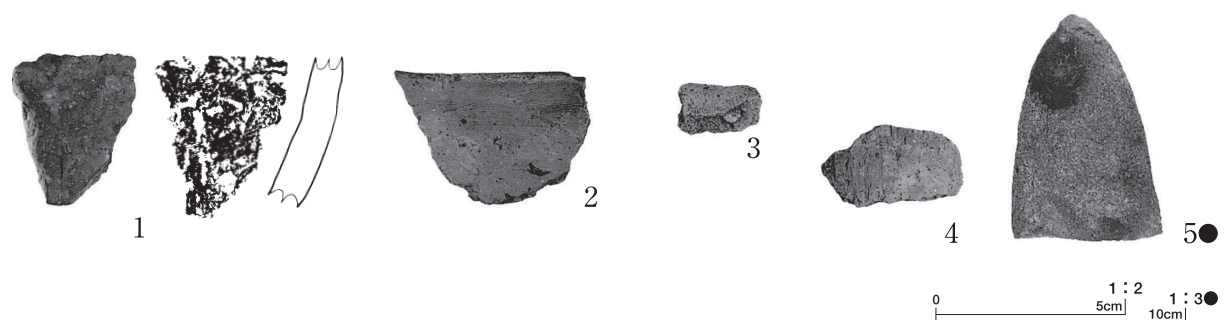
現況：畑地

標高：約135～140m

JR平内駅から南西へ約3.2km、太平洋岸から約3.5km、北緯40°24'44" 東経141°40'05" 付近にあたる丘陵地南側の緩斜面に位置する。今回の踏査で縄文土器片、石斧、土師器片を採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は良好であると見られる。



姥沢Ⅱ遺跡近景（南から）



51. ^{うばさわさん いせき}姥沢Ⅲ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第47地割地内（字姥沢）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（前期・後期）・石器・古銭

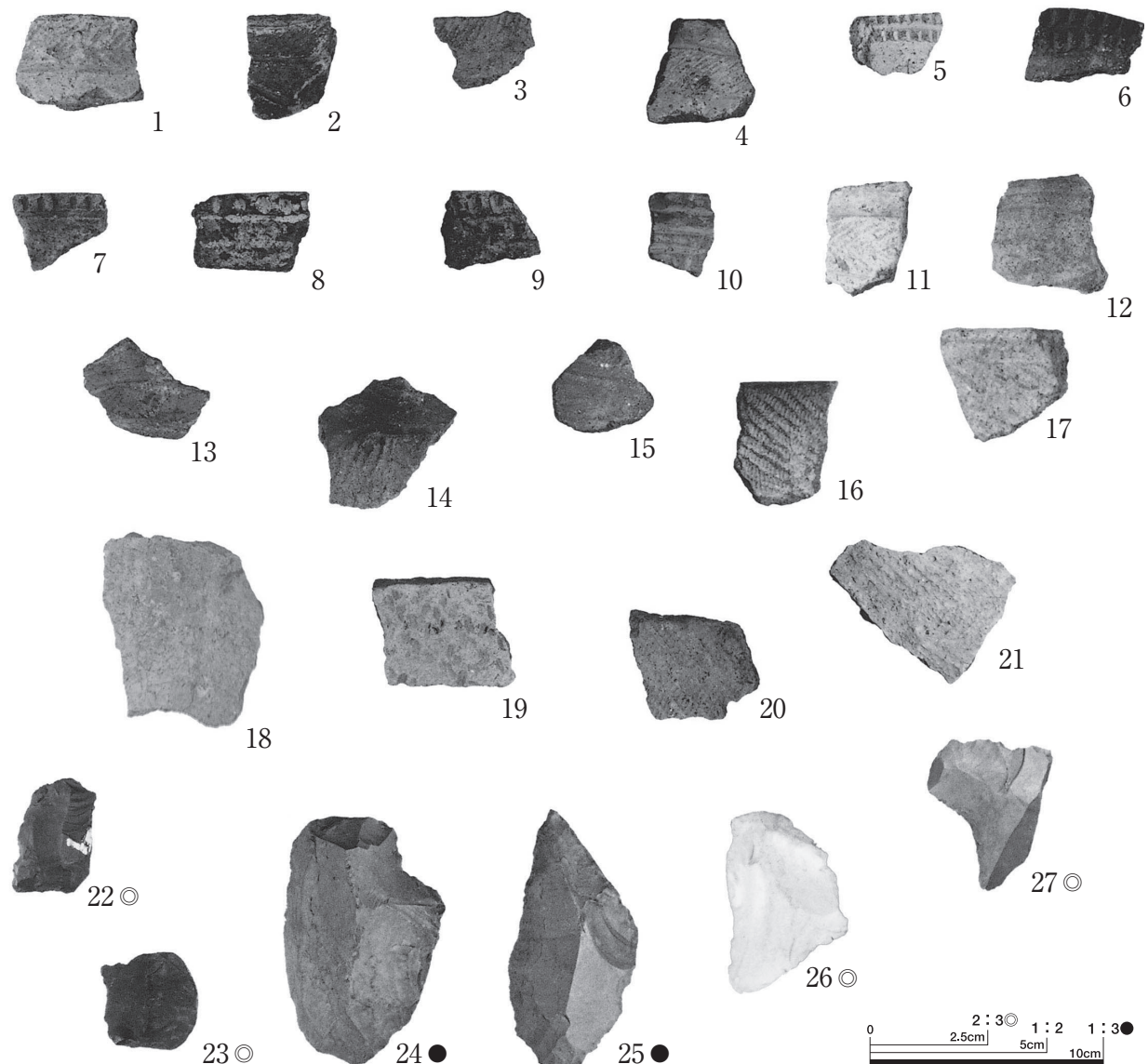
現況：畑地

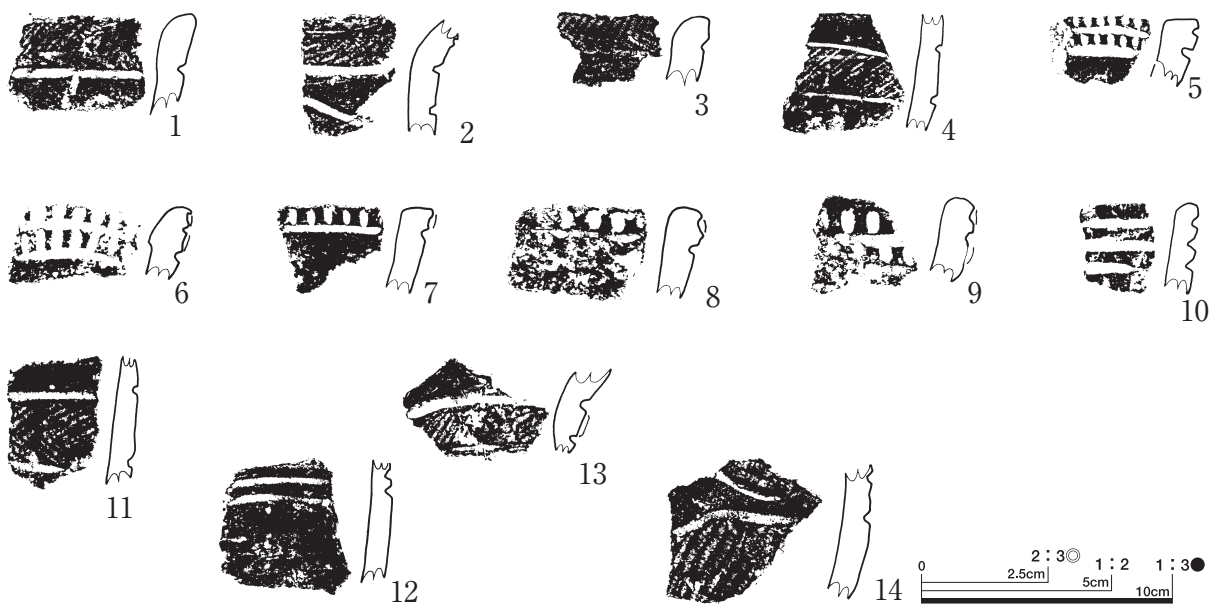
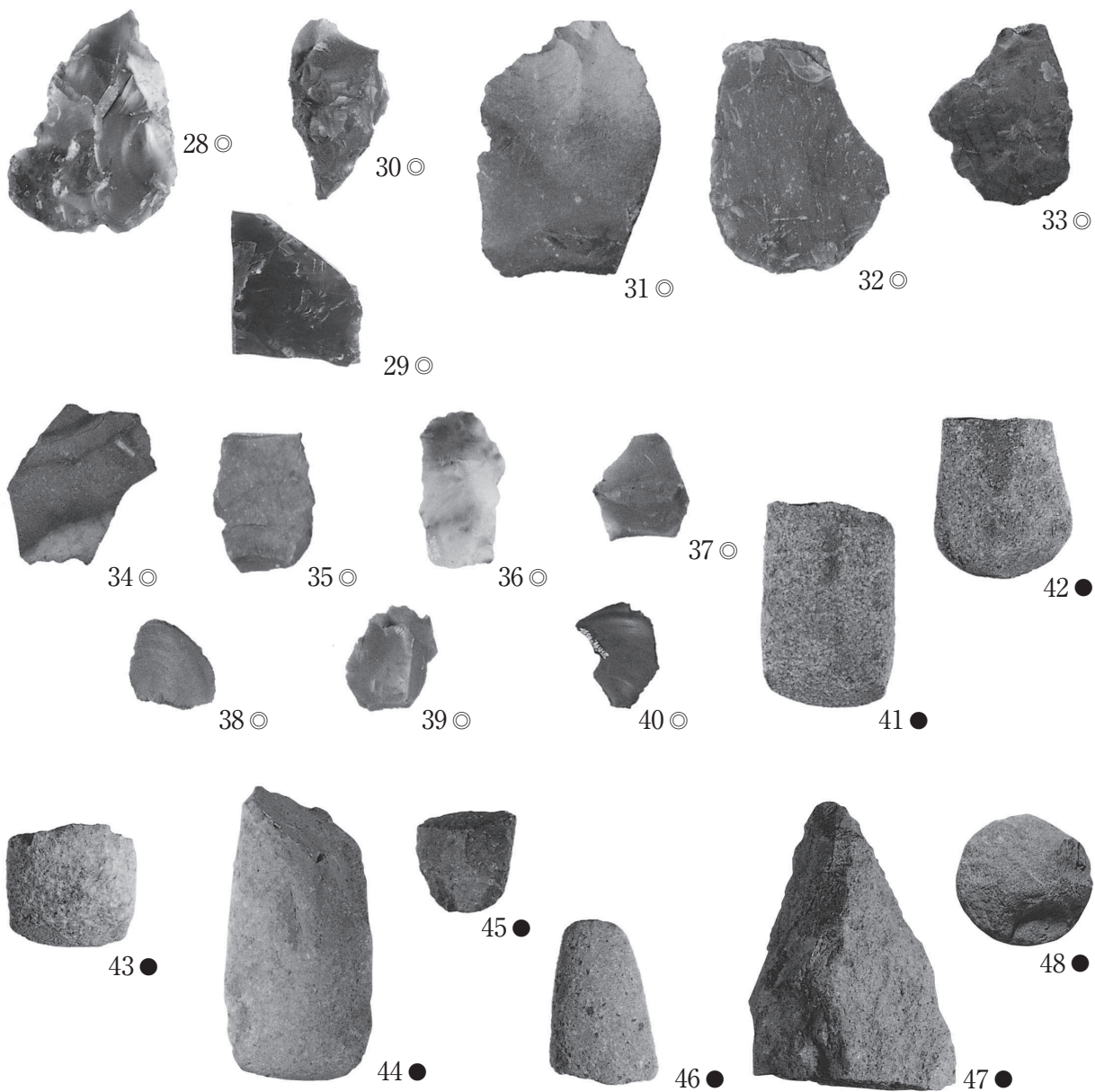
標高：約95m

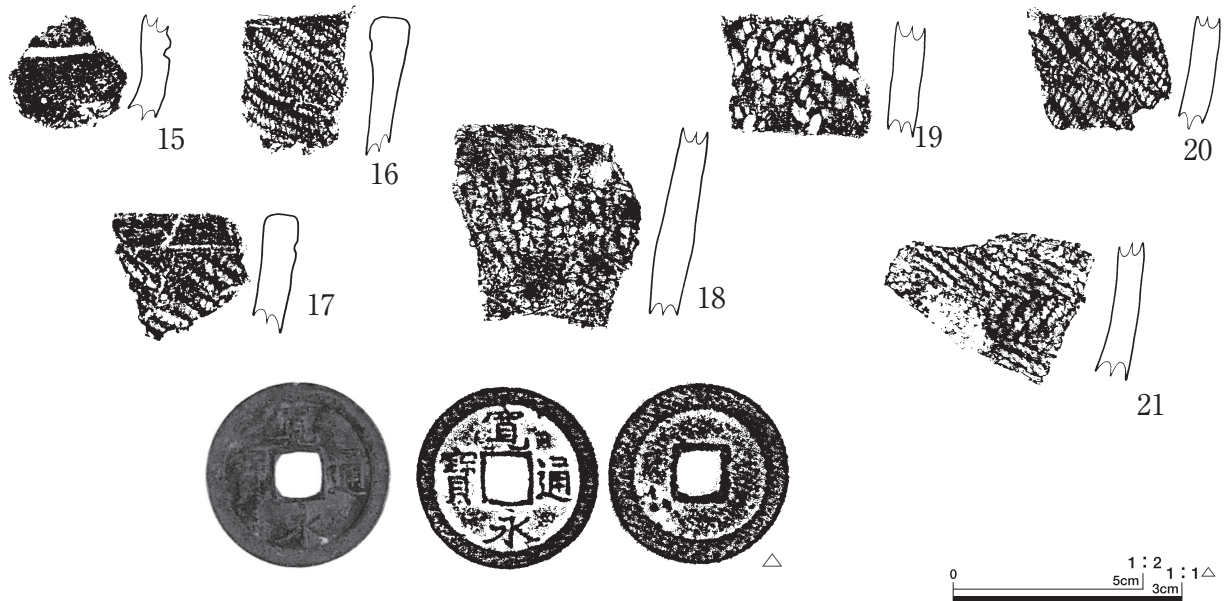
JR平内駅から西南西へ約2.8km、太平洋岸から約3.1km、北緯40°24′53″ 東経141°40′17″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代前期・後期を中心とした土器片、削搔器・石斧・剥片を小型のコンテナ（42cm×32cm×11cm）で約1箱分位採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は良好である。



姥沢Ⅲ遺跡近景（南西から）







52. ^{うばさわよん いせき}姥沢Ⅳ遺跡 <新規> 遺跡範囲図E

所在地：第47地割地内（字姥沢）

種別：散布地

時代：縄文時代

遺物：縄文土器（中期）・石器

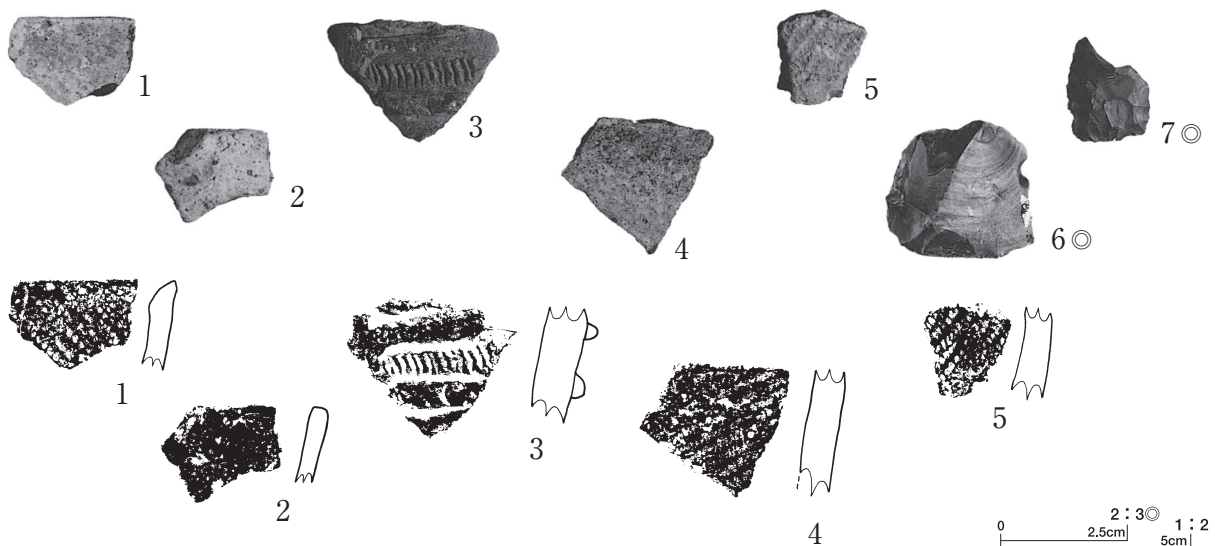
現況：畑地

標高：約95m

JR平内駅から西南西へ約2.6km、太平洋岸から約2.8km、北緯40°25′04″ 東経141°42′05″付近にあたる段丘面上に位置する。今回の踏査で縄文時代中期の土器片、ピエスエスキュー・削搔器・剥片を採集したことから、新規遺跡として登録した。保存状況は良好である。



姥沢Ⅳ遺跡近景（南から）



遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼 成	備 考
									外 面	内 面			
1	二十一平	1	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	10YR 5/4 にぶい黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	2	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	5YR 5/6 明赤褐	5YR 6/2 灰褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	3	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ、剥離	5YR 4/2 灰褐	25YR 5/3 にぶい赤褐	微砂・細砂少 量	良好	
1	二十一平	4	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ、剥離	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 4/2 灰褐	微砂・細砂	良好	
1	二十一平	5	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	75YR 6/4 にぶい橙	75YR 6/4 にぶい橙	微砂・細砂少 量	良好	
1	二十一平	6	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	75YR 6/4 にぶい橙	75YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	7	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/4 にぶい橙	微砂・細砂少 量	良好	
1	二十一平	8	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、クラック	ナデ	5YR 6/4 にぶい橙	75YR 6/4 にぶい橙	微砂	良好	
1	二十一平	9	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕、クラック	ナデ、クラック	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂多 量、細砂少量	良好	
1	二十一平	10	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	5YR 6/4 にぶい赤褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	11	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	25YR 5/6 明赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂、 細砂少量	良好	
1	二十一平	12	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	75YR 6/4 にぶい橙	75YR 5/4 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	内面に灰白色付着物 有り
1	二十一平	13	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	75YR 5/4 にぶい褐	75YR 5/4 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	14	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ、輪積痕	25YR 5/4 にぶい赤褐	25YR 4/2 灰赤	微砂～粗砂	良好	内外面に灰白色・黒 褐色付着物有り
1	二十一平	15	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ、剥離	25YR 5/4 にぶい赤褐	25YR 4/1 灰赤	微砂～粗砂	良好	内外面に灰白色・黒 褐色付着物有り
1	二十一平	16	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕、クラック	ナデ	5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	17	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	5YR 6/6 橙	75YR 6/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	18	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ、剥離	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	内外面に灰白色・黒 褐色付着物有り
1	二十一平	19	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	75YR 6/4 にぶい橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂・細砂	良好	
1	二十一平	20	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ、剥離	75YR 6/4 にぶい橙	5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂、 細砂少量	良好	外面に黒褐色付着物 有り
1	二十一平	21	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ	剥離	10YR 6/3 にぶい赤褐	25YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	22	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	75YR 6/3 にぶい褐	75YR 6/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	23	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細砂少量	良好	
1	二十一平	24	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ、輪積痕	75YR 6/3 にぶい褐	75YR 6/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	

第5表 土器・土製品観察表(1)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼 成	備 考
									外 面	内 面			
1	二十一平	25	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕、クラック	ナデ	25YR 5/6 明赤褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	内面に灰白色付着物 有り
1	二十一平	26	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	2.5YR 4/2 灰赤	微砂～粗砂少 量	良好	内面に灰白色付着物 有り
1	二十一平	27	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	内面に灰白色付着物 有り
1	二十一平	28	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕、クラック	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	内面に灰白色付着物 有り
1	二十一平	29	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	10R 4/3 赤褐	2.5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	内外面に黒褐色付着 物有り
1	二十一平	30	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	31	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	
1	二十一平	32	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	7.5YR 6/3 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	
1	二十一平	33	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ、輪積痕	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 6/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	34	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	2.5YR 5/6 明赤褐	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	
1	二十一平	35	製塩土器・口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	36	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ、指頭状庄痕	ナデ	5YR 6/6 橙	5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂多 量	良好	
1	二十一平	37	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕、輪積痕 底面：ナデ	剥離	10YR 7/4 にぶい黄橙	(5YR 5/3 にぶい赤褐)	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	38	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕、輪積痕 底面：ナデ	ナデ	5YR 6/4 にぶい黄橙	2.5YR 6/2 灰赤	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	39	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕、輪積痕 底面：ナデ	ナデ	7.5YR 6/3 にぶい褐	10YR 5/3 赤褐	微砂～粗砂	良好	外面・底面に灰白色 付着物有り
1	二十一平	40	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ、指頭状庄痕、クラック	ナデ、剥離	5YR 5/6 明赤褐	5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	41	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ	ナデ、剥離	10YR 6/4 にぶい黄橙	5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	
1	二十一平	42	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ	ナデ	5YR 6/4 にぶい橙	5YR 6/2 灰褐	微砂～粗砂	良好	外面に灰白色付着 物有り
1	二十一平	43	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕、輪積痕、クラック 底面：ナデ	剥離	7.5YR 6/4 にぶい黄橙	(7.5YR 6/4 にぶい橙)	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	44	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ	ナデ、剥離	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	45	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ	ナデ、剥離	5YR 6/4 にぶい橙	5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	外面・底面に灰白色 付着物有り
1	二十一平	46	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ	ナデ	2.5YR 6/6 橙	2.5YR 6/6 橙	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	
1	二十一平	47	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	外面・底面に灰白色 付着物有り
1	二十一平	48	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ	ナデ? 剥離	7.5YR 6/6 橙	7.5YR 6/8 橙	微砂～粗砂少 量	良好	外面・底面に黒褐色 付着物有り
1	二十一平	49	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状庄痕 底面：ナデ	ナデ、剥離	7.5YR 6/4 にぶい橙	5YR 5/6 明赤褐	微砂～粗砂	良好	
1	二十一平	50	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ 底面：ナデ	ナデ、剥離	5YR 6/6 橙	(5YR 5/3 にぶい赤褐)	微砂～粗砂多 量	良好	

第6表 土器・土製品観察表 (2)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼 成	備 考
									外 面	内 面			
1	二十一平	51	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状圧痕 底面：ナデ	ナデ、剥離	5YR 6/4 にぶい橙	(7.5YR 5/2 灰褐)	微砂～粗砂	良好	外面・底面に灰白色 付着物有り
1	二十一平	52	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ 底面：不明	ナデ	5Y 6/1 灰	2.5YR 6/2 灰赤	粗砂多量	良好	砂底状
1	二十一平	53	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ 底面：ナデ	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい赤橙	10R 6/3 にぶい赤褐	粗砂多量	良好	砂底状
1	二十一平	54	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ 底面：ナデ	剥離	7.5YR 5/4 にぶい赤褐	(5YR 5/3 にぶい赤褐)	微砂～粗砂	良好	底部立ち上がり若干 飛び出す
1	二十一平	55	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、クラック 底面：ナデ	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	底部立ち上がり若干 飛び出す
1	二十一平	56	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ 底面：ナデ	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	底部付近に段有り
1	二十一平	57	製塩土器・底部	-	-	-	外面：ナデ、指頭状圧痕 底面：沈線	ナデ	2.5Y 5/2 暗灰黄	(5YR 5/3 にぶい赤褐)	微砂～粗砂	良好	底面木葉痕状
1	二十一平	58	支脚	-	-	-	外面：ナデ、輪積痕 剥離	ナデ、輪積痕、 剥離	7.5YR 4/2 灰褐	5YR 3/1 黒褐	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	円筒状
1	二十一平	59	支脚	-	-	-	外面：ナデ、輪積痕	ナデ、輪積痕	10YR 5/2 灰黄褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	円筒状
1	二十一平	60	支脚	-	-	-	外面：ナデ	ナデ、輪積痕、 クラック	10YR 6/2 灰黄褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂・細砂少 量	良好	円筒状、外面黒褐色 付着物有り
1	二十一平	61	支脚	-	-	-	外面：ナデ、指頭状圧痕	ナデ	10R 5/2 灰赤	2.5YR 4/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	円筒状
1	二十一平	62	支脚?	-	-	-	外面：ナデ	ナデ、剥離	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	円筒状支脚か? 妻の 可能性有り
1	二十一平	63	支脚	-	-	-	外面：ナデ、輪積痕	ナデ、剥離	2.5Y 5/1 黄灰	10YR 3/1 黒褐	微砂～粗砂	良好	円筒状
1	二十一平	64	支脚	-	-	-	外面：ナデ、輪積痕	ナデ	5YR 4/3 にぶい赤褐	10R 5/4 赤褐	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	円筒状
1	二十一平	65	支脚	-	-	-	外面：ナデ	ナデ、クラック	2.5Y 5/2 暗灰黄	5YR 4/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	円筒状
1	二十一平	66	支脚	-	-	-	外面：ナデ、指頭状圧痕	ナデ、輪積痕	10YR 5/2 灰黄褐	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	円筒状
1	二十一平	67	支脚	-	-	-	外面：ナデ、輪積痕	ナデ、指頭状圧痕	7.5YR 6/3 にぶい褐	5YR 4/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	円筒状、外面灰白色 付着物有り
1	二十一平	68	支脚	-	-	-	外面：ナデ	ナデ、指頭状圧痕	10YR 6/2 灰黄褐	5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	円筒状、外面灰白色 付着物有り
1	二十一平	69	支脚	-	-	-	外面：ナデ、輪積痕	ナデ、輪積痕	10YR 6/2 灰黄褐	5YR 4/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	円筒状、外面灰白色 付着物有り
1	二十一平	70	支脚	-	-	-	外面：ナデ	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい赤橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	円筒状
1	二十一平	71	支脚	-	-	-	外面：ナデ、指頭状圧痕	ナデ、輪積痕	7.5YR 6/3 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤橙	微砂～粗砂	良好	円筒状、外面灰白色 付着物有り
1	二十一平	72	支脚	-	-	-	外面：ナデ、輪積痕 底面：ナデ	-	5YR 5/4 にぶい赤褐	-	微砂～粗砂少 量	良好	円筒状中実タイプ
1	二十一平	73	支脚	-	-	-	外面：ナデ	ナデ?	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	円筒状中空タイプ
1	二十一平	74	支脚	-	-	-	外面：ナデ、指頭状圧痕 底面：沈線	剥離	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂	良好	円筒状中空タイプ、 木葉痕状
1	二十一平	75	土師器甕・口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂、 細礫少量	良好	非ロクロ成形、内外 面灰白色付着物有り
5	アイス森	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	口縁突起内沈線、口唇内沈線、沈線、刺突	沈線、ナデ	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂	良好	

第7表 土器・土製品観察表 (3)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼成	備 考
									外 面	内 面			
5	アイヌ森	2	細文土器・鉢口縁部	-	-	-	沈線、貼瘤	沈線、ミガキ	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	3	細文土器・鉢口縁部	-	-	-	沈線、貼瘤	沈線、ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	4	細文土器・鉢口縁部	-	-	-	沈線	ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	10YR 4/1 褐灰	微砂	良好	
5	アイヌ森	5	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 4/2 灰黄褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	6	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 灰黄褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	7	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	口唇直下LR縦位、沈線	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	8	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	押し沈線	ナデ? 剥離	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 4/1 褐灰	微砂~粗砂、 細礫、繊維	脆弱	
5	アイヌ森	9	細文土器・深鉢頸~胴部	-	-	-	沈線、隆帯+LR縦位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	10	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR縦位、沈線区画・磨消細文	ナデ	2.5Y 4/1 黄灰	10YR 5/2 灰黄褐	微砂、細砂	良好	
5	アイヌ森	11	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR縦位、沈線区画・磨消細文	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	12	細文土器・深鉢頸~胴部	-	-	-	沈線、貼瘤	沈線、ナデ	10YR 4/1 褐灰	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂	良	
5	アイヌ森	13	細文土器・鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 6/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	14	細文土器・鉢胴部	-	-	-	沈線	沈線、ナデ	10YR 4/1 褐灰	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
5	アイヌ森	15	細文土器・鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	16	細文土器・鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	17	細文土器・鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	18	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい赤褐	7.5YR 6/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	19	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR斜位、沈線	ナデ	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	20	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	口唇直下無文、LR縦位	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 6/4 にぶい黄橙	微砂	良好	
5	アイヌ森	21	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	折返口縁+LR縦位	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい赤褐	7.5YR 6/4 にぶい赤褐	微砂~粗砂	良好	
5	アイヌ森	22	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR縦位、沈線	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 4/1 褐灰	微砂~粗砂、 細礫	良好	
5	アイヌ森	23	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	無文、クラック、輪積痕	ナデ? 剥離	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/ にぶい黄橙	微砂、細礫	良好	
5	アイヌ森	24	土師器・甕体~底部	-	-	-	ケズリ	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい赤褐	7.5YR 5/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
5	アイヌ森	25	土師器・甕体部	-	-	-	ケズリ	ナデ	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 4/2 灰褐	微砂	良好	
5	アイヌ森	26	土師器・甕体部	-	-	-	ケズリ	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
6	角川目 I	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	細細細文	ナデ	10YR 6/4 にぶい黄橙	10YR 5/3 にぶい黄橙	微砂、繊維	脆弱	

第8表 土器・土製品観察表 (4)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼成	備 考
									外 面	内 面			
6	角川目 I	2	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	口唇直下無文、LR 横位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
6	角川目 I	3	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄褐	7.5YR 6/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
6	角川目 I	4	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 斜位・縦位、沈線区画・磨消縄文	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	2.5Y 7/2 灰黄	微砂～粗砂、 細礫	良好	
6	角川目 I	5	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	7.5YR 7/4 にぶい橙	7.5YR 6/4 にぶい褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	
6	角川目 I	6	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 7/3 にぶい橙	微砂	良好	
6	角川目 I	7	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂	良好	
6	角川目 I	8	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	2.5Y 4/1 黄灰	10YR 6/2 灰黄褐	微砂・細砂、 繊維	良好	
6	角川目 I	9	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	2.5Y 5/1 黄灰	微砂・細砂、 繊維	良好	
6	角川目 I	10	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ミガキ?	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 7/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
6	角川目 I	11	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 斜位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	5Y 6/1 灰	微砂～粗砂	良好	
6	角川目 I	12	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	2.5Y 5/1 黄灰	2.5Y 5/1 黄灰	微砂・細砂	良好	
6	角川目 I	13	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
6	角川目 I	14	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	R 燃糸文	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
6	角川目 I	15	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	R 燃糸文	ナデ	10YR 7/2 灰黄褐	7.5YR 6/3 にぶい褐	微砂	良好	
6	角川目 I	16	細文土器・深鉢胴～底部	-	-	-	R 燃糸文	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
8	田ノ端	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ナデ	2.5Y 5/2 暗灰黄	2.5Y 7/2 灰黄	微砂～粗砂	良好	
8	田ノ端	2	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位	ナデ	2.5Y 4/1 黄灰	10YR 4/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
8	田ノ端	3	細文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	隆帯+縄文	ミガキ	10YR 4/2 灰黄褐	2.5YR 5/6 明赤褐	微砂～粗砂	良好	
8	田ノ端	4	細文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	隆帯+縄文	ナデ	7.5YR 4/2 灰褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
8	田ノ端	5	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL (0 段多糸) 縦位	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
8	田ノ端	6	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	隆帯+刺突	ナデ?	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂～粗砂	良好	
9	笹花 I	1	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位、沈線	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂・細砂	良好	
9	笹花 I	2	細文土器・深鉢底部	-	-	-	LR 横位	ナデ?	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	
10	笹花 II	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	折返口縁+LR 横位、沈線	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄橙	2.5Y 5/2 暗灰黄	微砂～粗砂	良好	
10	笹花 II	2	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	口唇刻目、沈線	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂・細砂	良好	
10	笹花 II	3	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位・斜位・縦位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	

第 9 表 土器・土製品観察表 (5)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面	内面	色調		胎土	焼成	備考
									外面	内面			
10	笹花Ⅱ	4	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	2.5Y 6/2 灰黄	2.5Y 6/2 灰黄	微砂	良好	
10	笹花Ⅱ	5	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい、橙	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
10	笹花Ⅱ	6	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線	ナデ	10YR 6/3 にぶい、黄橙	2.5Y 6/1 黄灰	微砂～粗砂	良好	
10	笹花Ⅱ	7	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	10YR 5/3 にぶい、黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	
10	笹花Ⅱ	8	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 6/3 にぶい、黄橙	10YR 6/3 にぶい、黄橙	微砂～粗砂	良好	
11	笹花Ⅲ	1	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	2.5Y 4/1 黄灰	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
11	笹花Ⅲ	2	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	10YR 6/3 にぶい、黄橙	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
11	笹花Ⅲ	3	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	2.5Y 6/2 灰黄	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
12	笹花Ⅳ	1	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位・縦位	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい、褐	7.5YR 5/2 灰褐	微砂	良好	
12	笹花Ⅳ	2	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL (0段多糸) 横位	剥離	5YR 5/4 にぶい、赤褐	-	微砂	良好	
12	笹花Ⅳ	3	細文土器・深鉢胴～底部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい、褐	10YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂	良好	
12	笹花Ⅳ	4	細文土器・深鉢胴～底部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい、褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	口唇部貝殻腹縁圧痕、貝殻条痕	ミガキ	10YR 4/2 灰黄褐	2.5Y 4/1 黄灰	微砂～粗砂、 繊維	良好	
13	伝吉Ⅰ	2	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	貝殻条痕	ミガキ	10YR 6/3 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂、 繊維	良好	
13	伝吉Ⅰ	3	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	条痕?	ミガキ	2.5Y 5/1 黄灰	2.5Y 5/1 黄灰	微砂～粗砂、 繊維	良好	
13	伝吉Ⅰ	4	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 縦位、LR 原体側面圧痕 3 条	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂・細砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	5	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 縦位、LR 原体側面圧痕 3 条	ナデ	2.5Y 5/2 暗灰黄	2.5Y 5/2 暗灰黄	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	6	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	口唇部 LR 圧痕、筋条体圧痕 (短軸筋条体第 5 類)、結束第 1 種 LR + RL 横位 (附加条付)	ミガキ	10YR 4/1 褐灰	10YR 5/3 にぶい、黄褐	微砂・細砂、 繊維	良好	
13	伝吉Ⅰ	7	細文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	刺突、LR 原体側面圧痕	ミガキ	7.5YR 6/4 にぶい、橙	7.5YR 6/3 にぶい、褐	微砂～粗砂、 繊維	良好	
13	伝吉Ⅰ	8	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	短軸筋条体 R 縦位	ミガキ	10YR 4/2 灰黄褐	7.5YR 4/2 灰褐	微砂～粗砂、 繊維、繊維	良	
13	伝吉Ⅰ	9	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	短軸筋条体 R 縦位	ミガキ	10YR 4/2 灰黄褐	10YR 6/4 にぶい、黄橙	微砂～粗砂、 細礫、繊維	良	
13	伝吉Ⅰ	10	細文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	隆部、沈線、刺突、釣り下げ状突起	ナデ	5YR 6/6 橙	10YR 5/2 灰褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉Ⅰ	11	細文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい、褐	7.5YR 5/4 にぶい、褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	12・13・14・15・16・17 と 同一個体?
13	伝吉Ⅰ	12	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい、褐	7.5YR 5/4 にぶい、褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	11・13・14・15・16・17 と 同一個体?
13	伝吉Ⅰ	13	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線	ナデ	5YR 5/4 にぶい、赤褐	7.5YR 5/4 にぶい、褐	微砂～粗砂	良好	11・12・14・15・16・17 と 同一個体?
13	伝吉Ⅰ	14	細文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線	ナデ	7.5YR 4/3 褐	7.5YR 5/4 にぶい、褐	微砂～粗砂	良好	11・12・13・15・16・17 と 同一個体?

第 10 表 土器・土製品観察表 (6)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼成	備 考
									外 面	内 面			
13	伝吉 I	15	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線	ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	11・12・13・14・16・ 17と同一個体？
13	伝吉 I	16	縄文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	11・12・13・14・15・ 17と同一個体？
13	伝吉 I	17	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線	ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	11・12・13・14・15・ 16と同一個体？
13	伝吉 I	18	縄文土器・深鉢口縁～胴部	-	-	-	折返口縁+ RL 縦位、RL 縦位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	19・20と同一個体？
13	伝吉 I	19	縄文土器・深鉢口縁～胴部	-	-	-	折返口縁+ RL 縦位、RL 縦位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	18・20と同一個体？
13	伝吉 I	20	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	折返口縁+ RL 縦位、沈線	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	18・19と同一個体？
13	伝吉 I	21	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉 I	22	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良	
13	伝吉 I	23	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	2.5Y 4/1 黄灰	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉 I	24	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉 I	25	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	10YR 5/2 にぶい褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉 I	26	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉 I	27	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	10YR 5/3 にぶい黄橙	10YR 6/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	28	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線、磨消縄文？	ミガキ	10YR 5/3 にぶい黄橙	10YR 5/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉 I	29	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線、磨消縄文？	ミガキ	10YR 5/3 にぶい黄橙	10YR 5/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉 I	30	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉 I	31	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線区画・磨消縄文	ミガキ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	32	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	5YR 5/4 にぶい赤褐	10YR 5/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	33	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 5/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	34	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	35	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	36	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	波状口縁、隆帯+ RL 横位、RL 横位、沈線区画・磨消縄文	ミガキ	10YR 4/2 にぶい黄橙	10YR 5/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	37	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ミガキ	10YR 6/2 にぶい黄橙	5Y 6/1 灰	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	38	縄文土器・深鉢？胴部	-	-	-	隆帯、沈線	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄橙	2.5Y 4/1 黄灰	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	39	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線、磨消縄文	ナデ	2.5Y 6/2 灰黄	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉 I	40	縄文土器・深鉢口縁～胴部	< 25.8 >	-	-	RL 縦位	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	

第 11 表 土器・土製品観察表 (7)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼成	備 考
									外 面	内 面			
13	伝吉Ⅰ	41	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉Ⅰ	42	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	折返部：LR 横位、折返部直下：LR 縦位	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	43	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 縦位	ミガキ	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	44	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 縦位、結節回転縦位	ミガキ	2.5Y 6/3 にぶい黄	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	45	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	L 無節横位・縦位（非結束状？）	ミガキ	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	46	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	刺突？	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	7.5YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂	良	
13	伝吉Ⅰ	47	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 3/1 黒褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂～粗砂	良	
13	伝吉Ⅰ	48	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	49	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	折返口縁？ LR 横位、輪積痕	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄褐	2.5Y 4/1 黄灰	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	50	縄文土器・深鉢下半～底部	-	-	5.4		ナデ	7.5YR 6/4 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉Ⅰ	51	縄文土器・深鉢底部	-	-	6.0		ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	52	縄文土器・深鉢底部	-	-	< 11.5 >	ミガキ？	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	53	縄文土器・深鉢底部	-	-	4.6		ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉Ⅰ	54	縄文土器・深鉢底部	-	-	11.6	底面：木葉痕	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂～粗砂、 細礫	良	
13	伝吉Ⅰ	55	縄文土器・深鉢底部	-	-	< 9.1 >	LR 横位	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	56	縄文土器・壺形土器？底部	-	-	< 3.4 >		ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 4/2 灰褐	微砂	良好	長径45cm、短径39cm、 厚さ10cm
13	伝吉Ⅰ	57	円盤状土製品	-	-	-	L 無節	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	2.5Y 5/1 黄灰	微砂・細砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	58	土師器甕・体部	-	-	-	ケズリ	ハケメ？	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 4/2 灰褐	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	59	土師器甕・体部	-	-	-	ケズリ	ナデ？	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
13	伝吉Ⅰ	60	土師器甕・体部	-	-	-	ケズリ	ハケメ	5YR 4/4 にぶい赤褐	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	
13	伝吉Ⅰ	61	土師器甕・頸～底部	-	(25.5)	8.3	頸～底部：縦位ケズリ、カーボン付着、薄い黒斑有り、焼きは じけ、底面：ケズリ	横位ケズリ、 カーボン付着	7.5YR 6/3 にぶい褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂、細礫、 量	良好	
14	伝吉Ⅱ	1	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	RL 横位・縦位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	2.5Y 4/1 黄灰	微砂・細砂	良好	
14	伝吉Ⅱ	2	縄文土器・深鉢脚部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂	良	
14	伝吉Ⅱ	3	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄褐	7.5YR 5/2 灰褐	微砂、繊維	良好	
14	伝吉Ⅱ	4	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	2.5Y 4/1 黄灰	2.5Y 4/1 黄灰	微砂、繊維	良	
14	伝吉Ⅱ	5	縄文土器・深鉢脚部	-	-	-	LR 横位・縦位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	

第12表 土器・土製品観察表(8)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼成	備 考
									外 面	内 面			
14	伝吉Ⅱ	6	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	25Y 6/2 灰黄	7.5YR 6/3 にぶい褐	微砂・細砂	良好	
15	伝吉Ⅲ	1	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位	ナデ	25Y 4/1 黄灰	7.5YR 4/2 灰褐	微砂・細砂	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	1	縄文土器・深鉢口縁～胴部	-	-	-	口縁部：LR 原体側面圧痕、胴部：LR 原体側面圧痕、隆帯 + LR 原体側面圧痕、LR 横位	ミガキ	10YR 4/2 灰黄褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂～粗砂、 細砂	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	2	縄文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	LR 原体側面圧痕、隆帯 + LR 原体側面圧痕、LR 横位	ミガキ	10YR 5/3	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂、 細砂	良好	3・4と同一個体？
18	北ノ沢Ⅰ	3	縄文土器・深鉢口縁～胴部	-	-	-	口縁部：LR 原体側面圧痕、胴部：LR 原体側面圧痕、隆帯 + LR 原体側面圧痕、LR 横位	ミガキ	10YR 5/3 にぶい黄褐	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂、 細砂	良好	2・4と同一個体？
18	北ノ沢Ⅰ	4	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	隆帯 + LR 原体側面圧痕、LR 原体側面圧痕	ミガキ	7.5YR 5/4 にぶい黄褐	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂、 細砂	良好	2・3と同一個体？
18	北ノ沢Ⅰ	5	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	隆帯 + LR 原体側面圧痕、LR 原体側面圧痕	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂、 細砂	良好	6と同一個体？
18	北ノ沢Ⅰ	6	縄文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	隆帯 + LR 原体側面圧痕、LR 原体側面圧痕	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい黄褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	5と同一個体？
18	北ノ沢Ⅰ	7	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 原体側面圧痕	ミガキ	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	8	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	9	縄文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	LR 原体側面圧痕	ミガキ	10YR 3/2 黒褐	7.5YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂、 繊維	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	10	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	隆帯 + LR 原体側面圧痕、RL 横位	ミガキ	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂、 繊維	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	11	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 原体側面圧痕	ミガキ	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 4/2 灰褐	微砂～粗砂、 繊維	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	12	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 原体側面圧痕	ミガキ	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂、 繊維	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	13	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ミガキ	10YR 4/2 灰黄褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂～粗砂、 細砂	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	14	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ミガキ	25Y 5/2 暗灰黄	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂～粗砂、 細砂	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	15	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	隆帯	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂・細砂	良好	
18	北ノ沢Ⅰ	16	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	25Y 5/2 暗灰黄	25Y 5/2 暗灰黄	微砂・細砂	良好	
19	北ノ沢Ⅱ	1	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 7/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
19	北ノ沢Ⅱ	2	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 7/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
19	北ノ沢Ⅱ	3	土器器裏・体部	-	-	-	-	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂	良好	
20	北ノ沢Ⅲ	1	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	L 無節？	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	1	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	隆帯	ミガキ？	10YR 3/2 黒褐	7.5YR 4/2 灰褐	微砂～粗砂	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	2	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 4/2 灰黄褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂、 繊維	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	3	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/1 褐灰	微砂～粗砂	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	4	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	25Y 5/2 暗灰黄	微砂～粗砂	良好	

第13表 土器・土製品観察表(9)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼成	備 考
									外 面	内 面			
21	北ノ沢Ⅳ	5	細文土器・深鉢脚部	-	-	-	RL 横位	ミガキ	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	6	土師器・甕口縁部	-	-	-		ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄褐	微砂～粗砂 細礫	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	7	土師器・甕体部	-	-	-		ナデ	2.5YR 6/6 にぶい黄橙	7.5YR 6/4 にぶい黄褐	微砂～粗砂 細礫	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	8	土師器・甕体部	-	-	-		ナデ	7.5YR 6/4 にぶい黄橙	2.5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	9	土師器・甕体部	-	-	-		ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄褐	微砂	良好	
21	北ノ沢Ⅳ	10	土師器・甕体部	-	-	-		ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 5/4 にぶい黄褐	微砂～粗砂 細礫	良好	
29	北平内Ⅱ	1	土師器・甕口縁部	-	-	-		ナデ	7.5YR 6/4 にぶい黄橙	7.5YR 6/4 にぶい黄褐	微砂	良好	
29	北平内Ⅱ	2	土師器・甕体部	-	-	-		ナデ	7.5YR 5/3 にぶい黄橙	7.5YR 5/3 にぶい黄褐	微砂、細礫	良好	
30	北平内Ⅲ	1	細文土器・深鉢脚部	-	-	-	RL 横位	ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	7.5YR 6/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
30	北平内Ⅲ	2	細文土器・深鉢脚部	-	-	-	LR 横位	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい黄橙	7.5YR 6/3 にぶい黄褐	微砂	良好	
31	北平内Ⅳ	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-		ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/4 にぶい黄褐	微砂～粗砂	良好	
31	北平内Ⅳ	2	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-		ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	2.5Y 5/2 暗灰黄	微砂～粗砂	良好	
31	北平内Ⅳ	3	細文土器・深鉢脚部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	2.5Y 5/2 暗灰黄	微砂～粗砂	良好	
31	北平内Ⅳ	4	細文土器・深鉢脚部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂	良好	
32	北平内Ⅴ	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	剥離	7.5YR 5/3 にぶい褐	-	微砂、細砂	良好	
32	北平内Ⅴ	2	細文土器・鉢口縁・脚部	-	-	-	沈線、貼瘤	ミガキ	7.5YR 5/4 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
32	北平内Ⅴ	3	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	沈線、ミガキ	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	2.5YR 4/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
32	北平内Ⅴ	4	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ミガキ	2.5YR 4/1 にぶい黄灰	2.5YR 4/1 にぶい黄灰	微砂	良好	12と同一個体
32	北平内Ⅴ	5	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位、沈線	ミガキ	10YR 4/2 灰褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂	良好	
32	北平内Ⅴ	6	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位、沈線	ミガキ	10YR 5/3 にぶい黄橙	7.5YR 5/4 にぶい黄褐	微砂	良好	外面カーボン附着
32	北平内Ⅴ	7	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位、沈線	ミガキ	7.5YR 4/2 灰褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂、細礫	良好	外面カーボン附着
32	北平内Ⅴ	8	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい黄橙	7.5YR 5/3 にぶい黄褐	微砂	良好	
32	北平内Ⅴ	9	細文土器・深鉢脚部	-	-	-	沈線	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい黄橙	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
32	北平内Ⅴ	10	細文土器・深鉢脚部	-	-	-	沈線	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい黄橙	7.5YR 6/3 にぶい黄褐	微砂	良好	
32	北平内Ⅴ	11	細文土器・鉢脚部	-	-	-	沈線	ミガキ	7.5YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/2 灰黄褐	微砂、細砂	良好	内面カーボン附着
32	北平内Ⅴ	12	細文土器・深鉢脚部	-	-	-	ミガキ、沈線、貼瘤、LR 横位	ナデ	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂、細礫	良好	4と同一個体

第 14 表 土器・土製品観察表 (10)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼 成	備 考
									外 面	内 面			
32	北平内V	13	縄文土器・鉢頸部	-	-	-	沈線、貼瘤	ミガキ	25Y 4/1 黄灰	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
32	北平内V	14	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂	良好	
32	北平内V	15	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/2 灰褐	微砂	良好	
32	北平内V	16	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	7.5YR 4/2 灰褐	10YR 4/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
32	北平内V	17	縄文土器・鉢頸～胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	2.5Y 4/1 黄灰	7.5YR 4/2 灰褐	微砂	良好	
32	北平内V	18	縄文土器・鉢頸～胴部	-	-	-	沈線、LR斜位	ミガキ	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
32	北平内V	19	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線、LR斜位	ミガキ	10YR 4/2 灰黄褐	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂	良好	
32	北平内V	20	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR縦位	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂～粗砂	良好	
32	北平内V	21	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	網目状燃糸文	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
32	北平内V	22	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	網目状燃糸文	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	
32	北平内V	23	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR横位	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
32	北平内V	24	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
32	北平内V	25	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR横位	ナデ	2.5Y 4/1 黄灰	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
32	北平内V	26	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂・細砂	良好	外面カーボン付着
32	北平内V	27	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR横位	ミガキ	7.5YR 4/2 灰褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
32	北平内V	28	縄文土器・深鉢胴下半～底部	-	-	< 6.8 >	LR横位	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	外面カーボン付着
34	浜平内	1	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	押型文?	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	
34	浜平内	2	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線、隆帯	ミガキ	7.5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂、繊維	良好	
34	浜平内	3	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線、隆帯	ミガキ	7.5YR 4/3 褐	2.5Y 4/1 黄灰	微砂～粗砂	良好	
35	平内I	1	縄文土器・鉢口縁～胴部	22.7	-	-	RL縦位	ミガキ	2.5Y 4/3 オリーブ褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	内外面カーボン付着
35	平内I	2	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL縦位	ミガキ?	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 3/1 黒褐	微砂	良好	内外面カーボン付着
35	平内I	3	縄文土器・深鉢底部	-	-	5.7	底面：笹葉痕?	ミガキ	7.5YR 5/4 にぶい褐	7.5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
37	平内III	1	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
37	平内III	2	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい黄橙	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
37	平内III	3	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL縦位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
38	平内IV	1	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	

第15表 土器・土製品観察表(11)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼成	備 考
									外 面	内 面			
38	平内IV	2	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	25YR 4/4 にぶい赤褐	5YR 4/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
38	平内IV	3	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	網目状熟糸文	ナデ	75YR 4/1 褐灰	75YR 6/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
38	平内IV	4	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ミガキ	75YR 5/2 灰褐	10YR 3/1 黒褐	微砂～粗砂	良好	
38	平内IV	5	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	75YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
38	平内IV	6	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	L 無節?	ナデ	75YR 5/3 にぶい褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
38	平内IV	7	須恵器甕・頸～胴部	-	-	-	叩き目		10YR 7/2 にぶい黄橙	10YR 7/2 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
38	平内IV	8	須恵器甕・頸～胴部	-	-	-			25Y 4/1 黄灰	75YR 4/1 褐灰	微砂	良好	
38	平内IV	9	須恵器甕・胴部	-	-	-			75YR 4/1 褐灰	5YR 4/1 褐灰	微砂	良好	
38	平内IV	10	土師器・甕口縁部	-	-	-			75YR 6/4 にぶい橙	75YR 6/4 にぶい橙	微砂	良好	
38	平内IV	11	土師器・甕体部	-	-	-	ケズリ	ケズリ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	
38	平内IV	12	土師器・甕体部	-	-	-	ケズリ	ナデ	25YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/3 にぶい赤褐	微砂～粗砂	良好	
39	平内V	1	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	口唇平坦、LR 横位	ミガキ	75YR 4/2 灰褐	75YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂、 繊維	良好	
39	平内V	2	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	25Y 5/1 黄灰	微砂～粗砂	良好	
39	平内V	3	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位・RL 横位(非結束羽状?)	ナデ	75YR 5/4 にぶい褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂～粗砂、 細礫、繊維	良	
39	平内V	4	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	75YR 3/1 黒褐	微砂～粗砂、 繊維	良	
39	平内V	5	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ミガキ?	5YR 5/4 にぶい赤褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂、繊維	良	
39	平内V	6	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位・縦位	ミガキ	75YR 3/1 黒褐	75YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂、 繊維	良	
39	平内V	7	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位・斜位	ミガキ	75YR 3/1 黒褐	75YR 4/1 褐灰	微砂、繊維	良	
40	南平内I	1	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	RL 横位、沈線	ミガキ	75YR 5/3 にぶい褐	75YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂、 細礫	良好	
40	南平内I	2	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	三又文	ミガキ	10YR 4/1 褐灰	10YR 4/1 褐灰	微砂	良好	
40	南平内I	3	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	75YR 6/2 灰褐	75YR 6/2 灰褐	微砂	良好	
40	南平内I	4	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ナデ	75YR 6/3 にぶい褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
40	南平内I	5	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位?	ナデ	75YR 5/3 にぶい褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
40	南平内I	6	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
40	南平内I	7	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	75YR 4/3 褐	75YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
40	南平内I	8	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位?	ナデ	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	

第 16 表 土器・土製品観察表 (12)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼 成	備 考
									外 面	内 面			
40	南平内I	9	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
40	南平内I	10	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	7.5YR 6/3 にぶい褐	7.5Y 5/1 赤灰	微砂	良好	
40	南平内I	11	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂	良好	
40	南平内I	12	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位	ナデ	7.5YR 4/1 褐灰	7.5YR 5/2 灰褐	微砂	良好	
40	南平内I	13	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位	ナデ	7.5YR 5/2 灰褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
40	南平内I	14	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂	良好	
40	南平内I	15	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	7.5YR 4/2 灰褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	
40	南平内I	16	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 6/4 にぶい橙	微砂	良好	
40	南平内I	17	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位?	ナデ	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
40	南平内I	18	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	7.5YR 4/3 褐	7.5YR 5/4 にぶい褐	微砂	良好	
40	南平内I	19	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位	ナデ	5YR 6/4 にぶい橙	7.5YR 6/3 にぶい褐	微砂	良好	
40	南平内I	20	細文土器・深鉢胴~底部	-	-	-	LR 横位	ナデ	7.5YR 5/2 灰褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂	良好	
41	南平内II	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 6/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	
41	南平内II	2	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ミガキ?	5YR 5/4 にぶい赤褐	5YR 5/4 にぶい赤褐	微砂	良好	
42	南平内III	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 3/1 黒褐	10YR 3/1 黒褐	微砂	良好	
43	西平内I	1	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	2.5Y 6/2 黄灰	微砂~粗砂	良好	
43	西平内I	2	細文土器・深鉢胴部	-	-	-		ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 4/1 褐灰	微砂~粗砂	良	
43	西平内I	3	細文土器・深鉢胴部	-	-	-		ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 5/2 灰褐	微砂~粗砂	良	
43	西平内I	4	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 縦位?	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	2.5Y 5/1 黄灰	微砂~粗砂	良	
43	西平内I	5	細文土器・深鉢胴~底部	-	-	-	胴部下端ケズリ? 底面網代痕	ナデ	10YR 4/1 褐灰	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂~粗砂	良	
44	姥沢I	1	細文土器・鉢口縁~深鉢胴部	-	-	-	縦紐?	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂~粗砂、 繊維	良	
49	姥沢I	1	細文土器・鉢口縁~胴部	< 98 >	-	-	隆帯+ LR 横位、沈線、ミガキ?	ミガキ	5Y 6/1 灰	2.5Y 5/1 黄灰	微砂・細砂	良好	
49	姥沢I	2	細文土器・壺形胴部	-	-	-	沈線、釣り下げ状突起、ミガキ?	ミガキ	2.5Y 5/2 暗灰黄	10YR 6/ にぶい黄橙	微砂	良好	
49	姥沢I	3	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	隆帯+ LR 横位、沈線	ミガキ	2.5Y 5/1 黄灰	10YR 6/2 灰黄褐	微砂・細砂	良好	
49	姥沢I	4	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	2.5Y 6/2 灰黄	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂~粗砂	良好	
49	姥沢I	5	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画、磨消縄文	ナデ	7.5YR 5/3 にぶい褐	2.5Y 6/1 黄灰	微砂~粗砂	良好	

第17表 土器・土製品観察表 (13)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼成	備 考
									外 面	内 面			
49	姥沢Ⅰ	6	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	2.5Y 5/1 黄灰	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	7	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	8	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 7/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	9	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 6/2 灰黄褐	2.5Y 5/1 黄灰	微砂～粗砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	10	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	2.5Y 4/1 黄灰	微砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	11	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	歯歯状工具による縦位の条痕	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	12	細文土器・深鉢	24.5	32.5	11.0	R 懸糸文、折返口縁、底面網代痕	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 5/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	13	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位・縦位・沈線	ナデ	10YR 4/1 褐灰	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	14	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	5YR 6/4 にぶい橙	微砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	15	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 縦位	ナデ	7.5YR 6/4 にぶい橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂～粗砂	良好	
49	姥沢Ⅰ	16	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂～粗砂	良好	
50	姥沢Ⅱ	1	細文土器・深鉢胴部	-	-	-		ナデ	2.5Y 4/1 黄灰	7.5YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂	良好	
50	姥沢Ⅱ	2	土師器・甕口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR 5/3 にぶい黄褐	5Y 4/1 灰	微砂	良好	
50	姥沢Ⅱ	3	土師器・甕口縁部	-	-	-		ナデ	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
50	姥沢Ⅱ	4	土師器・甕胴部	-	-	-	ケズリ	ナデ	7.5YR 5/4 にぶい褐	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	1	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位、沈線区画、磨消？	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	2	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR 横位、沈線区画、磨消純文？	ミガキ	2.5Y 4/1 黄灰	10YR 4/1 褐灰	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	3	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	LR (0段多条？)、沈線区画、磨消？	ミガキ	5YR 5/3 にぶい赤褐	10YR 5/3 にぶい黄褐	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	4	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線区画、LR 横位(充填)	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	5	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	刻目、沈線	ミガキ？	10YR 6/3 にぶい黄橙	10YR 6/3 にぶい黄橙	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	6	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	刻目、沈線	ミガキ	10YR 4/1 褐灰	10YR 4/1 褐灰	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	7	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	刻目、沈線	ミガキ	7.5YR 4/2 灰褐	7.5YR 4/2 灰褐	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	8	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	刻目、沈線	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	2.5Y 5/1 黄灰	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	9	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	刻目、沈線	ミガキ	10YR 4/1 褐灰	10YR 4/1 褐灰	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	10	細文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ミガキ	7.5YR 5/3 にぶい褐	7.5YR 5/3 にぶい褐	微砂	良好	
51	姥沢Ⅲ	11	細文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位・RL 横位(非結束羽状)、沈線区画	ミガキ	10YR 6/3 にぶい黄橙	7.5YR 6/4 にぶい橙	微砂	良好	

第 18 表 土器・土製品観察表 (14)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種・部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調		胎 土	焼 成	備 考
									外 面	内 面			
51	能沢Ⅲ	12	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	沈線	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	2.5Y 5/1 黄灰	微砂	良好	
51	能沢Ⅲ	13	縄文土器・深鉢頸～胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画、隆帯	ミガキ	7.5YR 4/2 灰褐	10YR 3/1 黒褐	微砂	良好	
51	能沢Ⅲ	14	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位、沈線区画、磨消組文	ナデ	2.5Y 4/1 黄灰	7.5YR 5/3 こぶい褐	微砂	良好	
51	能沢Ⅲ	15	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	沈線	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 4/1 褐灰	微砂	良好	
51	能沢Ⅲ	16	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	RL 横位 (0 段多糸)	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂、細礫、 繊維	良	
51	能沢Ⅲ	17	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	RL 横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 6/3 こぶい黄緑	微砂～粗砂	良好	
51	能沢Ⅲ	18	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位?	ミガキ?	5YR 5/4 こぶい赤褐	2.5Y 4/1 黄灰	微砂～粗砂、 繊維	良	
51	能沢Ⅲ	19	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ナデ	7.5YR 5/4 こぶい褐	10YR 4/1 褐灰	微砂～粗砂、 繊維	良	
51	能沢Ⅲ	20	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	RL 横位	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂～粗砂、 繊維	良好	
51	能沢Ⅲ	21	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位・RL 横位 (非結東羽状)	ナデ	10YR 5/3 こぶい黄褐	10YR 6/3 こぶい黄橙	微砂～粗砂、 繊維	良好	
52	能沢Ⅳ	1	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-	RL 横位	ミガキ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂	良好	
52	能沢Ⅳ	2	縄文土器・深鉢口縁部	-	-	-		ミガキ	10YR 6/2 灰黄褐	5YR 6/1 灰	微砂～粗砂	良好	
52	能沢Ⅳ	3	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	隆帯、刻目	ミガキ	10YR 3/1 黒褐	10YR 5/2 灰黄褐	微砂・細砂、 繊維	良	
52	能沢Ⅳ	4	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 5/1 褐灰	微砂・細砂、 繊維	良好	
52	能沢Ⅳ	5	縄文土器・深鉢胴部	-	-	-	LR 横位	ナデ	10YR 5/2 灰黄褐	10YR 6/2 灰黄褐	微砂～粗砂	良好	

第 19 表 土器・土製品観察表 (15)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備 考
2	堆中山I	1	石斧	(7.81)	5.74	2.90	191.22	輝緑岩	敲打調整
2	堆中山I	2	石斧	(8.95)	5.50	2.72	228.00	輝緑岩	敲打調整、一部磨き
3	堆中山II	1	礫器	9.52	7.33	4.51	412.52	砂岩	
5	アイヌ森	27	削搔器	3.95	3.32	1.02	13.59	鉄石英	
5	アイヌ森	28	削搔器	5.27	2.87	0.83	11.57	玉髓	
5	アイヌ森	29	削搔器	2.24	1.41	0.62	2.50	玉髓	
5	アイヌ森	30	石斧	(5.00)	5.53	1.99	63.76	輝緑岩	敲打調整、片面自然面残存
6	角川目I	17	石斧	10.65	5.13	1.53	123.94	ひん岩	
6	角川目I	18	石斧	10.59	6.56	2.38	244.55	輝緑岩	打製
6	角川目I	19	石斧	(10.47)	10.79	4.85	991.32	安山岩	打製、一部敲打調整、片面自然面残存
6	角川目I	20	石斧	(6.89)	8.75	2.81	229.45	安山岩	打製、刃部欠落、片面自然面残存
6	角川目I	21	敲石	10.44	8.51	5.79	759.52	閃緑岩	
6	角川目I	22	礫器	10.79	9.01	5.44	843.01	輝緑岩	
6	角川目I	23	礫器	9.17	8.22	3.64	514.48	輝緑岩	
6	角川目I	24	礫器	7.69	8.87	2.79	253.69	輝緑岩	
6	角川目I	25	礫器	6.27	7.12	3.57	202.22	ホルンフェルス	
12	笹花IV	5	石斧	(12.13)	6.99	4.36	643.33	ひん岩	敲打調整、刃部欠落
12	笹花IV	6	敲石	8.93	8.18	5.86	620.67	チャート	
12	笹花IV	7	敲石	7.68	6.86	3.47	298.50	頁岩	
12	笹花IV	8	礫器	8.19	5.72	3.31	223.17	頁岩	
13	伝吉I	62	石鏃	5.22	1.51	0.56	4.06	珪質頁岩	
13	伝吉I	63	石鏃	4.47	1.50	0.66	3.94	珪質頁岩	
13	伝吉I	64	削搔器	4.16	3.63	1.06	17.74	珪質頁岩	
13	伝吉I	65	ピエス・エスキュー	2.16	1.74	0.97	4.90	鉄石英	
13	伝吉I	66	削搔器	4.35	1.84	0.63	6.24	珪質頁岩	

第20表 石器観察表(1)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
13	伝吉 I	67	U フレーク	5.82	2.57	0.75	10.67	珪質頁岩	
13	伝吉 I	68	石斧	(8.20)	4.55	3.05	192.91	輝緑岩	敲打調整、一部磨き
13	伝吉 I	69	石斧	(9.41)	5.22	3.58	289.06	凝灰岩	敲打調整、片面自然面残存
13	伝吉 I	70	石斧	(10.87)	6.04	5.41	465.87	安山岩	打製、刃部欠落
13	伝吉 I	71	敲石	9.90	7.07	5.15	623.49	頁岩	
14	伝吉 II	7	石鏃	2.21	1.36	0.43	1.11	玉髓	平基無莖
18	北ノ沢 I	17	石鏃	2.93	1.84	0.52	2.46	玉髓	凸基有莖
18	北ノ沢 I	18	削搔器	4.80	2.27	1.17	12.77	珪質頁岩	
18	北ノ沢 I	19	U フレーク	2.80	2.37	0.63	5.60	珪質頁岩	
18	北ノ沢 I	20	U フレーク	4.13	3.46	1.68	26.05	珪質頁岩	
18	北ノ沢 I	21	石斧	(11.65)	6.52	5.31	574.29	安山岩	敲打調整、一部磨き、基部欠落
18	北ノ沢 I	22	石斧	(9.53)	5.88	4.76	466.33	砂岩	敲打調整、一部磨き、刃部欠落
18	北ノ沢 I	23	石斧	(7.15)	5.56	3.72	179.34	輝緑岩	打製、片面自然面残存、刃部欠落
18	北ノ沢 I	24	敲石	8.87	9.19	5.68	640.77	チャート	
18	北ノ沢 I	25	敲石	9.04	6.56	3.53	384.91	頁岩	
18	北ノ沢 I	26	敲磨石	8.41	6.63	3.19	341.95	頁岩	
18	北ノ沢 I	27	敲磨石	7.75	7.34	3.39	382.60	頁岩	
18	北ノ沢 I	28	敲磨石	8.38	7.92	2.64	354.52	頁岩	
18	北ノ沢 I	29	敲磨石	8.96	7.58	3.29	406.29	頁岩	
18	北ノ沢 I	30	敲磨石	7.07	6.29	3.24	266.03	頁岩	
18	北ノ沢 I	31	敲磨石	8.38	6.64	4.25	429.61	頁岩	
18	北ノ沢 I	32	調整痕を有する礫	9.58	6.30	3.64	195.28	砂岩	礫器？
28	北平内 I	1	石斧	14.61	5.76	4.47	528.95	輝緑岩	打製
28	北平内 I	2	石斧	13.69	6.82	4.23	533.08	輝緑岩	打製、片面自然面残存
28	北平内 I	3	石斧	(9.38)	4.62	3.42	168.72	輝緑岩	打製、片面自然面残存
28	北平内 I	4	石斧	(10.86)	6.31	3.97	469.23	輝緑岩	敲打調整、片面自然面残存、刃部欠落

第 21 表 石器観察表 (2)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
28	北平内I	5	石斧	(5.21)	4.89	2.85	121.95	ひん岩	打製、片面自然面残存、刃部欠落
28	北平内I	6	石斧	(7.50)	5.37	3.83	224.71	輝緑岩	敲打調整、一部磨き、刃部欠落
28	北平内I	7	調整痕を有する礫	10.98	7.99	4.72	499.09	頁岩	礫器？
33	北平内VI	1	石斧	(10.69)	4.83	4.15	295.51	砂岩	磨製、基部欠落
33	北平内VI	2	石斧	(9.27)	5.37	3.80	263.99	輝緑岩	打製、片面自然面残存、基部欠落
33	北平内VI	3	石斧	(10.71)	4.88	4.23	326.81	輝緑岩	敲打調整、片面自然面残存、刃部欠落
33	北平内VI	4	敲石	12.24	8.57	4.94	773.84	砂岩	
33	北平内VI	5	敲石	4.65	4.84	4.91	160.33	流紋岩	
33	北平内VI	6	敲磨石	7.14	6.91	6.29	561.85	頁岩	
34	浜平内	4	石斧	(7.69)	5.37	3.12	197.15	砂岩	打製、片面刃部磨き
34	浜平内	5	調整痕を有する礫	(11.65)	8.28	3.36	518.25	輝緑岩	半円状扁平打製石器？
34	浜平内	6	敲石	7.52	7.11	4.69	374.22	チャート	
35	平内I	4	フレーク	3.06	2.45	1.24	10.24	珪質頁岩	
37	平内III	4	磨石	8.21	7.75	5.40	548.32	頁岩	
38	平内IV	13	フレーク	4.37	3.37	1.66	21.11	頁岩	
38	平内IV	14	石斧	(6.06)	3.32	1.43	52.55	頁岩	磨製
38	平内IV	15	石斧	(11.39)	6.18	3.63	431.84	ひん岩	敲打調整、片面自然面残存、刃部欠落
38	平内IV	16	敲磨石	8.81	7.28	4.23	563.11	頁岩	
38	平内IV	17	調整痕を有する礫	12.55	11.27	6.57	1268.42	頁岩	石斧？
38	平内IV	18	調整痕を有する礫	26.80	14.42	7.10	3752.80	頁岩	
39	平内V	8	削搔器	4.60	1.68	0.55	4.37	珪質頁岩	
39	平内V	9	削搔器	3.76	1.70	0.84	6.30	珪質頁岩	
39	平内V	10	Uフレーク	1.84	1.70	0.44	1.14	鉄石英	
39	平内V	11	Uフレーク	2.73	2.59	1.23	9.18	玉髓	
39	平内V	12	Uフレーク	3.58	2.81	0.95	10.23	珪質頁岩	
39	平内V	13	Uフレーク	3.02	2.22	1.32	12.87	珪質頁岩	

第22表 石器観察表 (3)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
39	平内V	14	Uフレーク	2.81	1.55	0.88	3.84	珪質頁岩	
39	平内V	15	フレーク	3.19	2.32	0.77	6.30	珪質頁岩	
39	平内V	16	石斧	(6.04)	5.76	2.85	154.90	ひん岩	打製、片面自然面残存
39	平内V	17	礫器	7.39	6.13	2.88	169.31	チャート	
39	平内V	18	礫器	11.16	10.23	3.55	524.16	頁岩	
39	平内V	19	礫器	9.49	10.19	4.03	605.41	砂岩	
39	平内V	20	礫器	11.17	11.89	4.59	833.17	砂岩	
39	平内V	21	礫器	11.03	9.08	4.44	641.12	砂岩	
39	平内V	22	礫器	9.30	7.60	3.31	364.41	輝緑岩	
39	平内V	23	礫器	8.30	8.09	3.44	365.18	輝緑岩	
39	平内V	24	礫器	10.86	7.45	2.96	414.25	輝緑岩	
39	平内V	25	礫器	6.63	10.60	3.80	345.12	ひん岩	
39	平内V	26	調整痕を有する礫	7.70	7.30	3.88	370.50	輝緑岩	
39	平内V	27	調整痕を有する礫	8.36	8.57	5.80	565.37	輝緑岩	
39	平内V	28	調整痕を有する礫	10.10	9.28	6.64	785.56	流紋岩	
39	平内V	29	加工痕を有する礫	8.34	9.24	5.59	268.81	砂岩	
41	南平内II	3	石匙	4.72	2.63	0.82	11.30	珪質頁岩	縦型、欠落部有り
42	南平内III	2	フレーク	3.73	3.26	0.73	9.45	頁岩	
43	西平内I	6	石斧	(8.06)	6.00	4.08	274.94	細粒凝灰岩	打製、片面自然面残存、基部欠落
44	西平内II	2	礫石	9.25	4.53	3.48	220.13	砂岩	欠落有り
45	石倉	1	礫石	5.38	5.53	3.45	159.92	チャート	
45	石倉	2	礫石	8.80	7.17	3.51	400.88	頁岩	礫器?
45	石倉	3	加工痕を有する礫	7.61	7.01	4.81	359.38	流紋岩	
46	東平内I	1	フレーク	4.28	2.77	0.73	9.71	珪質頁岩	
46	東平内I	2	フレーク	4.13	3.56	1.65	23.90	珪質頁岩	
46	東平内I	3	フレーク	3.39	2.39	1.11	11.10	玉髓	

第23表 石器観察表 (4)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備 考
46	東平内I	4	石斧	(11.33)	5.38	3.26	297.62	輝緑岩	敲打調整、片面自然面残存、刃部欠落
46	東平内I	5	石斧	9.70	5.64	1.98	166.16	輝緑岩	打製、片面自然面残存
46	東平内I	6	敲石	8.95	8.27	3.72	484.12	頁岩	
46	東平内I	7	礫器	11.05	11.45	3.96	675.87	砂岩	
49	総沢I	17	石鏃	3.44	1.43	0.74	2.95	珪質頁岩	
49	総沢I	18	石鏃	3.11	1.04	0.89	3.05	珪質頁岩	石鏃?
49	総沢I	19	削搔器	2.71	1.63	0.92	3.43	玉随質珪質頁岩	
49	総沢I	20	Uフレーク	3.94	3.42	0.70	12.30	頁岩	
49	総沢I	21	Uフレーク	2.57	3.41	1.08	9.46	珪質頁岩	
49	総沢I	22	フレーク	1.92	1.74	0.36	1.27	玉随	
49	総沢I	23	石斧	12.15	4.80	3.12	272.88	輝緑岩	敲打調整、片面自然面残存
49	総沢I	24	石斧	(12.23)	3.99	2.64	209.33	輝緑岩	敲打調整、一部磨き、一部自然面残存、刃部欠落
50	総沢II	5	石斧	(8.80)	5.87	3.87	276.68	ひん岩	敲打調整、刃部欠落
51	総沢III	22	ピエス・エスキュー	2.78	1.83	0.60	3.91	鉄石英	
51	総沢III	23	ピエス・エスキュー	2.26	2.37	0.66	4.34	鉄石英	
51	総沢III	24	削搔器	5.93	3.80	1.50	33.04	珪質頁岩	
51	総沢III	25	削搔器	6.08	2.95	1.13	18.29	珪質頁岩	
51	総沢III	26	削搔器	3.85	2.77	1.25	8.87	珪質頁岩	
51	総沢III	27	削搔器	2.75	3.68	0.72	5.67	珪質頁岩	
51	総沢III	28	削搔器	5.67	4.06	1.11	22.86	玉随質珪質頁岩	
51	総沢III	29	削搔器	3.64	3.06	2.31	32.95	玉随質珪質頁岩	
51	総沢III	30	削搔器	4.40	2.53	1.11	11.94	玉随質珪質頁岩	
51	総沢III	31	Uフレーク	5.88	4.13	0.84	26.41	珪質頁岩	
51	総沢III	32	Uフレーク	5.48	3.99	0.68	19.25	頁岩	
51	総沢III	33	Uフレーク	4.21	3.32	0.80	9.43	珪質頁岩	
51	総沢III	34	Uフレーク	3.73	2.49	0.75	8.78	珪質頁岩	

第24表 石器観察表 (5)

遺跡 No.	遺跡名	遺物 No.	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備 考
51	総沢Ⅲ	35	U フレーク	3.18	2.34	0.87	6.73	珪質頁岩	
51	総沢Ⅲ	36	U フレーク	3.55	1.94	0.69	5.14	玉随質珪質頁岩	
51	総沢Ⅲ	37	U フレーク	2.24	2.14	0.96	5.87	玉随質珪質頁岩	
51	総沢Ⅲ	38	U フレーク	1.88	2.00	0.44	1.60	珪質頁岩	
51	総沢Ⅲ	39	U フレーク	2.47	1.85	1.58	5.23	玉随質珪質頁岩	
51	総沢Ⅲ	40	U フレーク	2.41	1.52	0.32	1.31	珪質頁岩	
51	総沢Ⅲ	41	石斧	(9.20)	5.91	3.78	298.05	砂岩	敲打調整、片面刃部自然面残存、基部欠落
51	総沢Ⅲ	42	石斧	(6.95)	6.05	3.19	193.09	砂岩	敲打調整、片面刃部磨き、片面刃部自然面残存、基部欠落
51	総沢Ⅲ	43	石斧	(6.37)	5.73	3.28	146.58	砂岩	敲打調整、片面刃部磨き、基部欠落
51	総沢Ⅲ	44	石斧	(11.99)	6.42	4.20	495.72	砂岩	敲打調整、片面刃部磨き、基部欠落
51	総沢Ⅲ	45	石斧	(4.12)	4.33	1.90	50.57	砂岩	打製、片面自然面残存、基部欠落
51	総沢Ⅲ	46	石斧	(6.93)	4.66	2.91	137.31	ひん岩	敲打調整、一部磨き、刃部欠落
51	総沢Ⅲ	47	石斧	(12.23)	8.71	5.92	839.80	輝緑岩	打製、片面自然面残存、刃部欠落
51	総沢Ⅲ	48	敲磨石	5.83	6.20	2.69	142.59	頁岩	
52	総沢Ⅳ	6	ピエス・エスキュー	2.87	2.99	1.40	10.28	珪質頁岩	
52	総沢Ⅳ	7	削搔器	1.80	1.79	0.41	1.83	珪質頁岩	

第 25 表 石器観察表 (6)

V. 調査のまとめ

前述したとおり、本年度調査区の周知遺跡は9遺跡であった。調査前では縄文時代が8遺跡（その内1遺跡は近世と複合）、古代が1遺跡のみであったが、新規遺跡43カ所を発見し登録した。時代別遺跡数は第26表、種別遺跡数は第27表に示した。遺跡の時代別概略は以下のとおりである。

旧石器時代・・・八戸火山灰層が露出している露頭に注意を払ったが、新規発見はなかった。町内で旧石器が確認されたと伝えられる段丘と同位段丘が続くことから、今後発見の可能性は十分に考えられる。

縄文時代・・・時代が複合するものを含めると42遺跡で全体の8割以上を占める。早期から晩期まで見られ、最も多いのは後期である。時期不明とした遺跡の中にも後期に属すると考えられる土器片を採集した遺跡が多数あり、実際には後期に属する遺跡数が増加すると考えられる。早期では浜平内遺跡で押型文と見られる土器片が1点採集され、伝吉I遺跡では貝殻文土器が採集された。前期の遺跡は後期に続いて多く、特に初頭に位置づけられると考えられる土器片の採集が多く、アイヌ森遺跡・姥沢Ⅲ遺跡では多量に採集された。中期の遺跡の確認は少ないが、北ノ沢I遺跡では円筒上層式の土器が多数確認され、当該期の集落跡であった可能性が高い。後期の遺跡は調査区内全域に所在し、伝吉I遺跡では前葉に位置づけられる多量の土器片が採集されている。伝吉I遺跡は早期・前期・後期の土器が確認されており、伝吉沢を挟んで南側の北ノ沢I遺跡が中期であり、この地域が縄文時代を通じて継続して集落を形成していた可能性もある。調査にあたっての留意点として製塩遺跡の把握があったが、南平内I遺跡では薄手の無文土器片が多量に採集された。三叉文と見られる土器片もあり縄文時代晩期の製塩土器であると思われる。残念ながら炉跡の痕跡は確認できず散布地としたが、製塩遺跡であった可能性が高い。また、アイヌ森遺跡でも極少量であるが薄手の無文土器が採集され、製塩土器の可能性が高い。その他の遺跡でも薄手の無文土器の小片が混じることがあり、製塩土器の可能性も考慮しなければならない。今後も汀線付近やその近辺を留意して踏査を続けていく必要がある。

弥生時代・・・アイヌ森遺跡と北平内遺跡で縄文時代晩期後葉～弥生時代前期と見られる土器片を採集した。砂沢式や遠賀川系の特徴を持つものがあり、今後資料の検討が必要である。

古墳時代・・・本年度調査での新規発見はなかった。

古代・・・8遺跡を数え、その内7遺跡が縄文時代と複合する。ほとんどが土師器片の採集であり、平内Ⅳ遺跡では須恵器片が採集された。小片であるため断定できないが、平安時代のものが多数を占めると考えられる。古代の遺跡で特筆されるのは二十一平遺跡である。現汀線付近に所在し、製塩土器の他、支脚、被熱した礫の散布の状況から製塩遺跡であったと考えられる。古代の製塩遺跡としては岩手県で初めての確認事例となる。共伴する遺物が非ロクロの土師器片が1点のみなので、製塩土器の時期の特定ができない。八戸地域では9世紀後半から10世紀前半の範疇に入ると見られるものが多い。支脚については根城跡から底部に切り込みを持つ円筒状支脚が陸奥湾周辺～下北半島太平洋岸で見られる白砂式製塩土器と類似するが、二十一平遺跡では切り込みは見られない。また、底部の底面

に白砂式で見られる柱目は二十一平遺跡では見られない。残念ながら重機により遺跡はかなり破壊されたと見られ、調査・保存が必要である。

中世・・・製鉄関連の遺跡の確認と合わせ、中世城館についても留意して踏査を行ったが、新規発見はなかった。

近世・・・平内Ⅱ遺跡のみで、新規発見遺跡は登録上はなしとした。但し、不明とした9遺跡は全て鉄滓が採集された遺跡で製鉄関連として登録してある。前述のとおり、町内には近世に行われた製鉄跡、鍛冶場跡、密銭場跡が多数所在すると考えられる。ほとんど鉄滓のみであり、古代の製鉄関連遺跡の所在の可能性も考慮しなければならず、時代は登録上は不明としたが、ほぼ近世であると思われる。製鉄関連の遺跡についてはほとんどの遺跡が聞き取り調査によるものである。鉄滓の採集地の情報はまだ他にもあったが、掘削しても確認できなかった場所もあり、実物の採集地のみ登録したので、今後情報があつた所から採集できたり、新たに採集情報があることが考えられる。また、全ての沢を持つ山林を踏査できず、今後も新規発見される可能性が非常に高い。

今回の踏査で周知遺跡の範囲の訂正と未登録の遺跡を発見することができたが、その他にも土器や石器の採集情報が多数あり、今後も継続した補足調査が必要である。現状が山林になっており遺物を確認できなかった所が多数あり、遺跡数は今後も増加すると予想される。

時代区分	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	不明		
遺跡数	0	42	2	0	8	0	1	9		
(内 訳)	周知遺跡数	8	周知遺跡数	0	周知遺跡数	3	周知遺跡数	1	周知遺跡数	0
	新規発見遺跡数	34	新規発見遺跡数	2	新規発見遺跡数	5	新規発見遺跡数	0	新規発見遺跡数	9
	時代複合遺跡数	10	時代複合遺跡数	2	時代複合遺跡数	7	時代複合遺跡数	1	時代複合遺跡数	0

第 26 表 本年度調査区の時代別遺跡一覧表

種別	散布地	集落跡	貝塚	城館跡	古墳	製鉄関連	製塩	その他	
遺跡数	42	0	0	0	0	9	1	0	
(内 訳)	周知遺跡数	8				周知遺跡数	0	周知遺跡数	1
	新規発見遺跡数	34				新規発見遺跡数	9	新規発見遺跡数	0
	時代複合遺跡数	10				時代複合遺跡数	0	時代複合遺跡数	0

第 27 表 本年度調査区の種別遺跡一覧表

<参考文献>

- 種市町役場 1963 草間俊一 『種市の歴史』
- 田村栄一郎 1985 『みちのくの砂鉄いまいずこ』
- 角川書店 1985 『角川日本地名大辞典3 岩手県』
- 種市町教育委員会 1995 『種市のむかし』
- 小学館 1996 『日本地名大百科』
- 種市町 1996 『第二次種市町総合発展計画 はばたき種市21プラン』
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
- 溝手理太郎 2001 『市町村名語源辞典』 東京堂出版
- 君島武史 『東北地方の製塩土器(2) -二十一平遺跡と三陸沿岸の古代製塩土器-』 北上市立埋蔵文化財センター 2004
北上市立埋蔵文化財センター紀要 第3号
- 森 淳 『南部地域の古代製塩土器について』 青森県埋蔵文化財調査センター 2004 研究紀要 第9号
- 種市町教育委員会 2004 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 種市町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 種市町立歴史民俗資料館 2004 酒井久男 『種市町のむかし探訪』

報告書抄録

ふりがな	たねいちちょうないいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこくしよいち							
書名	種市町内遺跡詳細分布調査報告書 I							
副書名	角浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢）地区							
巻次								
シリーズ名	種市町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 2 集							
編著者名	千田政博							
編集機関	種市町教育委員会							
所在地	〒028-7914 岩手県九戸郡種市町23-27 TEL0194-65-2111							
発行年月日	西暦 2005年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にじゅういちたいい 二十一平遺 せき 跡他合計52 遺跡	いわてけんくのへ 岩手県九戸 ぐんたねいちまち 郡種市町	03502				20040901～ 20041206		遺跡詳細分 布調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	散布地 生産遺跡 (製鉄関 連・製塩)	縄文時代 (早期～晩期) 弥生時代 古 代 近 世		縄文土器・縄文晩期 後葉～弥生前期の 土器・土師器・須恵器・ 製塩土器・土製品・石 器・羽口・鉄滓・古銭				

種市町埋蔵文化財調査報告書第2集

種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ

<角浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢）地区>

印刷 平成17年3月25日

発行 平成17年3月30日

発行 岩手県種市町教育委員会

〒028-7914 岩手県九戸郡種市町23-27

TEL (0194) 65-2111

FAX (0194) 65-5926

印刷 川口印刷工業(株)八戸営業所

〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字谷地畑118-2

TEL (0178) 20-4340
